

郡山市立学校 SDG s 教育実践事例集



郡山市教育委員会
2022年4月

～ 郡山市立学校 SDG s 教育実践事例集 目次 ～

小学校編

1) 日和田小学校 2	18) 喜久田小学校 21	35) 富田東小学校 48
2) 高倉小学校 3	19) 熱海小学校 22	36) 富田西小学校 50
3) 行健小学校 4	20) 安子島小学校 23	37) 大槻小学校 51
4) 行健第二小学校 6	21) 守山小学校 24	38) 白岩小学校 52
5) 明健小学校 8	22) 御代田小学校 28	39) 東芳小学校 56
6) 小泉小学校 9	23) 高瀬小学校 29	40) 桜小学校 57
7) 行徳小学校 10	24) 谷田川小学校 35	41) 桑野小学校 58
8) 安積第一小学校 11	25) 金透小学校 37	42) 大島小学校 62
9) 安積第二小学校 12	26) 芳山小学校 39	43) 緑ヶ丘第一小学校 63
10) 安積第三小学校 13	27) 橘小学校 40	44) 小山田小学校 64
11) 永盛小学校 14	28) 小原田小学校 41	45) 大成小学校 65
12) 柴宮小学校 15	29) 開成小学校 42	46) 朝日が丘小学校 66
13) 穂積小学校 16	30) 芳賀小学校 43	47) 宮城小学校 67
14) 三和小学校 17	31) 桃見台小学校 44	48) 海老根小学校 68
15) 多田野小学校 18	32) 赤木小学校 45	49) 御館小学校 69
16) 河内小学校 19	33) 薫小学校 46	
17) 片平小学校 20	34) 富田小学校 47	

中学校編

1) 日和田中学校 72	10) 熱海中学校 83	19) 郡山第七中学校 93
2) 行健中学校 73	11) 守山中学校 84	20) 緑ヶ丘中学校 94
3) 明健中学校 74	12) 高瀬中学校 85	21) 富田中学校 95
4) 安積中学校 75	13) 郡山第一中学校 87	22) 大槻中学校 97
5) 安積第二中学校 76	14) 郡山第二中学校 88	23) 小原田中学校 105
6) 三穂田中学校 77	15) 郡山第三中学校 89	24) 宮城中学校 106
7) 逢瀬中学校 78	16) 郡山第四中学校 90	25) 御館中学校 112
8) 片平中学校 80	17) 郡山第五中学校 91	
9) 喜久田中学校 81	18) 郡山第六中学校 92	

義務教育学校編

1) 西田学園 114	2) 湖南小中学校 116
-----------------------	-------------------------

小 学 校 編

1 日和田小学校

1 学校での取り組み

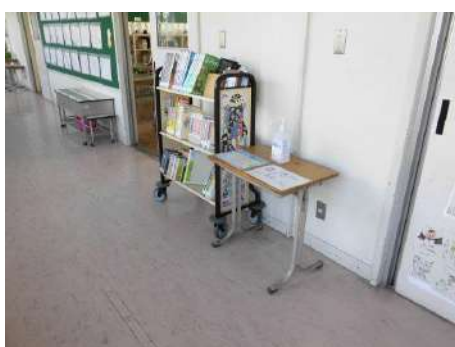
(1) 5年生の総合的な学習の時間、国語科での取り組み

- ・出前講座でSDGsの概要等を学ぶ機会を設けた。
- ・ポスター等を作成し、校内に掲示し、全校生に呼びかけた。



(2) 学校図書館と連携した取り組み

- ・図書を学年のコーナーに設けるなど読みやすい環境を整えた。
- ・SDGsにつながる(つながっている)図書を学校司書が知らせてくれた。



(3) 入学式や卒業式での男女別の男子〇名、女子〇名のアナウンスを止めて、計〇名のみのアナウンスにするなど、教職員側もSDGsについての意識化を具体的に進めている。

2 取り組みの成果

- (1) 「福島議定書」での取り組みで、実際に二酸化炭素の排出量が13%削減した。
- (2) 学校評価アンケートで児童の環境等への意識の高まりが見られた。

2 高倉小学校

1 学校全体でSDGsの意識を高める取組

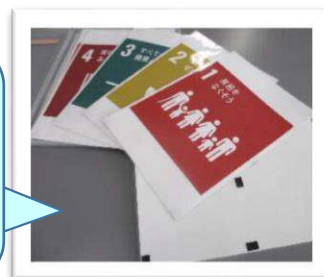
(1) SDGsを知る

○ SDGsの意識化と教具の開発

- ・ SDGs 17の目標を各学級に掲示し、子どもたちがSDGsを身近なものとして考えられるようにしました。また、17の目標を1つずつA4サイズに加工（SDGsカード）し、各教室に配置しました。各教科等の指導において、SDGsとの関連性が高い内容の場合、掲示を行い日常的な意識化を図っています。



常にSDGsが、「見える環境」で学ぶことで、通常の教科等の学習でも、SDGsの視点で考えることが増えました。



(2) SDGsを考える

○ 日常的な「できること探し」（3年）

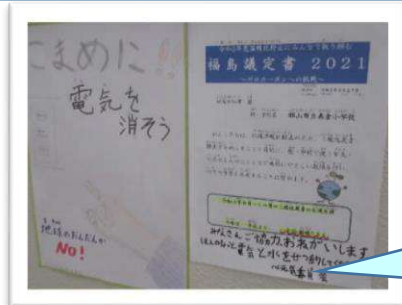


- ・ 自分にできることを思いついたときは、すぐに付箋に記録し貼る、「SDGs学習コーナー」をつくりました。日常的、継続的に考えることを重視しました。

「給食をなるべく残さない」「電気をこまめに消す」など、子どもの目線での「できること探し」を続けています。

(3) SDGsを行動する 目標13「気候変動に具体的な対策を」～地球温暖化防止～

○ 自分達でできることを話し合い、実践（こころ元気委員会）



- ・ 「福島議定書」では、児童会「こころ元気委員会」が中心になって「二酸化炭素排出量昨年度比2%削減」の目標を設定しました。また、節電やエアコンの温度調整など、具体的な提案をしました。

自分たちで目標を設定したり、ポスターをつくったり、温暖化防止を自分事と捉えて、主体的に関わる姿がありました。

2 成果

- 教科等の指導において、SDGsとの関連を意識することが増えた。5年社会科「わたしたちの生活と森林」では、目標15「陸の豊かさを守ろう」のSDGsカードを掲示し、接続可能な森林経営の視点で考えを深めていくことができた。
- 児童会「こころ元気委員会」の呼びかけは現在も続いている。また、自ら進んで電気を消したり、給食の残菜がほとんどなくなったりとSDGsへの意識の高まりを感じる。

3 行健小学校

○総合的な学習の時間（5年生）「SDGsを考えよう」

（1）単元の流れ

①SDGsってなんだろう。

- ・郡山市政きらめき出前講座「SDGsって何？」をオンラインで受講し、SDGsは全世界で取り組んでいることや、自分たちの生活とも深い関わりがあることに気付くことができた。



クイズなどもあり、
楽しみながらSDGs
sについて学ぶこと
ができた。

②SDGs 17の目標から、興味を持った内容について調べ、現状と課題を知ろう。

- ・インターネットや図書館の本などで調べ、ワークシートにまとめた。



③SDGs 目標達成に向けて、自分たちにできることを考えよう。

- ・学校でできること、家でできること、みんなで取り組むこと、自分で取り組むことを分けて考え、実践計画を立てた。

④SDGs 目標達成に向けて、自分たちにできることを実践しよう。

- ・計画したことを実践し、カードに記録した。



⑤SDGs目標達成に向け自分たちにできることを、みんなに呼びかけよう。

- ・ポスターやプラスチックごみでオブジェなどを作成・掲示して、協力を呼びかけた。



ごみの分別を呼びかけるポスターを作成し、校内に掲示した。



節水を呼びかけるポスターを作成し、手洗い場に掲示した。

⑥新聞にまとめ、学習したことを発表しよう。

- ・各自の学びや気づきを新聞にまとめて発表した。互いの発表のよさを認め合い、今後の継続的な意欲付けを図った。



(2) 成果

- Zoomの出前講座は、様々な資料や映像を用いて小学生にも分かりやすい内容だったので、子どもたちは、SDGsへの興味や関心を高めることができた。
- 子どもたちは、それぞれ興味を持った内容を詳しく調べる中で、自分たちの生活と世界中の人々の生活がつながっていることに気づき、物の見方や考え方の視野を広げることができた。
- ジェンダーの平等など、今まで知らなかった問題への理解を深め、多様な考えや人々を受け入れようという雰囲気が育ってきた。
- 身近にできる取り組みとして、給食の残食を減らすことやプラスチックごみの分別を行った。どちらもみんなですぐにでき、達成できたかどうか視覚的にも分かりやすかったので、意欲的に活動できた。
- 学習したことを、一人ひとり新聞にまとめて発表した。子どもたちは、自分とは違った見方や考え方に気付いたり、別の目標に向け、新たな関心を持つきっかけになったりした。

4 行健第二小学校

1 食品ロスへの取り組み

目標1「貧困をなくそう」目標2「飢餓をゼロに」目標12「つくる責任つかう責任」

○ 対象学年 第5学年

○ 教科 総合的な学習の時間

テーマ 見つめよう「食」～人と食との関わりを通して～

○ ねらい

食品ロスの原因や食品ロスの問題と世界の課題とのつながり、自分自身の関わりについて考える活動を通して、課題解決のためにできることを考え、これからの生活に生かしていこうとする意欲高める。

○ 指導計画 (総時数 34 時間)

(1) オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間

○地域と食を関連させて食のイメージマップを作成する。①

(2) 課題の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 時間

○「米チーム」「食チーム」に分かれて調べたいことをマンダラチャートに書き込む②～⑤

(3) 追究活動Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 時間

○田植え体験⑥～⑦

○「米チーム」米の歴史、種類、加工食品、給食の食べ残し、SDGsとの関連など。

○「食チーム」食品ロスの原因、野菜の皮を使った料理、学校給食の食べ残しなど。

⑧～⑭

(4) 追究活動Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 時間

○中間発表⑮～⑯

○玉ねぎの皮を使って草木染め体験⑰～⑱

○稲刈り体験⑲～⑳

○海を脅かすマイクロプラスチックと食との関連について自分たちにできること㉑

○食品ロスの現状と自分たちにできること㉒ (本時)

(5) まとめと発表の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 時間

○二小発表会にむけての準備㉓～㉔

(6) 発表と実践活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 時間

○二小発表会とふりかえり㉕～㉖

「玉ねぎの皮で草木染め体験」



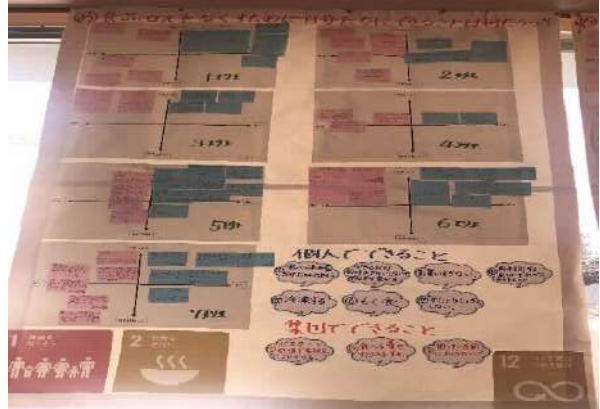
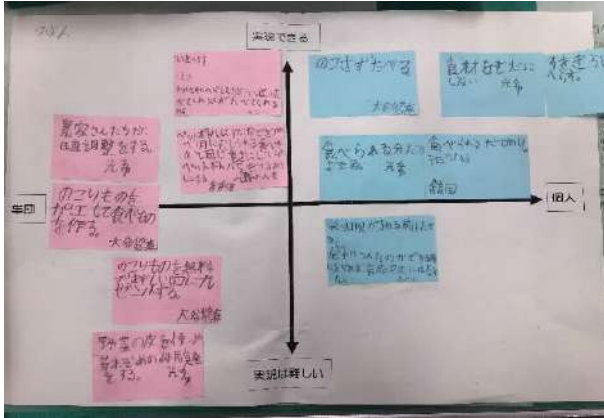
「残飯でせんべい作り体験」



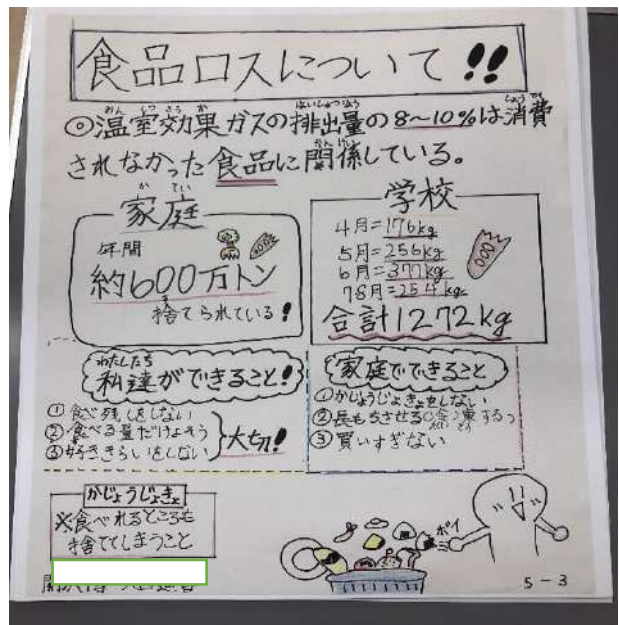
「二小発表会」



「座標軸を使った話し合い活動」



「校内に発信したポスターとちらし」



「給食委員会で作成したポスター」

2 成果

- 「食チーム」からの提案で、玉ねぎの皮を使った草木染め体験を行った。この体験は、食品ロスについて考えを深めるきっかけになるものとして大変有効だった。
- 子どもたちは自分もっている様々な情報を食品ロスと結び付け、知識や考えを出し合っていた。「給食で残されている残菜を何とかしたい」と自分事として捉え、ポスターやちらしの作成、さらに二小発表会でのプレゼンを通して、全校生や保護者に発信することができた。この取り組みをきっかけに、クラスや全校の残菜量が減少したことが大きな成果と言える。

5 明健小学校

総合学習の時間の活用

SDGsについて1～17の目標のチームを組んで調べ、小学生である今の自分たち、そして2030年へ向けて未来の自分のできるアクションをまとめ、発表した。

12 作る責任 使う責任	自分達に出来る事	現状
<p>世界で生産されている食品の約3分の1が捨てられている。</p> <p>↓</p> <p>生産者も消費者も地球の環境と人々の健康を守るよう、責任のある行動を取ろう！</p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>ゴミを出すことを減らしたり、思いやり、リサイクルしたり、リユースしたりして、ゴミを減らす。</p> <p>10月30日を「食品ロス削減の日」とし、食品ロスを減らす。</p> <p>持続可能な生産消費形態を確保する。</p>	<p>本来食べれるのに捨てられてしまう、食品ロス。</p>

ガチでヤバい世界の現状

これを抑えるためには

- 一人一人が意識する。
- 食べ物の住む場所と命を奪わないようにする。
- 食べ残しなどのおかずを運ぶときは、みんなが食べられる量を買う。
- バイクは、身が重たいから決められた量しか食べない。

目標13	現状	自分達にできる事
<p>気候変動に具体的な対策を</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>地球温暖化</p> <p>長期目標2℃ラインまであと 1.15℃ 努力目標1.5℃ラインまであと 0.65℃</p> <p>危険ラインを越えたら？ 危険ラインの2℃は、人間がなんとか自然と共存して耐えられる限界レベルといわれており、極めて危険な状態です。</p>	<p>冷暖房機に頼らない</p> <p>コンセントを抜いたり、電化製品の主電源をこまめに切る</p> <p>緊急時の連絡方法を家族で決めておく</p> <p>自分の避難場所や避難場所までの行き方を確認する</p> <p>熱中症にならないようにこまめに水分補給する</p> <p>熱中症にならないようにこまめに水分補給する</p>



成果○ と 課題▲

- SDGsのテーマ毎に、チームを組んで調べた。しかし、調べる過程の中で食品ロスや電気の節約等が気候変動へとつながっていることなど、世界の改善すべき現状はつながりあって大きな問題になっていることに気付くことができた。
- 調べていく中で、SDGsの問題は、今までの社会科の食品問題の学習や理科の防災の学習とつながっていることなど、教科とのつながりにも気付くことができた。
- ▲ 大きな問題だからこそ、自分たちで解決しなければならないという思いをもつことはできたが、その解決に向けては、いつ、だれと、どのくらいの期間、協力したらよいのか具体的なアクションプランと、その活動までには至らなかった。

今後は、地域住民や企業とのタイアップを取り入れた学習過程を工夫し、SDGsに関する具体的な活動に関して、外部の方から評価いただくような取り組みを展開していきたい。

6 小泉小学校

すべてがSDGsの資質・能力の育成につながる体験活動

(1) 目標3「すべての人に健康と福祉を」



【薬物乱用防止教室】



【生命尊重授業】

(2) 目標4「質の高い教育をみんなに」



【和楽器体験学習】

(3) 目標6「安全な水とトイレを世界中に」



【下水道講座】

(4) 学習発表会（小泉フェスタ）による保護者への発信

①目標3「すべての人に健康と福祉を」

②目標14「海の豊かさを守ろう」



成果

- 学校教育目標実現のために「学びづくり」「心づくり」「体づくり」を三本柱として、SDGsの資質・能力の育成と関係づけながら教育活動を実践してきた結果、三本柱に対する児童アンケートでは、4段階で3.5～3.8と肯定的な回答が多かった。
子どもたちは同学年ばかりでなく、異学年の児童ともふれあいながら、健康で安全な学校生活を送ることができていた。
- 保護者アンケートでの体験活動の項目では、4段階で3.6との結果であった。保護者は、その体験が子どもたちにより効果をもたらしていると感じている。

7 行徳小学校

<教科横断型 SDGs 授業実践>

月 日：6月14日～6月28日

教 科：社会科（5年）

単元（題材）：あたたかい土地のくらし

取り組んだこと

1. 沖縄のイメージマップから、良さや問題点に気づき、学習課題をつくる。
2. あたたかさを生かした産業や観光を調べる。
3. SDGsの視点から、沖縄が抱える問題点について考える。
4. 学習を生かし、沖縄の人々の知恵や工夫を伝えるCMをつくる。

活動の様子

1 時目



2 時目



沖縄について調べ自然や文化のすばらしさに気づく。暖かい気候を産業に生かしている。

3 時目

沖縄県は台風が多いので暮らしの工夫をしているのがわかりました

台風



沖縄県の土壌に多い赤土が開発によって海に流れ込むと、海の環境を悪化させることがある。

自然破壊



SDGsの視点で沖縄の課題について理解できた。

水不足に備えて屋上に貯水タンクがあるのを初めてわかりました

水不足




わたしは、...のきさなどについてやりたいです。考えは、まわりにきさがあるとまじく、わくわく感を感じられないのではと思います

ま、では、3番と4番と16番と18番にあてはまると思います。 **基地問題**



4 時目



学習を生かし、CMづくり。発表。

単元のまとめ SDGsの視点で沖縄をどうしていきたいのか自分の考えをまとめる。

成果

- SDGsの視点で物事を捉えようとする意識が高まり、17の目標のどれに当てはまるのかを自分たちで考えて学習に取り組むことができた。

8 安積第一小学校

第5学年総合的な学習の時間「SDGs 調査隊」

(1) 調査・探究活動

- SDGs 17 の目標の中から、児童が自分の興味に基づいて1つの目標をテーマとして選択し、個人または小グループで調査活動を行った。
- 学校図書館の図書資料やネット検索により、各目標のターゲットを調べたり、生活の中で自分たちにもできることを考えたりした。

(2) まとめ・表現活動



- 調査したことは、ロイロノートを使ってプレゼンテーションができる形にまとめた。発表会での情報交換を前提とすることで、目的意識をもってまとめることができた。
- 授業参観や4学年に向けての発表会をすることで相手意識が高まり、自分たちの活動をさらに広めようとするきっかけになった。

(3) 情報の発信

- 全校生にSDGsを意識した生活の必要性を知らせるために、情報の発信を行った。
- SDGsのCM動画を作り、お昼の放送で流すことで全校生に視聴してもらうことができた。特に、SDGsの意味と節電や節水、給食の食品ロスを減らすことに焦点をあて、全校生に取り組んでもらえるように内容を工夫して放送した。
- SDGsすごろくやカルタを作り、遊びながらSDGsの理解を深められるようにした。休み時間に1年生と一緒に遊ぶことで、1年生もSDGsの内容にふれることができた。
- 委員会活動での取り組みにも広がり、エコ委員会では校内で必要のない電気を消すことを呼びかける放送を行っている。



成果

- SDGsの理解が深まったことで、他教科等との横断的な学習に発展させることができた。特に、国語科では「グラフや表を用いて書こう」「あなたは、どう考える」の単元で、SDGsでの学びを生かした文章を書く児童が多く見られた。
- 学習の記録を累積し学びの振り返りができるようにしたことで、児童が自らの学習結果のよさや成長に気付くことができた。また、教師は児童の変容を確実に見取り評価することができた。
- 現在の学校生活でも、手洗い中に水を止めること、ろう下やトイレの照明をこまめに消すこと、給食を残さず食べることなど、自分たちにもできることを実践している。
- 家庭でもSDGsを意識した生活をしている。

月日	曜	活動内容	◎よくできた	○まあまあ	△もう少し	◎
10/7	木	発表で使うスライドを作る	今日もスライド作りの練習をしました。やはり、分岐が分かりやすいようにするのは難しいです。もう少し頑張りたいです。			◎
10/13	水	発表で使うスライドを作る	スライドがほとんど形になってきました。次からは、発表で使うゲーム作りもしていければいいなと思いました。			◎
10/14	木	発表で使うスライドを作る	友達のスライドを少し見せてもらって自分のスライドを直したりしました。今日の			◎

冬休み明けの通知票：保護者からの通信欄より

- ・ 普段の生活の中で、SDGsを意識している姿が多く見られました。
- ・ SDGsの学習をしてから、家庭でも節電やフードロスをなくすことに取り組むようになりました。

9 安積第二小学校

6年生総合的な学習の時間「SDGsについて考えよう」

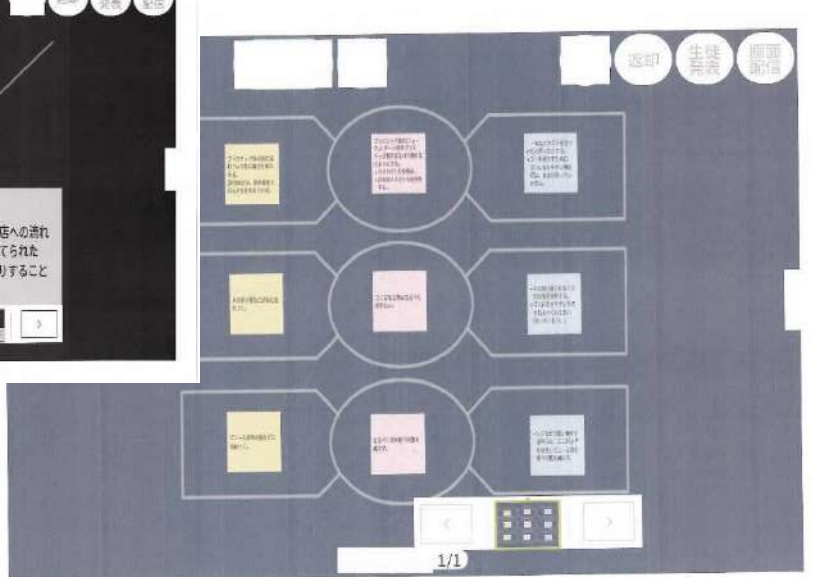
(1) 課題設定

SDGsとは何かという問いについて図書室で本で調べることから入った。

17項目の大きな目標から自分が興味をもつ課題を決めさせた。

(2) 探求活動

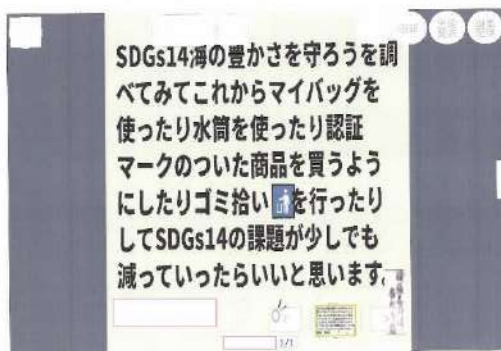
- ・ インターネット、図書資料、小学生新聞などの資料をもとに調べ活動を進めた。
- ・ 同じ課題の児童同士で情報交換をしたり、資料の共有をしたりするなどして進めた。
- ・ 児童が互いの進捗状況や情報を交換する際にロイロノートを活用して互いの考えを効果的に交流することができるようにした。



(3) 発表会

2学期の終わりに学級単位で発表会を行った。

ロイロノートで発表用のフリップを作成し、同じ目標の児童で順番や共通していることなどを整理して発表することができた。



成果

- 17の項目に分かれてグループごとに活動をしたことで、「SDGs」という世界的な取り組みについて理解を深めることができた。
- 新聞を積極的に活用したことで、日常生活においても新聞に親しむことが増えたという児童が多くなった。

10 安積第三小学校

目標 12 「つくる責任 つかう責任」 エコキャップ運動の取組

- 対象学年、委員会
ボランティア委員会
- 具体的な取組、活動内容
 - ・ 委員会の呼びかけ
 普段飲んでいるペットボトル飲料の小さなキャップが、困っている人を救う大きな役目を持っていることを知らせた。
 世界には困っている子どもたちが沢山いること、ワクチンを打って病気を防げることは当たり前のことではない事を知らせた。



ボランティア委員会からのお知らせとお祝い
令和4年2月 安積三小 ボランティア委員会

安積三小ボランティア委員会では、エコキャップ回収を行っています。

集めたエコキャップは、リサイクルする会社を買ってもらい、そのお金で、世界の子どもたちのために、病気を予防するワクチンを届ける活動を支えています。

これまで、空き缶のプルタブも回収していましたが、学級の数が増え、保管しておく場所を確保するのが難しくなってきたため、プルタブの回収は行わないことになりました。現在集めていただいている分は、回収しますので、夏休みまでに持たせてください。
2学期からは、プルタブの回収を行いません。

【エコキャップ回収についての注意】

- ① ペットボトルのキャップは少量でも大丈夫。時々、他の飲み物や調味料のキャップが混じっていることがあります。
- ② 甘い飲み物や色のついた飲み物は、時間がたつと、色が変ったり、カビが生えたりしてしまい、回収後の処理がとても大変になるそうです。きちんと水洗いをし、よく乾かしてから学校に持たせてください。

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



ボランティア委員会からのお知らせ

令和4年2月
安積第三小学校ボランティア委員会

今年度も協力ありがとうございました。みなさんのご協力により、以下のような結果になりました。来年度も引き続きプルタブ、エコキャップ、ベルマークを集めます。ご協力よろしくお願いいたします。

☆エコキャップ
 ・1月27日寄託 250kg (ワクチン 125人分)

成果

- 保護者にもエコキャップ運動を呼びかけたことで、家庭でも運動に関心を持ってくれてたくさんキャップを集めることができた。
- キャップばかりでなく、ペットボトルの分別にも気をつけるようになり、資源を大切にする意識が高まった。

11 永盛小学校

目標 12 「つくる責任 つかう責任」 全学年 給食指導

- 本校では、校舎の長寿命化工事に伴い、給食室も工事対象となった。そのため、今年度は2学期より、自校給食ができなくなった。お弁当給食となったのだが、温かい汁もの等の提供が難しくなったこともあり、残菜が増えてしまった。栄養士さんや給食主任、弁当給食納入業者と幾度となく話し合い、献立の工夫を図ったが、限界があった。
- そこで、「少しでも好き嫌いを減らし、残菜を少なくすることが、持続可能な社会に役立つ」という、SDGsの視点を踏まえた指導を、各学級で、児童の発達段階や実態に応じて行ってきた。
- その一端として、家庭科室前にはSDGsに関する掲示をして、児童への啓蒙を図った。



成果

- しっかりとデータをとったわけではないが、残菜の量は、取り組み前よりは減ってきたように思われる。
身近な問題や児童の実態を、SDGsの視点から見つめたり、様々な教科学習や学校生活の中でよりSDGsを意識させたりして、これからも取り組んでいきたい。

12 柴宮小学校

目標4「質の高い教育をみんなに」 SSRの実践

- 本校には、不登校傾向や不登校気味の児童が複数名在籍している。また、通常学級に在籍しているものの学びにくさを感じ、積極的に学習に参加できない様子の児童も学年をまたいで、複数名みられる。

そこで、その課題を少しでも改善できるように、通級指導補正（SSR）を活用しながら、児童やその保護者の方との関わりを通して、連携を深めている。児童や保護者の方の思いに寄り添い、少しでも学びにくさを改善できるように、校長及び通級指導補正（SSR）を中心に、学校をあげて取り組んでいるところである。

① 学校の現状・課題

- 本校には、不登校傾向や不登校気味の児童が複数名在籍している。また、通常学級に在籍しているものの学びにくさを感じ、積極的に学習に参加できない様子の児童も学年をまたいで、複数名みられる。

そこで、その課題を少しでも改善できるように、通級指導補正（SSR）を活用しながら、児童やその保護者の方との関わりを通して、連携を深めている。児童や保護者の方の思いに寄り添い、少しでも学びにくさを改善できるように、学校をあげて取り組んでいるところである。

② 活用方針

- 不登校傾向の児童や学習環境が整わない児童に対し、学習の機会や場所が提供できるようにする。

その個に応じた学習環境の場の設定やその子の思いや保護者の方の願いに沿った学習の場が提供できるようにする。また、通常の学級に在籍しながらでも、SSRに通級し、「学びたい」という思いをもつ児童の学習支援ができるようにする。

※児童が自分なりに目標をもって学習に取り組めるよう、安心して学べるように環境づくりの面から支援を進めていく。



学びにくさに沿った支援の様子
→SSRに通級する児童どうしの交流がみられるようになった。

【↑ 個別に学習を進めるブース】

【↑ 個別の支援計画に基づく支援ブース】

成果

- ① 不登校傾向の児童の実態に応じた学習の場や関わり方を計画的に進めたことによって、不登校の状況が改善され、学習に興味をもったり学校生活に目標をもったりすることができた。また、そのことが保護者の方との信頼関係の構築につながった。

課題

- ① 様々な課題を抱える児童の実態もあり、今後も、学校をあげて児童に寄り添った「学び」の支援が行えるように、学校全体で取り組んでいくようにしたい。

1 社会科、理科、総合的な学習の時間、プログラミング教育において、SDGsの17の共通目標との関連が明記してある内容について確実に指導した。

【効果】

- SDGsに関連する指導を行った授業については、月案にピンクのマーカーで囲むようにし、参考になることがあれば記入するようにした。校長として進行管理ができるとともに、学期ごとに成果と課題を共有することができた。次年度の教育課程編成の際にも活用していきたい。

2 児童がSDGsの実現に向けて取り組むことができるような場の設定を行った。

【効果】

- 児童会で「自分たちにできることは何か」を話し合い、全校集会で「リサイクル・リユース」「節電・節水」の呼びかけを行うなど、主体的な姿が見られるようになった。児童からの呼びかけであったので、全校生一人一人が「自分もがんばろう」という気持ちが高まった。

3 学校だよりやホームページを活用してのSDGsに関する取り組みの紹介や、授業参観等における発表の機会を設定した。

【効果】

- 家庭においてもSDGsについて考えることが多くなり、家庭や地域とともに目標を共有して一体となって取り組む体制づくりができた。

4 「SDGsコーナー」を児童昇降口に設置して、児童の意識化を図った。

【効果】

- 本校のSDGsへの取り組みをふり返ることができ、ちょっとしたことでも「こんなことに役立っていたんだ」など達成感を味わうことができた。また、次の活動への意欲にもつながった。

【今後の課題】

- SDGsに関係する内容について広く学ぶだけでなく、学校や地域の実情、児童の実態、発達段階、教科等との関連において、特に取り組ませたい内容の重点化を図り、意図的・計画的に指導していきたい。



児童による全校集会での呼びかけ
児童の主体的な取り組みができた。



家庭への趣旨説明と協力依頼
学校だよりを通して、SDGsへの取り組みの趣旨について説明し、家庭での協力もお願いした。



児童昇降口の「SDGsコーナー」
本校の取り組みが紹介されている。

14 三和小学校

1 目標11「住み続けられるまちづくりを」

～地域の特色と地域の名人から地域を愛する人づくりの取り組み～

- 2年生活科「まちたんけん」 千本桜・祇園清水・八雲神社・宗福寺・普賢寺等の探検
- 3年総合「地域の名人とふれ合おう」 地域名人から技を教わり地域人のよさに触れる。
- 4年総合「民話に親しもう」 地域に伝わる民話を聞き、民話に込められた先人の思いや願いに触れる。
- 運営委員会「エコキャップ集め」



【2年 まちたんけん】



【3年 地域名人から「よさこい」を教えていただく】



【4年 民話を聞く→「学習発表会」三穂田町に伝わる民話を覚え、方言を使って披露】



【1・2年 地域の方と「だんごさし」】【地域の方の協力を得て集まったエコキャップ】

成果

- コロナ禍で制限はあったが、6年間を通して自分たちの生きる地域を学ぶことで、地域を理解し、自分たちができることを考えたり、実行にうつしたりしながら、地域を深く思うきっかけとなっている。
- 地域の「ひと・もの・こと」について探求的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考えるようになってきている。

15 多田野小学校

目標4「質の高い教育をみんなに」 地域産業の理解

- 第5学年 総合的な学習の時間
- 活動の概要

第5学年では、総合的な学習の時間に地域学習として「食と農業」について学習してきた。出前講座で郡山ブランド野菜の生産者であり野菜ソムリエの藤田浩志さんを講師に招き、「郡山ブランド野菜」の誕生の秘密や生産する上での様々な工夫や苦労などの生産者の思いを知る機会となった。さらに、「郡山の農業」が「SDGs」の取り組みにもつながっていること、そして、震災復興と地域産業の発展のために、地元で逢瀬ワイナリーが誕生したことを子どもたちは初めて知ることになった。地元にある逢瀬ワイナリーについて興味・関心が高まった子どもたちのために、講師の藤田さんが逢瀬ワイナリーに交渉をしていただき、初めてワイナリー見学が実現した。子どもたちは施設見学や農園の収穫体験を通して、逢瀬ワイナリーは地元の生産者と施設が一体となって運営していることを理解し、生産者の思いや農業の魅力、地元のよさを再認識する契機となった。



成果

- 今回学んだことをミニ多田野ワールド（学習発表会）で一人一人が保護者に発表することで、「食と農業」に関係して今後SDGsの実現に向けてどんなことを努力していかなければならないかを訴えることができた。保護者も逢瀬地区の魅力を発見したり、SDGsの理解を深めたりすることにつながった。
- 郡山ブランド野菜の生産者の思いに触れ、地元の農業の取り組みについて理解を深められたこと、更に地域の産業のよさを体験し、食について具体的にどのように取り組んでいけばよいかを認識する機会となった。

16 河内小学校

河内小学校では、今年度の実践目標を、『児童がSDGsについての理解を深め、生活の中で自分にできるSDGsを実践することを通して、相手意識を高め、思いやりの心やきまりを守る心の育成』とした。

(1) SDGs についての理解を深めるための実践

- ① SDGs コーナーの設置 ② 関連図書の配置



(2) 自分にできるSDGsの実践

① 共通実践項目の策定

- ノートや筆記用具を大切に使う 電気をこまめに消す
- 給食を残さず食べる しっかり掃除をする
- 自分や友だち、家族や生き物すべての命を大切に使う 等



【残菜0作戦 目標12】



【見えないゴミも 目標11】



【資源物回収 目標12】



【ペットボトルキャップ集め 目標12】

成果と課題

- SDGsに関心を持ち、普段の生活が未来の持続可能な社会につながることに理解が深まり、自分にできることを実践しようとする児童が増えた。
- SDGsについて学んだことや実践したことが、その場止まりになっており、主体的な行動や発信、交流などをどのように展開していくかが課題である。

SDGsに基づく学校教育の取り組み

○ 教職員がいかに意識して実践できるか、実践しているかがカギ

本市の方針「SDGsを郡山の子どもたちから」を受け、学校運営ビジョン、教育課程に位置付け、教育活動全体を通したSDGs推進に力を入れてきた。

【授業でのSDGs】

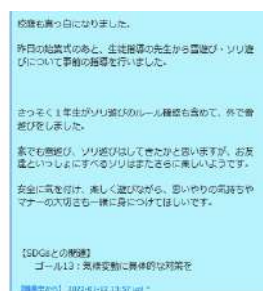
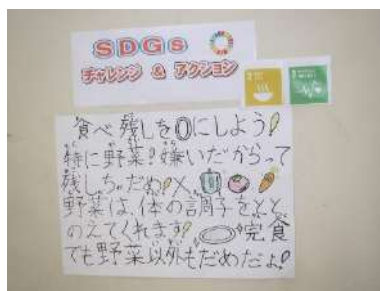
- ・授業では5年社会科、3年学活、全学年の総合でSDGsを意識して授業を行った。
- ・SDGs 17ゴールの目標掲示カードを全学年全学級に準備した。
(1年生からSDGsゴールとの関連付けを日常化している。)
- ・授業の中で関連付けを図り、子どもたちに意識を持たせるようにしている。
(授業で+ひとこと「SDGsとの関連は？」)

【授業外でのSDGs】

- ・キャリア教育、国際理解教育、UD講座等でSDGsとの関連を考えさせる。
- ・児童会活動(委員会活動)に取り入れたり、積極的に校内掲示したりしている。
- ・コミュニティスクールの指定を受け、小中共通にゴール11「住み続けられるまちづくりを」に焦点化(重点化)を図り、「持続可能な地域の担い手としての人づくり」に向けて地域一体となって取り組んでいる。
(サツマイモ収穫祭、イチゴ農園見学、まちたんけん、茶道教室、書道教室、ヒップホップ教室など、地域の方々の学校教育への参画を通してSDGsについて実践と考えを深めている。)

【SDGsの情報発信】

- ・学校HPに、学校の様子や各教育活動とSDGsとの関連付けを表記している。
- ・校内掲示等の工夫により17のゴールを見なくても言える子どもも増えてきた。



18 喜久田小学校

目標 12 「つくる責任 つかう責任」 食品ロスの取組

(1) 児童会「給食委員会」の取組について

(2) 具体的な取組、活動内容

① 目的

給食の残菜をなくすために、給食委員会としての取組を考え、実行する。

② 活動内容

○ 昼の献立発表放送で、残さず食べることを繰り返し呼びかける。

○ 配膳室で、戻ってきた各学級の食缶を給食委員会児童がチェックし、残菜の量を記録用紙に書いて学級に届け、残菜を減らすことを意識させる。

○ 給食調理員は、児童が食缶を返却に来た際に、残菜がなかったら称賛するなど、日々の励ましを継続する。

○ 給食委員会担当教職員は、昼の放送で食材の大切さを折にふれて呼びかける。また、「給食は、配膳の時にすべて分けきる。」等の具体的な呼びかけを継続する。

③ 活動に取り組む写真



成果

(1) 給食委員会の児童と教職員が、同じ目的に向かって協力して取り組み、残菜の減少という結果を共有できたことが大きな成果であった。さらに、全校生の意識を高めるような取り組みは、他の活動にも波及していくことが期待される。

19 熱海小学校

目標 14 「海の豊かさを守ろう」 地域にエコバックを広めよう

目標 11 「住み続けられる町づくりを」 地域のお年寄りを元気にしよう

○ 対象学年 石筵分校 1年生～4年生

○ 具体的な取組、活動内容

- ・ 石筵分校秋祭りに向けて、子ども達が地域の課題解決について考え、取り組んだSDGsの実践。
- ・ 自分達でできる環境を守る取り組みとして、藍染めのエコバックづくりを考え、分校の児童全員で製作に取り組んだ。
- ・ 地域の高齢化が進み、家庭にいる多くのお年寄りがコロナ禍で寂しい思いをしていることから、地域のお年寄りを元気にしようと、自分達の踊りや太鼓の演奏をお年寄りの方々の前で披露しようと計画した。
- ・ 石筵分校秋祭りの日に、地域のお年寄りを神社の境内に招待し、練習してきた踊りと太鼓を演奏して披露した。
- ・ 来ていただいたお年寄りに、手作りのエコバックをプレゼントし、使ってもらえるようにPRした。

○ 地域に発信したチラシ



【エコバック作り】



【境内で披露した踊りと太鼓の演奏】



【エコバックをプレゼント】

成果

- 子ども達は、自分達で企画し、実践した秋祭りのイベントで、地域の課題に向き合い、自分達ができる環境保全への思いと、お年寄りを思う気持ちを伝えることができた充実感にあふれていた。
- 地域の方々が分校の取り組みに理解を深めることにつながり、子ども達への感謝の言葉をかけてくれるなど、地域と共にある学校づくりに貢献する活動になった。

目標 12「つくる責任 つかう責任」

目標 14「海の豊かさを守ろう」

○ 第3・4学年複式学級 総合的な学習の時間「ミラクルピカピカ大作戦」

○ 具体的な取組とそのきっかけ

通学路に捨てられるゴミをなくしたいという児童の思いから始まった活動が、ゴミを拾い集めることを通して、自然を守る大切さに気付く。さらに、テレビでゴミ拾いを行う活動に共感し、一緒に活動することで意欲を高め、継続的な活動となっている。



○ 活動内容

- ・地域の方部ごとにゴミ拾い ・地域の高齢者施設訪問の行き帰りにゴミ拾い
- ・安子ヶ島駅に「ゴミを捨てない」お願いのポスター掲示

○ 校外に発信したポスター

ゴミをなくす啓蒙のためのポスターを製作し、駅の構内に掲示する許可をJR東日本の助役さんに3・4年生が依頼。



○ 活動に取り組む写真



成果

○ 児童の変容

地域をきれいにしたいという児童の思いから、地域のゴミ拾いを始めた子どもたち。ゴミ拾いを通して「ゴミの分別」や「ポイ捨てをさせない」と問題を解決する方法を考えていった。特に4年生は社会科の「ゴミの処理と利用」の学習を通して、ゴミの分別を考えることで、SDGsに掲げてあるプラスチック製品が海を汚していくことに気付き、ゴミ問題と自分たちのつながりをさらに明確にもつようになった。



それらの思いを保護者や地域に知らせるために「学習発表会」では劇での発表を考え、「ゴミ問題」を表現し、参観者に呼びかけを行った。SDGsだから・・・と考えるのではなく、SDGsを活用し、自分たちの生活とのつながりで世界の問題を意識することができた実践である。

21 守山小学校

「SDG sを学ぼう」 SDG sコーナーの設置

- 対象学年
全校生

- 具体的な取組、活動内容

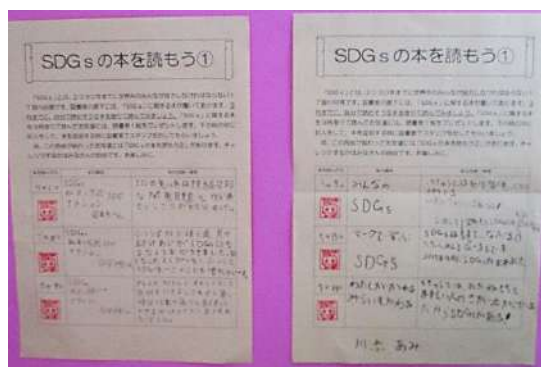
(1) SDG sに関する図書コーナーの設置

図書書室入口にSDG sに関する図書を紹介する特設コーナーを設け、学校司書が児童に向けて、SDG s（持続可能な開発目標）の背景や理念を分かりやすく理解できる図書を選定して紹介した。



(2) SDG s 図書紹介カードの作成

SDG s 図書を読んだ感想を紹介できるカードを作成し、子ども同士でおすすめのSDG s 図書の紹介を行った。書かれたカードは掲示し、他の児童が参考にできるようにした。



(3) 「未来のためにできること」コーナーの設置

自分が頑張りたい「未来のためにできること」にシールを貼るコーナーを設け、子どもたちのSDG sへの興味・関心を高める工夫を行っている。



○ SDGsコーナー全体像



○ SDGsの図書を手に取る子どもたち



成果

- SDGsに関する図書コーナーを設置したことで、SDGsの図書を手に取る機会が増えた。SDGs図書紹介カードを作成することで、子ども同士で、図書を薦め合う姿が見られ、常時貸し出し中となるほど大人気だった。
- 未来のためにできることコーナーを作ったことで、自分の頑張りたい目標を示すとともに、友だちがどんな目標に興味を持っているのかが一目で分かり、「この勉強ってゴールの〇〇に繋がるんだよね」などと、自分たちの生活とSDGsとの関連に目を向けることができるようになった。

目標 11 住み続けられるまちづくりを

～少年消防クラブの取り組み～

○ 対象学年

第6学年 少年消防クラブ

○ 具体的な取組、活動内容

(1) 少年消防クラブ結団式

今年度新たに少年消防クラブを発足。「目標 11 住み続けられる安心安全なまちづくりを自分たちの手で」を合い言葉に、校内はもちろん、家庭からも火災を出さないようにするための防災意識を高めるために、最上級生である6年生が毎年クラブ員に任命されるようにした。



(2) 火災防止の呼びかけ

秋の火災予防運動期間、空気が乾燥し火災が起きやすくなるために、毎日クラブ員の子どもたちが全校児童に向けて自分たちで内容を考えて、火災予防について呼びかけを行った。



(3) 消火設備調べ

郡山広域消防本の方を講師に招いて、校内の消火設備調査を行った。調べた設備は、校舎図に図示し、全校児童に消火設備の場所を知らせた。



○ 少年消防クラブ結団式



○ 消火設備調べの様子



成果

- 毎年避難訓練を行っていたが、少年消防クラブを発足させたことで、「自分たちの学校、自分たちの家、自分たちの住む町を火災から守ろう」という意識をより一層高めることができた。
- 少年消防クラブ員の呼びかけに対し、下学年の児童は、自分たちにもできる防火の取り組みについて考える機会となった。2年生は、生活科「まちたんけん」の中で、消防署を調べた子どもたちもあり、防火について家族と話をしたりするなど、「目標 11 住み続けられるまちづくりを」を意識して生活する子どもが増えた。

22 御代田小学校

1 グランドデザインや校務分掌機構への位置づけ

- どの子も思う存分学べる環境づくり ⇒ 「SDGs」に関連する授業実践と「環境教育・健康教育・人権教育・国際理解」への理解促進
- 連携教育の推進 ⇒ SDGsを理解するための教育活動

2 SDGsに基づく学習活動

- 6年生によるごみ拾いボランティア
9月22日と9月29日に6年生8名が学校周辺通学路のごみ拾いを行った。



- 10月21日 全校集会

「地球には78億7千万人の人が暮らしています。人々はみんな仲良く幸せに暮らしているでしょうか？心配なことはないでしょうか？」の問いかけから、地球上の様々な問題についてクイズを出しながら話をした。

- ・一日200円以下で暮らしている人々
- ・トイレのない生活をしている人々
- ・学校に通えない子ども
- ・5歳前に亡くなる子どもの数
- ・いじめの件数

- 10月30日 学習発表会での5年生の発表

【劇場版 世界の約束SDGs】

- ・「貧困」や「気候変動」、「健康と福祉」「海や陸の豊かさ」「質の高い教育」「パートナーシップ」などのテーマをもとに自分たちで劇の台本を考えて発表した。



- 11月12日 3年生のSDGs授業

- ・貧困や飢餓、安全な水、エネルギーなどの課題を具体的にとらえさせるため、東日本大震災とSDGsを関連させた授業を行った。また、みんなで話し合っ、目標を自分達にも分かりやすい言葉で表現してみた。例えば・・・

- ⑤ 男女関係なく自由な社会を作ろう。
- ⑧ すべての人がやる気が出るような仕事をし、十分なお金をもらえるようにしよう。
- ⑰ みんなでなかよくきょう力しよう。



- 1月20日 放送集会で健康委員会がSDGsについて発表した。その中で自分が取り組んでみようと思ったことは？ ⇒ ・食べられる量だけをわけて食べる。 ・水の無駄づかいをしない。 ・エコバックを使う。 ・電気をこまめに消す・・・など

3 成果

- SDGsとは何かを捉えたり、SDGsについての知識を広げたりすることにより、SDGsをより具体的にそして身近に感じることができるようになってきた。
- 毎日の各教科の授業における多くの場面において学習内容をSDGsに関連付けて考えられるようになった。



目標 G6「安全な水」の取組

○ 対象学年 1学年

○ 具体的な取組、活動内容

手あらいをする時、手をぬらしたらいったん水を止めて、石けんをつけて洗う。洗い終わったら、水を出してすすぐ。その後、きちんとじゃ口をしめるなど、水のむだづかいをしないことを常に心がける。

○ 活動に取り組む様子



成果

水道用の取っ手が感染対策用の長いものであるため、蛇口の開け閉めがしやすいこともあり、水を大切にしながら手を洗う姿が増えてきた。

目標 G12「つくる責任つかう責任」の取組



○ 対象学年 2学年

○ 具体的な取組、活動内容

低学年合同で、サツマイモの苗植えと収穫に取り組んだ。6月に、2年生が1年生に苗植えのやり方を教えながら協力して苗植えを行った。児童は、芽が出ると水やりをしたり、雑草を抜いたりして成長を楽しみにしていた。10月には収穫をした。まずは2年生がつるを抜いて準備をし、その後1年生と一緒にサツマイモを収穫した。収穫したサツマイモは、給食に出て、全校生で味わうことができた。

○ 活動に取り組む様子



成果

作るだけでなく、自分たちで育てて収穫したサツマイモが給食に出ることで、作る喜びややりがいを実感することは、作った物の命を最後までいただくという意識を育てることにつながっていると感じた。

目標 G2「飢餓をゼロに」の取組



○ 対象学年 5 学年 総合的な学習の時間「受け継ごう高瀬の命」

○ 具体的な取組、活動内容

給食の残り物の量や種類、スーパーマーケットやコンビニエンスストアの食料廃棄の状況などを調べ、食品ロス、フードショックなどの問題についてロイロノートを使ってまとめた。各自がまとめた内容について発表し合い、学級内で共有した。

<p>1 テーマ 「食品ロス」</p>	<p>2 調べようと思ったわけ 最近では、食品ロスが多いから。</p>	<p>3 調べたこと</p> <p>①食品ロス ②主に、食品ロスの多い食べ物 ③地産地消</p>	<p>①食品ロスとは、まだ食べることの出来る食品を捨ててしまう事。</p> <p>日本では、年間2531万tの食料が捨てられています。</p>
<p>食料に困っている人は世界中で ↓ 9人に一人 ↓ 数に直すと ↓ 8億2100万人</p>	<p>②今では、栄養のあるもの(野菜などが)消費が少なくなっている。</p>	<p>③地産地消とは、「地元で生産されたものを地元で消費する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売用 ・学校給食 ・施設用食材 <p>などに使うことをあげられています。</p>	<p>～食品は、どこで捨てられるのか～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売れ残り 店舗で、売れ残る商品 ・収納したものの 保存食で、賞味期限が切れ
<ul style="list-style-type: none"> ・破損品 配送途中、袋などが破けてしまった物。 ・仕込みすぎ 飲食店で仕込みすぎてしまった物。 		<p>〈調べて気づいたこと〉 食品ロスは色々な方法で、無くせる</p> <p>〈みんなに呼びかけ〉 もっと、食べ残しなどを減らして行って、ほしいです。</p>	



【調べた内容を発表する児童】

成果

- 飢餓問題が自分たちの生活とも密接に関係しているということに気付き、問題意識を持つことができた。
- 給食当番が配膳する量を調整したり、野菜の好きな児童が進んでお代わりをしたりして、学級の残菜を減らそうとする姿勢が学級全体で見られるようになった。

目標 G2・G4・G12「野菜や花の世話をしよう」



○ 対象学級 あおぞら学級

○ 具体的な取組

サツマイモの苗植えと収穫に取り組んだ。さつまいもの栽培を通して作物を育てることの難しさや収穫の喜びを味わうことができた。

○ 活動に取り組む様子



成果

サツマイモの栽培活動を通して栽培活動の一連の流れを体験し、植える時期や収穫の時期、作物の旬について知ることができた。自分達が育てたサツマイモを使って調理実習を行うことで、調理に対する興味・関心を持ち、収穫して味わうことで「食育」の大切さに気づくことができた。

また、栽培活動や調理実習の振り返りを行うことで「自分見つめ」につながり、自立や社会参加に向けたより良い生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養うことができた。

ワークシートにより、植える・育てる・収穫する・調理するという活動の中で、一番楽しかった活動は何か？を子ども達に確認したところ、2人とも調理と答えていたことから、これら一連の活動を通して「食」への興味・関心を持ち、「食育」へと繋げることができた。

サツマイモの蔓を生かしたクリスマスリース作りを行うことで、一連の栽培活動の最終目標としての学びのゴールへつなげることができ、子ども達は楽しんでリース作りを行うことができた。

目標 「う歯治療受診率向上に向けた活動計画」の取組



- 高瀬小中コミュニティスクールとしての取組
- 歯科検診事前指導（ほけんだよりにて）
- 今年度の定期健康診断（歯科検診）の結果より、う歯治療状況を把握する。
- 検診結果を全児童に配布する。う歯のあるもの、歯列・咬合、顎関節、歯垢、歯肉

に当てはまる児童においては「治療勧告書」となる。（5月、9月）

- 6月の「歯と口の健康週間」での取り組み
 - ・ 歯科検診結果う歯のない児童に賞状伝達
 - ・ 歯みがきカレンダーによる歯みがきの習慣化を図る
 - ・ 健康委員会によるむし歯予防についての話（昼の放送）
 - ・ 歯みがき教室：学級活動（1～3年） T・Tによる指導
- 11月の「いい歯の日」での取り組み
 - ・ 歯科検診から約半年経過した今の児童の口の中を知るために、「歯のピカピカ健康診断票」を作成し、保護者に今回は仕上げみがきもお願いし、その観察の結果を記入してもらうよう工夫した。
 - ・ 歯みがき教室：学級活動（4～6年） 学校歯科医二瓶先生による歯みがき教室
 - ・ 歯に関する読書活動の推進
- 治療勧告書が提出された児童において、「きれいな歯になったで賞」に治療済の日付を記入し担任より手渡す。
- 長期休業中には、歯垢2、歯肉2の児童を対象に「親子歯みがき練習」自宅で携帯用の染め出し剤を配り啓発する。
- 長期休業中の歯みがきカレンダー
- 10月に歯科受診状況調査を実施し、状況を把握する。（73人配付し47人回収）
 - ・ 「行く時間がない」1件「交通手段がない」1件その他「乳歯だから受診していない」「むし歯ではなく歯並びだから」という保護者が多いことがわかった。



成果

- 受診率（10月）62.7%→73.3%（2月）
- コロナ禍の中、感染予防に気をつけながら実施した。昨年に引き続き、家庭での家族ぐるみで歯科保健活動を続けることで習慣化が図れたという感想が多くみられた。
- 高瀬小中コミュニティスクールの取組として、中学校と連携をしながら取り組むことができた。



SDGs 啓蒙活動



- 対象委員会 代表委員会（上学年）

- 具体的な取組、活動内容 など

各委員会、各学級（上学年）において、SDGsの目標を達成するために自分たちが
できることを考え、全校に働きかけた。

- 委員会だよりや校内・校外に発信したポスターやちらし など
 - ・実行できることを表すポスターを作成し各階の廊下に掲示した。



成果

- ・児童主体の活動となっていることや校内各箇所に掲示してあることで、SDGsへの取組に対する意識が高まってきている。
- ・児童会各委員会においても、SDGsに対する取組を模索し、取り組もうとする意欲が高まってきている。
- ・司書が図書室においてSDGsコーナーを設置し、全校生に学習環境を整えている。



24 谷田川小学校

1 目標4「質の高い教育をみんなに」

(1) 第6学年 総合的な学習の時間

～守山中学校区小学校3校による小小連携の取組～
令和4年1月25日(火) 「3校リモート交流会」

来年度、共に守山中学校に入学する御代田小、守山小、谷田川小の6年生がZ o o mで交流することにより、中1ギャップ解消の一助とするとともに、中学校生活に対して意欲と期待を持たせるのがねらいである。



各校 10分程度ずつ学校紹介をしたり質問タイムを設けて質問し合ったりした。各校の由来や自慢、教育活動例を知らせ合ったり、器楽発表を觀賞したりした。

御代田小の器楽演奏に刺激を受けたり、守山小のSDGsの取組実践や図書室の運営・掲示の在り方を自校に生かしていきたいとの感想が見られたりした。

(2) 第1・2学年

～帰りの会等を利用したSDGs学びの入門期～

SDGsを知り身近な問題としてとらえ自分事として考えることができるようにするために、1・2年生は、SDGsに関するプレ学習として、帰りの会等に「SDGsの歌」を歌っている。

SDGsとは何かや17の目標が意識せずとも覚えらるる。

大型ディスプレイを見て、踊ったり歌ったりしながらSDGsの理念や各目標等を自然に身に付けられる。



17目標のおぼえうた
SDGsってなんだろう？17の目標がおぼえられる歌だよ。

視聴 (4分)

出典：NHK for School 「SDGsのうた」



(3) 第3学年

学級活動 「SDGsってなに？」

教育課程5月に位置づけられている1時間の学習活動である。

SDGsという言葉テレビなどでもよく見たり聞いたりすることが多くなり、図書室にも関連本があることは知っているが、詳しくはまだ知らないという進級したばかりの3年生が学んだ。



「SDGsスタートブック」を使用し学習するが、SDGs17の目標を覚えた児童がいたため動画に撮り、これをもとにして児童相互の交流を深めたり興味・関心を深めたりしていった。2030年までに達成する世界の約束であることや理念、一人ひとりの行動が未来をつくることになることを知るSDGs学習の第一歩として適切な学習となった。また、学校に通えない子どもが世界に1.2億人いることや男女の性別によって教育を受けられる機会が少ない国があること等教育の問題に興味・関心をもつことができた。

2 目標12「つくる責任 つかう責任」

第4学年 図画工作科 「おもしろ だんボール ボックス」

本時のねらいに加え、SDGsの視点から「限りある資源をよりよく使う」「可能な限りごみを減らし、使える材料として残す」「作ったものを家で使えるようにしっかりと組み立て丈夫な作品を作る」という3点を示して学習させた。

制作中は、材料を端から切っていく・粘着テープを丁寧に使用してきれいに貼る等の意識の変容が見られた。また、好きなだけ闇雲に粘着テープや色画用紙などの材料を使うのではなく、必要な量を丁寧に使用するために友達に作品を押さえてもらうといった助け合う姿も見られた。また、片付けの際には、残った材料を別なものに利用しようとする声や、ごみの量が減ったことによる満足感を感じた声児童からあがった。作る楽しさと材料を大切に扱うことの両方を味わう学習活動となった。

〔作品〕



〔ごみの量の変化〕



1 活動の概要

現在の生活を継続した場合、数年後には世界的な危機に陥る。そのことを教職員・児童と共有するとともに、持続可能な世界を実現するためにはどうあればよいか、教育活動全体の見直しと体系化を図り、年間を通じて児童に考えさせたい。さらに学習した内容をもとに具体的な活動を行うとともに、保護者・地域の方々に発信することで活動を広げていく。

2 活動の目的・背景

SDGsが生まれた背景を探っていくと、多くの衝撃的な事実と直面する。そのことを児童にしっかりと理解させることが、活動の第一歩であると考えた。また、そのことに対して自分たちは何ができるのか、イベント的に取り組むのではなく、年間を通じて様々な教育活動の中で立ち止まり考えさせていくことで、児童に定着し多くの取り組みにつながっていくと思われる。さらには、小学校卒業後も、SDGsを意識した生活ができる人間を育成したいと考える。

3 活動の具体的内容

(1) 世界の状況と、SDGsについての理解

全校集会での校長講話と、各学級担任からの話により、児童達は世界の状況や危機についての理解を深めた。




(2) 教育活動の見直しと体系化

17の項目を、学校教育においては、環境教育、人権教育、国際理解、そして教育全体の充実の4つに分類するとともに、学習活動の中で具体的に触れ考えさせていく。


環境教育		人権教育		国際理解	
<ul style="list-style-type: none"> まち探検 (2年生活) わたしたちの生活と食料生産 (5年社会) 調理実習 (5, 6年家庭) 健康な体 (6年生活) ぜいたくへのいまじめ (6年道徳) 給食指導 食育指導 地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 水はどこから (4年社会) 郷土を学ぶ体験学習 (4年) 自然を守る心 (5年道徳) 物やエネルギーをどう使うか (6年家庭) 	<ul style="list-style-type: none"> 変わり続ける大地 (6年理科) 給食指導 食育指導 人権教育 コロナ差別 人権差別 地域との連携 エコキャップ活動 	<ul style="list-style-type: none"> みんなななく (1年道徳) みんなのしく (1年道徳) ことばがつじななくても (1年道徳) 音楽でみんなをつなごう (2年音楽) 分けへだてのない心 (2年道徳) わたしたちは、つながっています (3年道徳) UDって何だろう (5年道徳) 		
<ul style="list-style-type: none"> 栽培学習 (1, 2年生活) 郷土を学ぶ体験学習 (4年) コミュニティ福島 (5年見学学習) 電気と私たちのくらし (6年理科) 	<ul style="list-style-type: none"> 工場の仕事 (3年社会) コミュニティ福島 (5年見学学習) ICTの活用 地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な体 (3年生活) まちづくり探検隊 (4年総合) 育ちゆく体とわたし (4年体育) 住みよいくらしをつくる (4年社会) 人と共に生きる (6年総合) 目の健康 (6年生活) 病気の予防 (6年体育) 金透大運動会 	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちのくらしと日本国憲法 (6年社会) 世界に歩み出した日本 (6年社会) 世界の未来と日本の役割 (6年社会) 地域でできることは何だろう (6年家庭) Let's go to Italy. (6年外国語) ユニバーサルデザインからボランティア活動へ (6年総合) 道徳教育の充実 コロナ差別 		
<ul style="list-style-type: none"> たんけんはっけん大ぼうけん (2年生活) 地域の施設たんけん (3年総合) ごみのしよりと利用 (4年社会) 郷土を学ぶ体験学習 (4年) 地域との連携 生活科・社会科の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 店ではたらく人 (3年社会) コミュニティ福島 (5年見学学習) 放射線を知ろう (6年生活) 地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> あいての気持ち (1年道徳) だれもが住みやすいくらし (3年道徳) 異性への理解の深まり (5年道徳) 異性と信頼関係 (6年道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培学習 (1, 2年生活) 郷土を学ぶ体験学習 (4年) 世界の中の日本 (6年社会) 幼・保・小連携 小・小連携 小・中連携 地域との連携 		
<ul style="list-style-type: none"> 台風と天気の変化 (5年理科) わたしたちの生活と環境 (5年社会) 環境問題を調べよう (5年総合) 地球に生きる (6年理科) エコ生活ですすむアップを工夫しよう (6年家庭) 	<ul style="list-style-type: none"> たのしいあいきっぴい (1年生活) きれいにさいてね (1年生活) ぐんぐんそだて (2年生活) たんけんはっけん大ぼうけん (2年生活) ちみゆうからのおくりもので (2年園工) しぜんを大切に (2年道徳) ごん虫を調べよう (3年理科) 環境問題に関心をもとう (5年総合) 地球に生きる (6年理科) 生き物のくらしと環境 (6年理科) We all live on the Earth. (6年外国語) 環境の保全 (6年道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> まち探検 (2年生活) わたしたちのくらしと日本国憲法 (6年社会) キャリア教育 地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちは、つながっています (3年道徳) だれもが住みやすいくらし (3年道徳) 世界とつながるかけ橋に (5年道徳) 新しい日本、平和な日本へ (6年社会) 世界の未来と日本の役割 (6年社会) 正義の実現 (6年道徳) 		

1年 1組
単元名「なんでもたべる げんきな子」 特別活動
ゴール番号 1、2 番 【貧困をなくそう】 【飢餓をゼロに】
【学習のねらい】 たべものはたらきや、バランスよく食べることの大切さを知ることができる。
【成果】 ・食べものはたらきや、なぜバランスよく食べることが大切なのかを気付くことができた。 ・家族の思いを知り、これからの食生活で自分自身が気をつけることや頑張ることを考え、実践意欲を高めることができた。


2年 2組
単元名「ぐんぐんそだて わたしのやさい」 生活科
ゴール番号 2 番 【飢餓をゼロに】 【陸の豊かさを守ろう】
【学習のねらい】 ・野菜のお世話の仕方を工夫することを通して、自分がお世話をする中で野菜が成長していることに気付くことができる。 ・自分の手で育てた野菜を試食することを通して、植物を育てる喜びを感じ、これからも継続的に生き物とかわらうとする。
【成果】 ・育てたい野菜を子どもたちも選べたことで、意欲をもってかかわり続けることができた。 ・何度も野菜を観察することで、様子の変化に気付くことができた。 ・収穫をしたサツマイモを調理し試食する機会を設定することで、かわり続ける喜びを感じることができた。 ・野菜嫌いな子どもが「自分で作ったものだから食べきったよ」と話さなから、野菜を育てることのよさを伝えることができていたと考える。


3年 1組 社会科
単元名「販売の仕事」
ゴール番号 2・12番 【飢餓をゼロに】 【つくる責任 つかう責任】
【学習のねらい】 ・スーパーマーケットの品ぞろえから、「SDGs」につながる商品を見つけることができる。
【成果】 ・フードロス減らすために、フリーズドライ商品を充実させていることを理解することができた。また、「ふるさと郡山」の関連ページを全員で確認することができた。


4年 1組 社会科
単元名「住みよいくらしをつくる 水はどこから」
ゴール番号 6 【安全な水とトイレを世界中に】
【学習のねらい】 くらしの中で使われている水のゆくえ(上下水道・水源・ダムなど)について調べることができる。
【成果】 ・水泳学習から私たちの生活に水は欠かせないので大切な資源であることに気付く、「水」について問題を思いだして学習を展開した。 ・良学学習で猪苗代湖の見学を行い、郡山市の水源について、安積疏水土地改良区の担当者の説明を聞いた。猪苗代湖の大きさ、水の量、そして、安積疏水との関連にも気付いた。 ・昨年夏の遊歩道の三曹ダムにも関連付けて学習を展開した。


5年 1組 社会科
単元名「これからの工業生産とわたしたち」
ゴール番号 7・9・10・11 番 【エネルギーをみんなに そしてクリーンに】 【産業と技術革新の基盤をつくろう】 【人や国の不平等をなくそう】 【住み続けられるまちづくりを】
【学習のねらい】 ・日本の工業生産についてふり返り、我が国の工業生産の特色についてまとめるとともに、これからの工業の発展とSDGsとの関連について考えようとする。
【成果】 ・これからの工業生産にとって大切なことは何か、それぞれの立場から考えさせたことで、多様な見方・考え方もつづることができた。 ・SDGsの動画を視聴したり、関連を考えたりすることで、工業生産においても持続可能な社会をめざす必要性を捉えることができた。


6年 1組 外国語科
単元名「Let's think about our food.」
ゴール番号 2 番 【飢餓をゼロに】
【学習のねらい】 ・外国語の学習を通して、日本と世界の食事情について考える。
【成果】 ・日本の食料自給率について、自給率の高い食料と低い食料について学ぶことができた。 ・日本の食品ロスの量について知る事ができた。 ・世界の食事情について、「ハンガーマップ」をもとに、世界でおよそ幾何人の人が栄養不足に苦しんでいることを理解することができた。

6年 1組 理科
単元名「電気とわたしたちの暮らし」
ゴール番号 7 番 【エネルギーをみんなにそしてクリーンに】
【学習のねらい】 ・電気がわたしたちの生活に欠かせないものとして、様々な場面使われていること、また、省電のために各種の発電機やソーラー発電など様々な方法で電気がつくられていることを理解し、エネルギーについての理解を深める。
【成果】 ・実験キットを用いて、発電や蓄電の仕組みについて理解し、わたしたちの生活の中で使われている電気の大きさについて改めて考えることができた。


4 具体的な実践と学習内容の発信

学習した内容を生かして、食べ残しゼロ運動、エコキャップ活動、学校緑化活動、縦割り清掃活動、校内美化活動など、発達段階に応じた取り組みを実施している。

また、自分たちが学習した内容や経験を、学習発表会を通して他学年の児童や、保護者、地域の方に発信している。(令和2年度は5年生、令和3年度は4年生が発表した。)



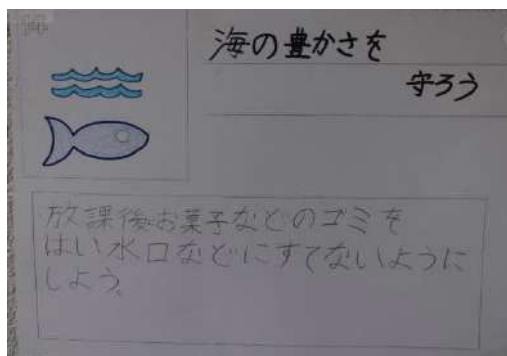
1 児童会「ボランティア委員会」の取り組み

委員会活動を進めるにあたりSDGsについて学んだことを、自分の学校で具体的に何ができるのかを話し合い、ターゲット目標に沿った**自分たちらしい提案**をポスターに表現し、学校内に掲示して全校生に啓蒙する活動に取り組んでいます。

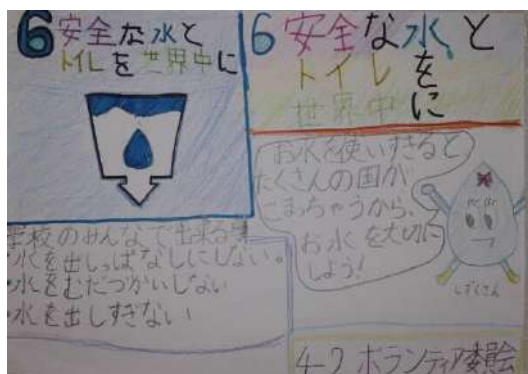
まずは、取り組みができそうなところから第一歩、チャレンジです。



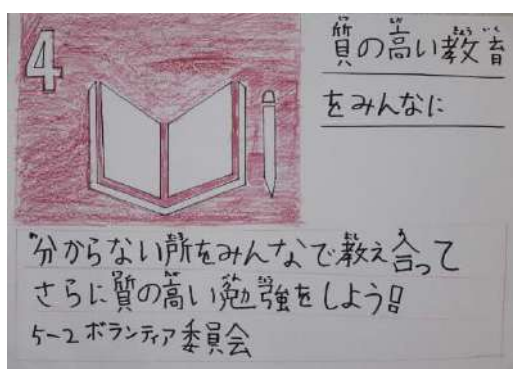
【ポスター制作の様子】



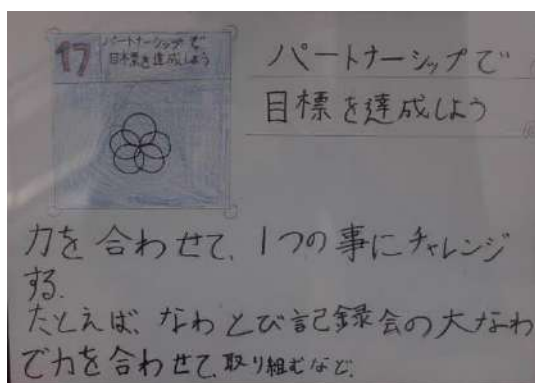
【ターゲット 14 海の豊かさを守ろう】



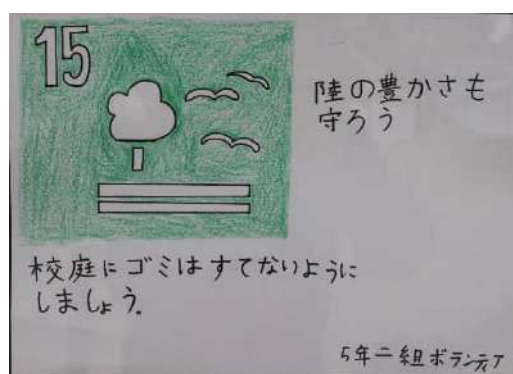
【ターゲット 6 安全な水とトイレを世界中に】



【ターゲット 4 質の高い教育をみんなに】



【ターゲット 17 パートナシップで目標を達成しよう】



【ターゲット 15 陸の豊かさも守ろう】

2 成果

お隣の郡山二中の生徒会と本校児童会と連携協働した活動を模索していたが、コロナ禍で実施が難しくまずは自校でできることからの出発である。子どもらしい発想で身近に取り組める内容のポスターで、ポスターを作成した児童はもとより、校内に掲示されたポスターを目にした児童も興味をもち、SDGsへの理解と取り組みへの意識化が図られている。

27 橘小学校

1 SDGsに基づく教育活動

○SDGsについて興味・関心を高める

第4学年 総合学習

SDGsすごろくで

SDGsへの理解を深める



○市内小学校長を招聘して先生方の意識の醸成につなげる

第4学年 学級活動

SDGsの視点で震災の様子（写真）を見る。



○授業の終末における子どもたちへの意識付け

第4学年 社会科

安積疏水の治水工事とSDGs

との関連を考える



第5学年 社会科

災害対策とSDGsとの関連を考える



○自分たちにできるSDGsを考える

第5学年 社会科

郡山市のSDGsの取り組みについて調べ、持続可能な社会を目指し、自分たちにできることを考える。



○校内掲示

校舎内に17項目のSDGsを掲示し、意識化を図る。



2 成果

○教職員も子どもたちもSDGsに対する意識が高まった。

○学習内容とSDGsを結び付けて考えることができるようになった。

○給食を残さず食べよう（食品ロス）など、身近なことからできることを行おうとする姿が見られるようになった。

1 目標12「つくる責任 つかう責任」 環境への配慮の取り組み

(1) 第6学年 家庭科「できることを増やしてクッキング」「こんだてを工夫して」

- いためておかずをつくろう（調理実習）の際、使ったフライパンの後始末用紙で油よごれをふき取ってから洗うことを指導した。
- 生ごみは、不用紙（新聞の折り込みチラシなど）で、ごみ入れをつくり、調理台において使わせた。

(2) 成果

- 長期の休みに自分のうちで調理を行う宿題を出した。環境をよごさないよう配慮して後片付けを行った報告があった。
- チラシを使ったごみ入れの作り方を覚え、生活の中で活用している児童が見られる。

2 目標2 「飢餓をゼロに」

目標6 安全な水とトイレを世界中に

目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

目標13 気候変動に具体的な対策を

目標14 海の豊かさを守ろう

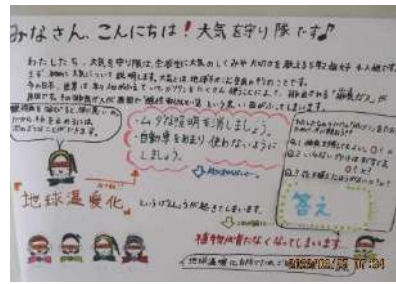
目標15 陸の豊かさを守ろう

(1) 第5学年 総合的な学習の時間 『「SDGs」って何だろう』での取り組み

- 「SDGs」とは何かを調べ、その中から自己課題を設定して現状や対策等を調べた。
- 自分たちの生活で実際にできる行動を考え、夏休み等を利用して実践した。
- それらのことを動画やポスター、壁新聞等にまとめ全校生に向けて校内放送や校内に掲示して発信した。

(2) 成果

- 「SDGs」について課題意識が芽生えた。そのため各教科等で調べて目標に関わる内容と結び付けて考える姿が見られるようになった。
- 給食を残さない、節水、節電など実生活に生かす姿も見られるようになった。
- 学校全体で、「SDGs」についての意識が高まってきた。



29 開成小学校

1 全校生で

(1) 校長講話による意識づけ

- 全校生で「SDGs」について学ぶ機会（オンライン）を設け、「SDGs」に関する意識づけを行った。
 - ・ ユニセフの動画を活用



(2) 「ありがとうプロジェクト」の実施

- SDGsを本校のめざす子どもの姿である「いたわりあっていきる子ども」と関連させて、意識づけを図ることを目的として「ありがとうプロジェクト」を実施した。
 - ・ SDGs実践にチャレンジした児童の称賛

2 SDGsを生かした教育活動

(1) 授業で

- SDGsの項目との関連を意識し、授業を実践した。



(2) 委員会等で

- 「ありがとうと言われるように言うように」をコンセプトとし、委員会活動等をSDGsの視点で見直し、活動を行った。

3 その他

- (1) 郡山SDGsアワードに入賞した児童の実践を全校生に紹介した。

- (2) PTAも郡山市のSDGs推進に賛同し、その一環として、運動着のリユースプロジェクト「MOTTANA Iプロジェクト」「運動着BANK」をスタートさせた。

関係書籍の紹介と図書だよりによる啓蒙



SDGsの本を読もう!

～みんなの未来のために、今考えよう!～





SDGsの書籍の記録	読んだ日	感想

*図書室前のSDGsの本を読んで
「読書の記録」に残そう!

★1さつ、読んだら記録を書いて、カウンターへ
→ ●「SDGs 1さつかしたしけん プレゼント」

★10さつ、ぜんぶ読んだら、カウンターへ
→ ●「SDGs 芳賀小シール プレゼント」
●「図書だより」に名前をのせます。
●「ろうかか名前」をはります。



総合学習に関連付けた取り組み（5年）



31 桃見台小学校

1 教科等横断的なSDGsへの取り組み

- 第6学年 総合的な学習の時間「ぼくたち環境探検隊」
国語科「わたしたちにできること」
理科～パナソニック出前授業～「自分たちにもできるエコ」

- 具体的な取り組み

6年生では、総合的な学習の時間における環境の学習を基に、DVDや市の資料などを活用しながら、環境に関する学習からSDGsへの取り組みへと学習を広げた。その後、国語科「わたしたちにできること」の学習において、SDGsの17の国際目標の中から実践したいことを選び、提案書を作成し、発表し合った。提案書は廊下に掲示し、互いに見合うことで共有化を図った。さらに、パナソニックの出前授業を通して、家庭でできる節電を実践した。

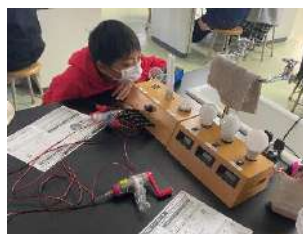
- 活動に取り組む様子



・「総合」での学習



・提案書の発表



・パナソニック出前授業

- 参考とした資料

- ・「モリゾーキッコロ地球環境の旅」(DVD)
- ・「SDGs未来都市こおりやま」(市のパンフレット)
- ・「NHK for School SDGsを学ぼう！」

2 成果

- SDGsの17の国際目標から自分が実践したいことを選んだので意欲的に学習に取り組むことができ、また、友達の多様な考えに触れることで多角的にとらえることができた。
- それぞれの実践事項は児童がすぐに取り組むことができるものなので、児童の実践意欲を高めるとともに、SDGsは難しいことではなく児童にとって身近な問題であるという理解を深めることができた。



- ・ 児童が選んだ目標

- 1 貧困をなくそう 4 質の高い教育をみんなに 6 安全な水とトイレを世界に
- 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任 13 気象変動に具体的な対策を

- 1 保護者の都合で学校に来られない子ども、自立しきれずに不登校になっている子ども、等があり、毎日、多くの子どもが欠席、遅刻をしている学校。欠席者のいない日は1日もない。

SDGs 4 質の高い教育をみんなに

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

- ① 保護者の困り感への対応
 - ・アセスメント強化：生徒指導委員会の開催、SCとの連携強化
 - ・外部機関との連携：学校医→星病院、SC→総合教育支援センター
- ② 子どもの困り感への対応：通級指導教室の強化 来年は14名ほど入級予定
 - ・担任と特別支援コーディネーター、生徒指導主事との連携強化の指示
- ③ 授業改善による学力向上
 - ・算数科：30分+15分（低・中学年の授業改善）：担任の意識改革
 - ・研究指針協力校

- 2 郡山市立学校でただ1校。そして、全国でも1.3%しかない、浸水被害、土砂災害想定地域に指定されている学校。

SDGs 11 住み続けられるまちづくりを

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする

まちや人びとが住んでいるところを、だれもが受け入れられ、安全で、災害に強く、持続可能な場所にする

「仙台防災枠組 2015-2030」

基本的な考え方：災害前に「いかに被害を防ぐか（防災）、あるいは小さくするか（減災）」という事前対策を重視し、実行に移すこと。

そのためには、

- ① 災害時に、人々の命、暮らし、健康ができるかぎり失われなくようにする
- ② 行動の指針となる、防災と減災の考え から具体的な活動を実施
 - ア 防災：命を守る 避難訓練 具体的行動力
 - ・火災、不審者侵入、地震、土砂崩れ、浸水の避難訓練の実施
 - ・避難訓練の具体化（想定を明確にし、具体的な行動力を育てる）
 - 防災教育 防災知識
 - ・10月12日は赤木防災の日（全校一斉防災教育を実施する日）
 - ・自ら考えて、自ら行動できるだけの知識を授ける、学ばせる。
 - ・外部の専門家からの出前授業の実施
 - イ 減災：被害の軽減 持続可能な教育活動 被害最小化
 - ・文書の電子化
 - ・ファイルサーバの活用
 - ・地域の実情に根ざした具体的な対策の実施

【実践内容】



SDGsへの意識化を図るために拡大して掲示している



安全マップについては各家庭に配付すると共に拡大して校内にも掲示して周知



節電や節水への呼びかけ表示
児童会の環境委員会を中心に活動



フードロスへの呼びかけ表示
児童会の給食委員会を中心に活動

【われら！命育て隊】

SDGsと世界の食料事情

目次

- 1.きっかけ
- 2.さまざまなSDGs
- 3.世界の食料事情
 - (1) 飢餓について
 - (2) 飢餓をなくすための取り組み
 - (3) 矢野先生の授業から
- 4.まとめ
- 5.感想

5 学年 総合的な学習の時間
外部講師を招き大豆を育てたり、栄養教諭の食育の授業を経験したりして、授業参観の時間にそのまとめを保護者に向けて発表。
左はその時のプレゼン資料

食品ロスを減らして、食べ物を大切にしたい学校へ
6年1組及び、大内、前塚、三浦、柳河
1.提案のきっかけ
食品ロスに関する本で、レストランや食品製造業など、食品関連のお店や会社から1年間に出る食品ごみの量は約100万トンと知った。あまりにもごみが増えすぎると、ごみは処分しきれずこのままでは灰灰の生活はごみであふれてしまうかもしれないのだ。

2.提案のポスターの設置
食品ロスについて理解を深めるために、食品ロスについてのポスターを設置することを提案する。このポスターにはこのように書いた。
お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんなが協力して食べ残しを減らそう！
1年から6年までの

6 学年 国語科
意見文の学習で、提案のきっかけとして「食品ロス」を扱い、「ポスターの設置」を提案。授業参観の時間に保護者向けに発表。
左はその時の原稿用紙

【成果と課題】

- 本年度は、これまで福島議定書や食育で行ってきたことをSDGsと結びつけて取り組みをスタートしているところである。少しずつ、SDGsへの理解が深まってきている。今後も学校において何が出来るかを模索しながら学習活動に取り組んでいきたい。
- 各教科や道徳、特別活動等の学習と関連づけながら、SDGs理解を深めながら、どんなことがSDGsの活動に繋がるのかを見つけながら実践していきたい。

1 目標12「つくる責任 つかう責任」食品ロスの取組み

○ 5年 学級活動

題材名 「栄養バランスのよい『マイ弁当』作りのポイントを知ろう」

題材目標 食事の役割と栄養、健康・快適・安全、**飢餓をゼロに**（G2）**すべての人に健康と福祉を**（G3）などの視点から、バランスの良い弁当について、課題をもって基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、マイ弁当の設計図と料理計画**つくる責任つかう責任**（G12）を立て作る目標を持つことができる。

学習活動・内容

弁当づくりのルールの中に、食材と栄養について考える。

弁当の設計図をつくりながら、健康な生活・食料資源や食品ロスを考える。

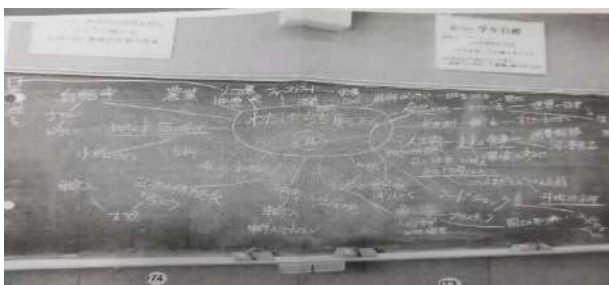


2 成果

○ ワークシートの中に、色や好きな物だけでなく、食材の切り方・盛りつけ・詰め方などの工夫があり、ロイロノートを使った発表からも、食品に対する考え方の変化が見られた。

○ 総合的な学習で『「食」の未来を考える』学習で、食に関する関心が高まっていた。

「食の問題」「食品ロス」について調べたことを、担任の指導の下、自分の考えを練り上げたり友達
の考えを読んだりすることで、国語科の学習で学んだ報告文の形式にまとめている。



1 教職員の共通理解に基づき共通実践に取り組む

- ① 教育課程（各教科）における位置づけと完全実施
- ② 現在行っている教育活動をSDGsの視点で意味づけ・価値付けする
- ③ 児童会活動におけるSDGsの発信や校内掲示

【集会委員会の活動】（12/2 Zoomでの全校集会）

「クイズで考えるSDGs」

～地球も学校も大切に みんなができること～

○ 目標2「飢餓をゼロに」

- ・世界で飢餓に苦しんでいる人の数は？
- ・富田東小の給食の残菜はどれくらいか？
- ・みんなにできるSDGs（食べ物を無駄にしないために）

○ 目標14「海の豊かさを守ろう」

- ・写真で見る海岸のゴミ
- ・ゴミを積み上げたらどれくらいの高さになるか？
- ・マグロが食べられなくなる？
- ・みんなにできるSDGs（プラスチックゴミを減らそう）

○ 目標10「人や国の不平等をなくそう」

- ・不平等とはどういうことだろう？
（休み時間・ドッジボール・鬼ごっこ）
- ・みんなにできるSDGs（みんなで楽しく過ごそう）



2 校内の日常生活をSDGsの視点で捉え直す

- ① 給食の残り… (世界の貧困・食品ロス)
- ② LGBTへの配慮を通して、学校の施設・設備 (トイレ・着替え) の見直し
視覚障がい3名への学習環境整備 (机・書見台) → 全校が特別支援体制

【給食委員会の取り組み】

「ポスター掲示と福島民友SDGsポスター募集への参加」

○ 目標2「飢餓をゼロに」

- ・今まで行っていた給食に関するポスターをSDGsのポスターにし、給食室や配膳室等に掲示した。
- ・作成したポスターを福島民友のSDGsポスター募集に応募した。



3 成果

- 今年度は、まず各教科の学習による「SDGs」の理解からスタートした。何者かも分からなかったSDGsが少しずつ児童へ浸透していった。一方で「難しそう。」「自分たちにできるかな。」といった思いが出てきた。
- 児童会活動では、今まで自分たちが行ってきた活動をSDGsの視点から見直しを行った。様々な活動を通して、児童はSDGsが新しいものでも難しいものでもなく、今までの取り組みや考えがそのまま「SDGs」だということを実感することができた。視点や意識を変えるだけで委員会活動が意味づけされ、より深いものになった。

1. 目標 12 「つくる責任 つかう責任」

(1) 給食委員会の取り組み

- 対象学年 全学年

委員会 給食委員会

- 活動内容

毎日、給食委員会のメンバーが給食時の残菜の量の記録を、昇降口の掲示板に掲示し、全校生に食べ物の大切さを視覚で伝えている。

掲示物のみでなく、校内放送でも全校生に食べ物の大切さについて呼びかけている。



給食委員会のメンバーが掲示している様子



残菜の量の掲示の様子

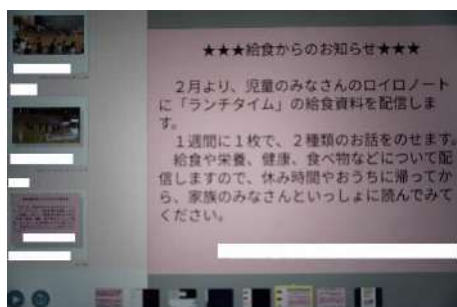
(2) プリント削減の取り組み

- 対象学年 全学年

- 活動内容

今まで印刷していたプリントをタブレットのロイロノートを活用し、全学年児童に配信し、紙類の削減に努めた。

ランチタイムの給食資料をロイロノートで全学年児童に配信し、児童は休み時間や家庭で保護者と一緒に読む取り組みを行った。



ロイロノートの画面



送信された資料

2. 成果

- SDGsについて考え、実践する場面を設定することで、子どもたちが率先して行動できるようになった。
- 今まで資料を印刷して配付しなければならないという意識から、ロイロノートを活用することで紙の削減や印刷する時間が無くなり働き方改革にもつながった。

令和3年度 郡山市立大槻小学校「SDGsへの学校としての取組」

SDGs未来都市「郡山市」～SDGsを郡山の子どもたちから～ 大槻小学校だからできること！

SDGsって何？

- ・現在どのような状況なのか？
- ・どんな未来にしたいのか？
- ・このままだと未来はどうなってしまうのか？
- ・今、自分にできることは何だろうか？

「SDGsの5つのP」

People(人間) Prosperity(豊かさ)
Planet(地球) Peace(平和)
Partnership(パートナーシップ)

令和3年度取組
「大切にしよう 人とのもの」

【目標12「つくる責任 つかう責任」】

- 大槻町の地域の方々との交流団
- 自分が、学校でできること、家庭でできることを考え、実行する。
- 世界の子どもたちの事情を知る。
- 「食品ロス」を手がかりに、自分でできることを考え、全校にも広げていく。
- 「持続可能性」として考えられることを真実に話し合う。



令和3年度取組
「大槻町の持続可能な町づくり」

【目標1「住み続けられるまちづくりを」】

- 健康面・・・安全、サービス、交通、健康など多面的に大槻町を養っていく。
- 地域の「子ども食堂」の取組団
- 一人としての量かさの提供団
- 地域の方々へのアンケート実施及びまとめ

【大槻中学校との連携の中で】 ・オンラインによる児童生徒の交流 ・SDGs教育のつなぎ

「SDGs」17の目標と各教科・各単元との関連 → 教育課程に明記

【例】 子どもたちが「自分事」として学んでいくことができるよう配慮していく。

小4 社会「水はどこから」「ごみの処理と利用」 理科「自然の中の水のゆくえ」

小5 社会「これからの食料生産とわたしたち」「環境を守るわたしたち」

理科「台風と天気の変化」

小6 理科「地球に生きる」 家庭「持続可能な社会を生きる」

「SDGs」を学ぶ・・・ではなく、
「SDGs」に対する
自分の意識を
高め、広げ、深めよう！
自分が「できること」「できそうなこと」からやってみよう！

上記のような「SDGsへの学校としての取組」を作成し、教職員で共通理解のもと、SDGs教育に取り組んできた。

各学年、各教科において、「できること」「できそうなこと」からスタートしようという考えで、令和3年度をスタートさせた。ここで大切にしてきたことは、「SDGsを学ぶ」ではなく、「これまでの学びの中で、SDGsへの意識を高め、広め、深める」ということである。

【実践例】

「大切にしよう 人とのもの」・・・目標12【つくる責任 つかう責任】

- 今の子どもたちの中には、落とし物をしてしまった段階で、「もう自分のものではない」という意識になってしまう子どももいる。これは、本校においても同じであり、落とし物が多いが誰も取りに来ないといった現状である。そこで、鉛筆一本、消しゴム一つにしても大切にしようという気持ちを高めるために、ポスターを作成し全校生に呼びかけたり、鉛筆や消しゴムがどのようにしてできあがって、自分たちの手に入ってくるのかを調べたりした。
- 食品ロスについては、給食の残飯をなるべく少なくしようという活動をした。世界の国々の食事情を調べ、恵まれている日本において、自分たちでできることを真剣に考え、「給食での食べ残しをなるべく少なくする」「食べ物を大切に使う」「自分たちの口に入るまでに関わっているたくさんの方々の存在を調べ、感謝の気持ちをもつ」などの意識が高まった。

「大槻町の持続可能な町づくり」・・・目標1【住み続けられるまちづくりを】

- 大槻町が大好きになる、大槻町を誇りに思える、そのような子どもたちであってほしいと願っている。各学年、各教科の学びを通して、様々な角度から大槻町を考えていくことができるようにした。大槻町の人、もの、ことを学びながら、将来の大槻町をイメージしていくことができたのではないかと考える。地域への感謝の気持ちも高めることができた。

学校教育をSDGsの視点で関連させ、教育諸活動の推進をとおして、本校教育目標「自ら学び、自ら考え、目標達成に取り組む、心豊かで健康な児童の育成～やさしい子ども（情）かしこい子ども（知）げんきな子ども（体）やりぬく子ども（意）～」の具現を図ってきた。

1 教科・総合的な学習の時間における探究的な学びをとおしての、SDGsへの理解と自分事としての関わり（ゴール4）

【対象】3・4年、5・6年

各教科のSDGsに関わる学習は、各学年で学習を充実させてきた。本年度より、5・6年の総合的な学習の時間で「SDGsってなあに」の単元を位置づけた。市の出前講座を活用し、概要を理解したうえで、各個人の活動を展開した。調査・思考・表現・発表交流という探究活動をとおして、理解を深めるとともに自分事としての実践につなげていった。白岩フェスティバルでは地域の代表として参観いただいた家族に、学びの一端を発表し、SDGs推進を呼びかける姿も見られた。



2 教科学習等における栽培活動をとおしての、環境・食への理解と感謝（ゴール2）

【対象】1・2年、3・4年、5・6年

低学年はサツマイモ、中学年はカボチャ、高学年はジャガイモ、サトイモを栽培し、畑づくりから苗植え、水やり、草取り、収穫と食物の生産に関わる活動を継続した。栽培をとおして自然環境との関わり、生産者や食事を作って下さる方への感謝の気持ちを育むとともに、フードロスへの理解や意識向上に関連付けることができた。収穫した野菜は販売し、食べていただくことで、家庭や地域と連携していることを意識することができた。



3 特別活動における環境保全への取組みをとおしての、節電・節水の日常化（ゴール6 ゴール7）

【対象】環境図書委員会（4・5・6年）

児童会の環境図書委員会の活動として、全校生に節水、節電について呼びかけた。「白岩小ではSDGsに取り組んでいる」ことを宣言し、全校に節電（移動時や清掃時には電気を消す）や節水（無駄に流しっぱなしにしない。必要以上の水勢にならないよう気をつける。）を呼びかけている。各自が自分事として取り組む姿が見られた。尚、福島議定書事業のCO₂排出削減の取組についても、目標を達成することができた。



4 特別活動における募金活動等をとおしての、他との関わり（ゴール1 ゴール15）

【対象】情報・集会・ボランティア委員会（4・5・6年）

児童会の情報・集会・ボランティア委員会の活動として募金活動に取り組んだ。1学期の「緑の募金」、2学期の「赤い羽根募金」活動をとおして「豊かな地球を残す」ことや「誰一人取り残さない社会づくり」への意識を高めていた。



5 オリンピック・パラリンピック推進事業での交流学习をとおしての、共生意識の高揚（ゴール 10）

【対象】全学年

東京オリンピック・パラリンピック推進事業をとおして、ホスト国であるオランダと交流を深めた。オリンピック聖火リレー応援事業としてのチューリップ栽培。オランダから来ているヨースト先生を講師とした交流学习。オランダ給食についての学習など、オランダを知るとともに郡山とオランダのつながりについて理解を深めた。他国との共生意識を高めることができた。



6 学校の教育計画にSDGsのゴールを関連させ、SDGsを意識した業務、教育実践を進める。（ゴール4）

【対象】全学年、全教職員

学校グランドデザインをはじめとして、各種教育計画に17のゴールとの関連を明記し、業務推進の際にSDGsとの関連を意識しながら教育活動にあたっている。

校内にSDGsコーナーを設置し、SDGsの情報や各学級での取り組み、新刊図書などを確認し合えるようにしている。

SDGsアワードへの応募をとおして、児童に自分たちの取り組みが郡山市の取り組みとして認められていることを実感させることにより、自分事としての取り組みが社会の構成員の一員として持続可能なものになっていることをつかませている。



7 成果

(1) 実践をとおして

SDGsに関わる探究学習の推進は効果的であった。郡山市の担当課等、外部人材と連携し、学習を充実できたことは、地域の一員としてSDGsに向き合うきっかけにもなった。

自分の興味関心のあるところ、問いを持った部分から学びを深め、ロイロノートスクールなどを活用して表現することは、SDGsを自分事としてとらえる上で重要であった。「白岩フェスティ

バル」において学びの成果を地域に発信する機会を確保できたことで、地域の構成員としての誇りを醸成することにつながっている。

栽培活動や募金活動等は「誰一人取り残さない」社会の一員として関わることができ、効果的であった。活動をとおして、経済・社会・環境の3つの側面から自分たちの取り組みについてとらえることができている。節水や節電に取り組むことも、3側面の視点から限りある資源を使用していることを意識することにつながることができた。

(2) 児童の変容など

① アンケートから

SDGsの推進については本校教育目標のうち「やりぬく子ども」の教育実践に位置付けている。「やりぬく子ども」の評価項目及び評価については次のとおりである。

保護者アンケート、児童アンケートのどの項目も、肯定的な評価が90%以上となっている。SDGsの推進については学校だよりや学校ホームページなどで情報発信していることから、本校教育目標の具現に関わり、児童・保護者の理解を得られていると考えることができる。

アンケート	アンケート項目	A	B	C	D
保護者アンケート (やりぬく子ども)	学校は、子どもたちの良さや努力を認め、支援している。	89%	9%	3%	0%
児童アンケート (やりぬく子ども)	学級のめあて、自分のめあてに向かって頑張ることができる。	75%	20%	2%	2%
	失敗してもまた挑戦できる。	70%	20%	7%	2%
	やってみたいことや夢を持つことができる。	82%	9%	9%	0%
	みんなで取り組むことについて、自分の考えを伝えることができる。	68%	25%	7%	0%

② 児童の姿から

保護者との情報交換の場では、SDGsを自分事としてとらえているという話を聞くことができた。特に探究学習を進めた学年では、家庭での節電や節水、ごみの分別などに継続的に取り組む姿が見られているとのことである。

今後も自分ができることに気づき、考え、行動すること。それが誰かのためになり、社会全体のためになることを実感させていくことにつなげていきたい。

1 目標 12「つくる責任 つかう責任」

目標 13「気候変動に具体的な対策を」

○ 第3学年 総合的な学習の時間「曲がりねぎを育てよう」

総合的な学習の時間において、地域の伝統野菜「阿久津曲がりねぎ」の栽培活動を、保存会会長の橋本昌幸さんに教えていただきながら年間を通して行った。草取りややとい作業など、たくさんの手間と愛情をかけて甘く柔らかい「阿久津曲がりねぎ」ができることを、子どもたちは体験を通して学んだ。1本1本丁寧に収穫し、蒸し焼きにしてそのおいしさも味わうことができた。学習発表会「東芳まつり」で、阿久津曲がりねぎの栽培を通して学んだことを発表した。



○ 第6学年 総合的な学習の時間「SDGs・環境問題・食品ロス問題について考えよう」

総合的な学習の時間において、環境問題や食品ロスなどの問題について、問題解決的な学習を行った。各種資料やタブレットを活用して課題についての情報を収集し、整理・分析、まとめ、表現という探究的な学習を、年間を通して実践した。また、講師を招いて実際に生の声を聞くことで、子どもたちがSDGsをより身近な問題として捉えられるようにした。県の「環境活動スタート事業」で招聘した一般社団法人日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ氏の講話からは、地球温暖化の影響を強く受けるキリバスの現状を知り、課題意識を高めた。管理栄養士の先生を招いた食育講座では、フードロス問題について学び、県国際交流協会の国際理解出張講座では、食の問題や地産地消の大切さ等について考えを深めた。探究的な学習活動を通して学んだことや考えたことを学習発表会「東芳まつり」で、「自分たちから行動を起こそう」とのメッセージを込めて発表した。



2 成果

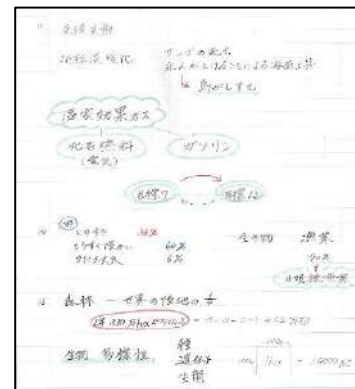
○ 学習発表会後の保護者アンケートには「昨年度からの成長が見られて嬉しかった。先生方やクラスみんなに支えてもらい一生懸命発表していた。」「発表に向けて悩み、考えていた様子を見て、伝えたい！という強い思いを感じた。」「子どもたちの発表を通して、私たち親もいろいろ考えさせられた。」等の感想が多く記されていた。調べた学年だけでなく、全体や保護者へもSDGsを発信し、メッセージを伝えることができた。

○ 総合的な学習の時間を通して、環境問題や食料生産、食品ロス問題等の課題を自分事として受け止め、その解決に向けて「できることから始めよう」と行動を始める子どもたちの姿が見られるようになった。6年生はごみの削減など日常生活の中でもSDGsの視点から「自分にできること」に取り組んでいる。3年生は「阿久津曲がりねぎ」保存会会長さんとの温かなかわりのもと、具体的な栽培活動を通して食の大切さを学び、「阿久津曲がりねぎ」や地域への愛情と誇りを育てている。

1 【目標11「住み続けられるまちづくりを」】

5年「洪水出前講座」

- 理科の「台風」や「流れる水のはたらき」の学習との関連を図り、災害を防ぐために本市ではどのような工夫を行っているのかについて、外部講師を招いて、学年合同の学習を行った。具体物による説明や災害時にとるべき行動等、発展的な学びにより学習内容を深めることができた。



【すべての項目】

6年 理科「SDGsについて調べてみよう」

- SDGsの17の開発目標について、各自が調べ学習によってノートにまとめ、自分たちにはどんなことが必要になってくるかについて、最後にまとめた。

【すべての項目】

6年「NIEコーナー」

- SDGsに関連する記事を廊下の掲示板を利用してコーナーを設け、児童の関心を高める工夫をした。

少しずつSDGsに興味を示す児童が増え、子ども新聞の中の記事を朝の会のスピーチで利用したり、委員会による発表で伝えたり等、児童自らがSDGsを意識することができるようになってきている。



2 成果

- SDGsについての調べ学習から、今から自分にでもできることを考えたり、これから世界的にどのように取り組んでいく必要があるかを見通したりする力を育成することができた。今後も、児童にSDGsの意識を持たせるような働きかけを継続していくことが大切である。



41 桑野小学校

1 目標 12「つくる責任 つかう責任」 難民問題への取り組み

○ 対象学年 6年生 (52名)

○ 具体的な取組、活動内容 など

・ユニクロ、GU「**届けよう、服のチカラ** プロジェクト」への参加

UHNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とファーストリテイリングとのパートナーシップのもとに取り組む、小・中・高校生が対象の学習活動。

ユニクロ・ジーユーの社員によるリモート授業を受けたのち、子どもたちが主体となって、校内・地域へ協力を呼びかけ、着なくなった子ども服を回収する。

回収した服は、難民などの服を必要とする人々に届けられる。

・活動のねらい

◎ 出張授業により、身近な“服”を通じて、難民問題や環境問題に関心を持つきっかけを作る

◎ 子ども服の回収活動により、「自分にもできる社会貢献がある」と気づき、自ら行動する機会をもつ

◎ 回収の呼びかけなど、地域社会とつながる機会をもつ

○ 活動の様子

〈調べる〉

・SDGsについての学習

（資料：東京書籍 EduTown SDGsアライアンス 発行の冊子）

・ターゲット（目標）についての学習

・UHNHCRについての学習

・難民についての学習

〈広める〉

・服の回収を呼びかけるポスター作成

・服のチカラプロジェクトを知らせるチラシの配布

・難民について理解を深めてもらうための校内掲示

〈集める〉

・回収BOXの作成、設置

〈届ける〉

・梱包、宅急便で送付

・服の回収協力へのお礼

〈まとめる〉

・フォトレポートで、寄贈の報告を受ける

○ 活動に取り組む写真など



映像による授業



ポスター掲示



回収作業



総合的な学習

SDG S 届けよう、服の力 プロジェクト

子ども達は、これまでの総合的な学習の時間に、「SDG s」について学んできました。今、地球が抱える問題について、持続可能な社会作りを目指し、多くの企業や団体が、事業の一環として、または社会貢献として環境問題と向き合っていることを調べました。そこからつながる学びとして、今度は自分たちができる社会貢献について、活動を広げてみようと思っています。ご家庭で以下の対象になる「服」がありましたら、持たせていただけますよう、ご協力をお願いいたします。

- ・企画企業団体 UNIQLO GU
- ・プロジェクト名 『届けよう、服のチカラ』プロジェクト
- ・プロジェクトの内容

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) とファーストリテイリングとのパートナーシップのもとに取り組む、小中学生が対象の学習活動。社員による授業を受けたのち、子ども達が主体となって、校内・地域へ協力を呼びかけ、着なくなった子供服を回収します。回収した服は、難民などの服を本当に必要とする人々に届けられます。【今回は、感染予防のため、家庭以外への持ちかけはしません】

- ・ご協力をお願い 服の回収のご協力をお願いします。
 - 子供服のみ (赤ちゃん用～160cm)
 - 洗濯した物
 - 受け付けない物 小物類
 - ×下着 ×帽子 ×靴
 - ×マフラー・ベルト等
- ・回収期間 (6月～11月) 集まりしだい、紙袋などに入れて持たせてください。

授業の様子から



2. 成果

○記録

授業後の児童の感想から

とど
"届けよう、服のチカラ"プロジェクト
しほやうかんそうなん しよがくせいしやう
授業感想文(小学生用)

がくせい 学級名	福島県 郡山市 桑野	しょうがくせい 小学校
がくせい 学年	6年	

しほやうかん
■ 授業を受けて、思ったこと、感じたことを書いてください。

世界には難民の人がたくさんいることが分かりました。なので、自分もいなくなった服は捨てずに難民の人に使って、難民の人たちが少くともおこなえてくれるとうれいなと思いました。また、服には、(物を防いだり)日差しから体を守る、保健衛生的機能とおしゃれを兼ねたり気持ちをあらわしたりする社会的機能があることが分かりました。自分たちができることを、17の目標を達成しています。

とど
"届けよう、服のチカラ"プロジェクト
しほやうかんそうなん しよがくせいしやう
授業感想文(小学生用)

がくせい 学級名	福島県 郡山市 桑野	しょうがくせい 小学校
がくせい 学年	6年	

しほやうかん
■ 授業を受けて、思ったこと、感じたことを書いてください。

私は授業を受けて、今まで月服はダンスの中にしまったりしていたけれど、それだと服がもたないなくなってしまうことに気がつきました。また、服は身体を温めたりけがを防止したりして私たちの命を守ったり所属や職業をあらわしたりおしゃれを兼ねたりして自分の個性を表していることも分かりました。私はこの授業を受けて、服の大切さも分かりました。なので資料をしっかりと読んでいます。

とど
"届けよう、服のチカラ"プロジェクト
しほやうかんそうなん しよがくせいしやう
授業感想文(小学生用)

がくせい 学級名	福島県 郡山市 桑野	しょうがくせい 小学校
がくせい 学年	6年	

しほやうかん
■ 授業を受けて、思ったこと、感じたことを書いてください。

ほくは、服に体を守る力があることが分かりました。体をあたためる事やけがから守る事、日さしから体を守る事が分かりました。そして、難民とは自分が住んでいる所がなくなるとにげている人だと分かりました。そして、難民の半分が子どもだと分かりました。そして、難民に必要な物が衣食住だと分かりました。なので、難民の人たちに服をこたえた方がいいと思います。

とど
"届けよう、服のチカラ"プロジェクト
しほやうかんそうなん しよがくせいしやう
授業感想文(小学生用)

がくせい 学級名	福島県 郡山市 桑野	しょうがくせい 小学校
がくせい 学年	6年	

しほやうかん
■ 授業を受けて、思ったこと、感じたことを書いてください。

今までは難民のこた服の大切さをしるなかにけど、難民のこと難民の多さをしって、難民の人のためにできることはないか考えることができた。また、今までは、服を捨てたのでここからは本当にそれは必要か考えることもたけ長く使おうと思いました。他は服がなくて困っている人にふるまると4つをなくしていき、リサイクルするなどしてごみとして捨てるのではない方法を考えようと思いました。

○ 児童生徒の変容など

〈調べる〉活動について

- ・子ども達は、メディアやポスター、公共施設や商業施設、各種商品などでSDGsの文字を目にしたり、聞いたりする機会が増えた。SDGsについてのターゲットの分類や2030年までの目標であることなど漠然とした認識はあったものの、今回の取り組みで具体的に自分が世界とつながる意思が高まった。興味がある内容について調べていく中で、目標12「つくる責任 つかう責任」を軸にしながら、難民問題、環境問題、人権問題、平和についてなど自分のテーマを決めて調べる学習を深めることができた。

〈広める〉〈集める〉について

- ・コロナ禍で子ども達の活動に制限があり、周囲への働きかけができない状況であったが、その中でも工夫して活動する姿が見られた。地域への働きかけが難しいなら、各家庭や保護者を通して回収を呼びかけられないだろうか、校内の友達に呼びかけてみようか、ポスターを貼ったり昇降口に説明書を置いたりしてはどうか、下級生に難民について伝えるにはどうしたらよいかなど、それぞれのアイデアを形にしながら活動を広げる姿が見られた。
- ・今回のプロジェクトについてはコロナ禍で講師派遣がかなわない状況でも、映像授業で参加することが可能であった。企業のDVD資料は内容が充実しており、SDGsや難民問題、服が持つ力や可能性についてわかりやすくまとめられていた。今回は、ユニクロ、GU「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加した形だが、多くの企業で、授業とタイアップできるプロジェクトが立ち上がっている。総合的な学習と、企業の取り組み(CSR)をつなげて教材を作っていくことは、子ども達の視野を広げるために有効であると思う。

〈届ける〉〈まとめる〉について

- ・難民について問題意識を持って、実際に行動をつなげることはなかなか難しい。そこで、企業の力を通して服を届けることができたのは活動してきた児童にとっても達成感を味わえる取り組みとなった。自分で発信したものが、形になり還元される経験は、今後も生きる力となっていくものと思われる。
- ・活動へ協力してくれた方へ、「服の回収協力へのお礼」として礼状を書いたり、掲示したり、分担して各教室を回ったりすることができた。回収活動だけでなく、周囲の方へ感謝の思いをもつことや、自らの学習や取り組みの達成感につながるものとなった。

42 大島小学校

1 目標6「安全な水とトイレを世界中に」 水資源保護の取組

○ 対象学年、委員会 など

第4学年

○ 具体的な取組、活動内容 など

第4学年では、1学期に「住みよいくらし」、2学期に「郷土について調べよう」という合科的な指導の単元を設定し、総合的な学習の時間・社会科・国語科を合科として扱う計画を立てていた。しかし、新型コロナの影響から1学期の見学ができなかったこともあり、2学期に集中して取り組むこととなった。特に、見学を通して職業について調べるとともに、安積開拓や安積疎水の完成に尽力した人々について学んだり、苦勞して郡山にもたらされた水の大切さについて学んだりした。

○ 委員会だよりや校内・校外に発信したポスターやちらし など

国語の「新聞をつくろう」の単元に関連させて、児童一人一人に見学などで学んだことを新聞にまとめさせた。



○ 活動に取り組む写真 など



(説明を熱心に聞いてメモをとる様子)



(見学している様子)

2 成果

○ 学習を進めることで学んだこと など

- ・児童が毎日あたりまえに使っている水に目を向け、誰もが安全に水を利用できるように、どのような取り組みが行われているのか、興味関心を高めて学習活動を進めることで、先人の取り組みを学習しながら水資源の大切さを理解させることができた。

○ 児童生徒の変容 など

- ・学習を進めることで、安全な飲み水が出る水道や清潔なトイレのありがたさを理解し、限りある水資源を将来にわたって使うために、水を大切にしようという心情を高めることができた。

43 緑ヶ丘第一小学校

1 目標 16 「平和と公正をすべての人に」

○ 対象学年 4・5・6年

○ 人権擁護員の方を講師に招いての人権教室の実施

○ 4・5・6年の道徳科において、12月の人権週間の時期に「人権教室」を実施した。

地域在住の人権擁護員の方を講師として招き、「いじめ」や「差別」をテーマにした授業を行った。
主題・題材は次のとおり。

・4年 みんななかよく「プレゼント」

・5年 相手の立場を考える「立ち止まる」

・6年 差別に立ち向かう勇気と行動「差別のない世界へ」

テーマに関するDVDを見て、その内容について意見を述べ合ったり、自分たちの生活を振り返り、反省すべきことや今後取り組みたいことを話し合ったりした。

講師の方には、授業の中で、児童の話し合いに加わって、意見を述べたり、児童に問いかけたりしていただいた。また、人権を守ることの大切さについて、お話しいただいた。



2 成果

○ 講師の方を招いたことやDVDを見たことにより、児童は、緊張した中でも集中力や真剣さが感じられ、問いに対して、熱心に考えたり答えたりしていた。

○ 「いじめ」や「差別」、「人権」について考えるよい機会となった。意見の発表やワークシートの記述の中に、自分自身の生き方を振り返り、どのように行動したいのかを述べたものが多く見られた。

目標4 質の高い教育をみんなに 特別支援学級の支援・充実の取組

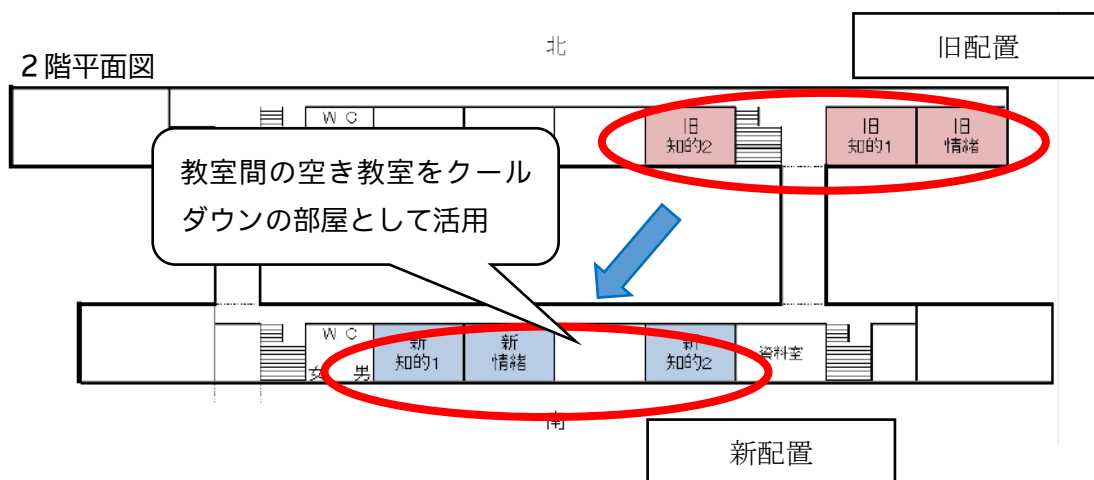
テーマ 一人一人が生き生きと学ぶ特別支援学級の環境整備と支援の充実

1 目的

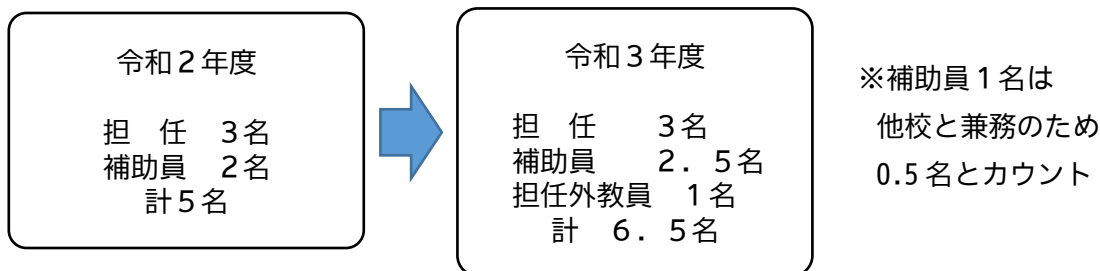
本校の特別支援学級における課題を少しでも解決し、一人一人が落ち着いた環境で手厚い支援を受けられることができるよう、教室等の環境を整備するとともに、人的な配置を工夫する。

2 取組の実際

(1) 特別支援学級の教室配置を大幅に変更する。



(2) 特別支援学級の人的配置を工夫し、手厚い支援を実現する。



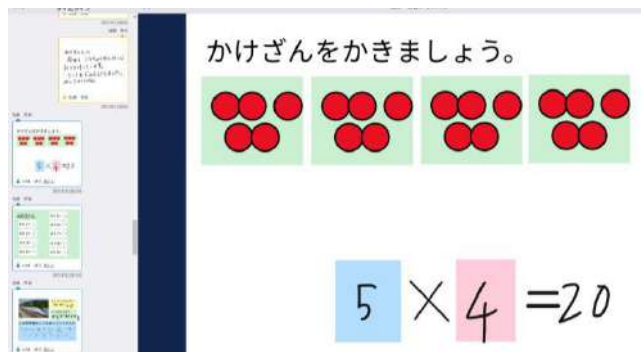
3 成果

- 特別支援学級の教室を、2階北校舎から2階南校舎へ移動し、より落ち着いた環境で学習できるようにした。通常学級の影響を受けにくいフロアのため、落ち着いて学習できるとともに、パニック状態になったときのクールダウンのスペースも確保でき、特別支援学級の子どもたちにふさわしい環境となった。
- 曜日によって違いがあるが、特別支援学級の3人の担任に加えて、特別支援学級補助員2.5名、担任外教員1名の指導体制を組んで指導にあたった。指導者の絶対数を増やすことで、よりきめ細かな指導・支援が可能となった。

45 大成小学校

目標4 「質の高い教育をみんなに」

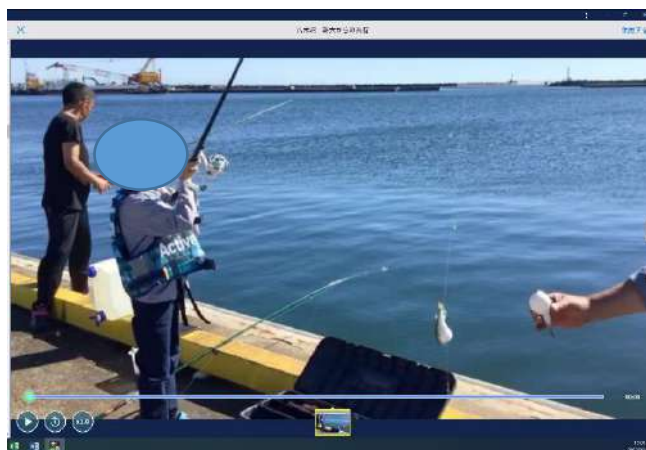
- ・本校では、不登校児童が複数名在籍しており、その子どもたちへの教育のツールとしてタブレットを活用している。
- ・Zoomによる授業の様子の視聴等も数回行ったが、不登校児童への刺激が強い心配があり、ロイロノートでのやり取りを中心に行っている。



ロイロノートによる問題の送付・提出



子どもが描いた絵を送ってくれることも…



休日の過ごし方やペットの動画を送ってくれて、それにコメントを届けた。



目標12 「つかう責任」

- ・本校では教職員数が全員で50名、児童数は700名を超える。印刷物であっても、一部を見直しすれば数百枚の紙の節約につながる。
- ・本年度は「職員会議のペーパーレス化」と「保護者配布資料のデジタル化によるメール添付」をめぐり、数万枚の用紙節約につながった。
- ・また、児童の練習問題等のワークシートも、ロイロノートの併用により相当の資源の節約を進めた。

SDGs（持続可能な開発目標）、誰もが分かる言葉になったが、具体的なイメージができていところまでは達していなかった。そこで、児童と一緒に、まずは、SDGsをイメージする活動に取り組んだ。

1 SDGsを知る

児童会活動で、SDGsを全校生に意識してもらうために、掲示物を作成し全学年の廊下に掲示して、学校全体でSDGsについて考えるように環境づくりを行った。掲示の中にクイズを入れることで、具体的なイメージを持つように工夫した。



2 授業での取組（6年）

○ 理科「SDGsとは？」

生活の中で、「何を意識して」「どんな取組」をするのかを調べ、まとめる活動に取り組んだ。

- ・ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）を心がけて、ゴミを減らす
- ・ 海の豊かさを守るための掲示物（目標14）作成・掲示 など

○ 国語科「私たちにできること」の学習を通して学校の中で資源や環境を大切にするために、

- ・ 現状は？
- ・ どんな問題があるのか？

を調べ、具体的な取組を考え、ポスターとして掲示をして全校生に発信した。

・ 学級（学校）のできること

- ・ 残菜を減らす（飢餓ゼロ）、使わない部屋の電気を消す（エネルギーをみんなに）、薄着・厚着（エネルギーをみんなに）、ごみの投げ捨てをしない（気候変動、海・陸の豊かさ） など



3 成果を目指して

○ SDGsという言葉は、どの子も分かるようになった。次年度は、具体的な取組が見える学校を目指して取り組んでいきたい。

- ・ 高学年・・・学校での活動の中のSDGsを探し、具体的な活動を考え、全校生で取り組むことができるような児童会活動等をつくる
- ・ 中学年・・・教科等の学習活動を通して、SDGsの考え方、目標を具体的に理解し、自分たちにできることに取り組むことができる
- ・ 低学年・・・学校での活動を通して、「SDGsとは何か」を低学年なりに考え、行動することができる

47 宮城小学校

1 目標12「人や国の不平等をなくそう」 オリ・パラ教育での取組

- 対象学年
 - ・ 全学年、特に6年生
- 具体的な取組、活動内容
 - ・ シットイング・バレーボール教室（令和3年7月8日）
昨年（「ポッチャ」）に引き続き、オリンピック・パラリンピック教育推進事業の一環で、講師の方を招聘し、障がい者スポーツであり、東京パラリンピック種目である「シットイング・バレーボール」を体験する。
 - ・ 東京パラリンピック聖火の種火起こし、採火式（令和3年8月11日）
障がいのある人達と協力して、東京パラリンピックの聖火の種火を起こし、「福島の火」として東京へ送り出す。
- 委員会だよりや校内・校外に発信したポスターやちらし
 - ・ 東京パラリンピック聖火の種火起こしに参加したことを作文にまとめ、全校生の前や「中田地区少年の主張」の場において発表する。また、郡山市児童作文コンクール、福島県児童作文コンクールにも出品する。
- 活動に取り組む写真



シットイング・バレーボール教室



東京パラリンピックの聖火の種火起こし、採火式

2 成果

- 記録やアンケート集計
 - ・ 中田地区少年の主張：優秀賞
 - ・ 郡山市児童作文コンクール、福島県児童作文コンクール：特選
- 児童生徒の変容
 - ・ 東京パラリンピックの種目である「シットイング・バレーボール」の体験学習をとおして、運動の楽しさや障がいをもつ人、障がい者スポーツへの理解を深め、児童一人一人に「障がいは個性」「みんなちがってみんないい」という多様性を受容する心が育った。
 - ・ 東京パラリンピック聖火の種火起こし、採火式に参加した6年生は、障がいがある人達（視覚聴覚学校の生徒や一般の成人の方）との共同作業をとおして、障がいのある人達への理解をさらに深めることができた。特に障がいのある人達への差別は絶対にしてはいけないと全員が感じ取ることができた。

1 目標 11「住み続けられるまちづくりを」 海老根和紙づくりの取組

○ 活動の目的

- ・ 海老根和紙づくりを通して、地域の文化を大切にしようという心情を育て、地域を大切に守っていけるようにする。
- ・ 和紙保存会の方の協力を得ながら、海老根和紙について学んだり鳥取市との交流をしたりすることを通して、地域に誇りをもてる子どもを育てる。

○ 具体的な取組（全校での取組）

- ① 和紙づくりの材料の一つであるトロロアオイを栽培する。
※ 6月に種を植え、11月に収穫する。
- ② 地域で行われる「秋蛸」の作品を作る。（9月）
「秋蛸」＝和紙に絵を描き、筒状にし、中に火を灯し灯ろうにする。
※ 祖父母参観の際に製作に協力してもらう。
- ③ 「秋蛸」の行事に参加する。（9月）
- ④ 学校周辺で楮を収穫する。（11月）
- ⑤ 楮の皮むき体験、紙すき体験をする。（11月）
※ 6年生の和紙は卒業証書に使われる。
その他、うちわや一閑張りの作品製作などに活用する。



トロロアオイ種まき・収穫



秋蛸



楮収穫



楮皮むき



紙すき

○ 鳥取市（姉妹都市）との交流

- ・ 鳥取から送られた因州和紙を活用した作品を鳥取に送る。
- ・ 作品と一緒にメッセージを録画したビデオレターを送る。

2 成果

- 学校評価アンケートの「海老根小学校が好き」という項目においてほぼ 100%の児童が「はい」と答えており、学校に愛着をもっていることが分かる。また紙すきを毎年行っているため、学年が上がるごとに技能が向上し、自信をもって紙すきを行っている様子が見られた。
- 海老根フェスティバル（学習発表会）で海老根和紙についての昔語りを堂々と発表する学年があるなど、地域文化に誇りをもっていることがうかがえる。

1 授業で取り組んだ実践

(1) 5年社会科「SDGsについて考えよう」

各学年では、発達段階に応じて「SDGs」を教育課程に位置付けている。

5年生社会科「SDGsについて考えよう」では、普段目にしていないロゴの意味や、「どうして今SDGsが必要なのか」などについて話し合った。その中で、「目標があった方が活動に取り組みやすいね」「御館小学校だったら何番の目標がいいのかな」など自分事としてSDGsを捉えている子どもの姿が見られた。



(2) 3年総合的な学習の時間「もっと知ろう中田町のこと」

SDGs 11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」に向けて

3年生は、「知っているようで知らない中田町を調べよう」というめあてをたてて、見学学習や調べ学習に取り組んだ。



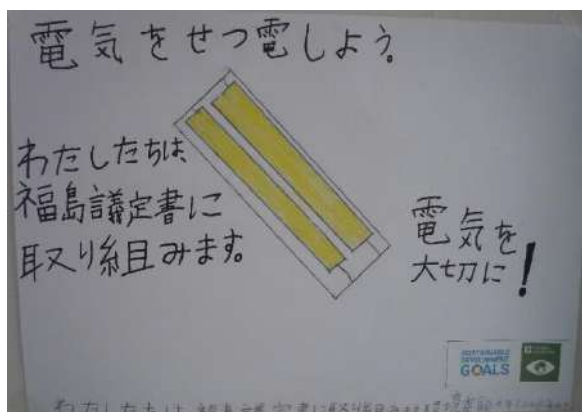
歌舞伎衣装小屋見学の様子



中田町の歴史について学習している様子

2 委員会活動で取り組んだ実践

毎年、環境委員会が取り組んでいる「福島議定書」の活動とSDGsを関連付けて活動を進めた。子どもたちから、13番の目標「気候変動に具体的な対策を」のマークをポスターに入れて校内に貼りたいというアイデアが出て、委員会活動で実践をしてきた。



3 小中連携での取り組み

御館小中学校連絡協議会が1月に行われ、その中で「小学校と中学校のSDGsへの取組をお互いに紹介できないか」と話題になった。そこで、2月に両校をZoom配信でつなぎ、お互いの取り組みを紹介し合う実践を行った。この実践によって、3月に卒業する6年生が中学校のSDGsの取組について見通しを持つこともでき、少しでも中一ギャップを減らすことができたことも成果の一つとなった。



本校では、年間を通して「やさしい気持ち」を大切にしてきた。全校児童、全教職員に「ふわふわ言葉」という思いやりのある言葉を意識させ、SDG 16の目標を合言葉に教育活動に取り組んでいる。



児童昇降口にある「こころの木」

中 学 校 編

1 日和田中学校

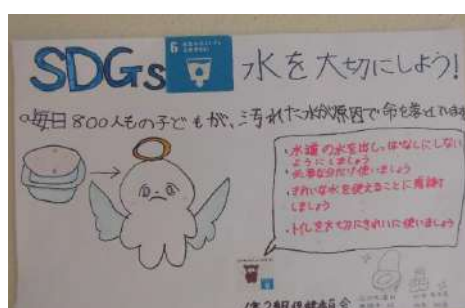
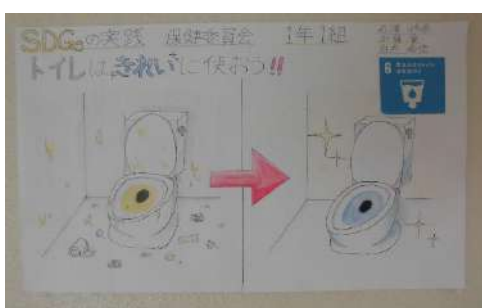
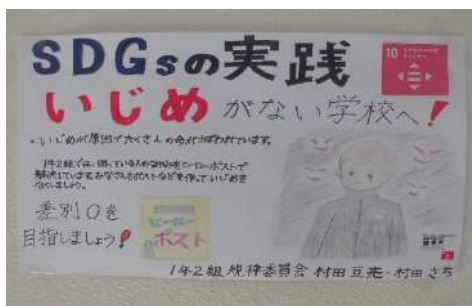
1 総合学習での取り組み

(1) 1年3学級 (86名)

(2) 活動内容

○ SDGsの視点から、各委員会で呼びかけたいことをポスターにしよう。

(3) 各委員会で作成したポスター



(4) 委員会活動の様子

○ 保健委員会



2 成果

- SDGsという大きな課題を身近な課題として、一人ひとりの生徒が取り組むことができ、生徒のSDGsに対する関心意欲を高めることができた。
- ポスターを作製し、自分たちの取り組みを全校生に発信するなど、一人ひとりの生徒の表現力の向上を図ることができた。

2 行健中学校

1 具体的取り組みについて

(1) S D G s の意識高揚のための広報活動

学校だより「天行健」をとおして、生徒・保護者に対して S D G s の基本的な考え方等を周知し、S D G s に関する学習の基盤作りを行った。

(2) 放送委員会の取り組みについて

放送委員会が中心となって、中学校放送コンテストの番組作成で地元企業の S D G s への取り組みを取材し、コンテストに応募した。

(3) 給食残滓削減に向けた取り組みについて

生徒会、給食委員会、放送委員会が中心となって、給食残滓の削減に取り組んだ。放送委員会は、放送コンテストの作品で給食残滓について番組を作成しコンテストに応募するとともに、文化祭で作品を全校生に発表するなど、全校生への呼びかけにも活用した。また、生徒会や給食委員会は、残滓減少への呼びかけや残渣量のチェックなどにより、全校生徒への意識化を図った。

2 成果

(1) 放送委員会の生徒は、毎日登下校する道筋に S D G s の取り組みを大きく掲げている企業を目にして、取材を思い立ったという。生徒が主体的に S D G s に関連した学習をしようとする意識を持ったことがまず大きな成果であった。

(2) 給食の残滓については、非常に素晴らしい成果をあげることができた。特に、文化祭直後の 12 月の残滓量については、前年度と比べても、給食センターの平均と比べても下表のように、非常に少なくすることができた。

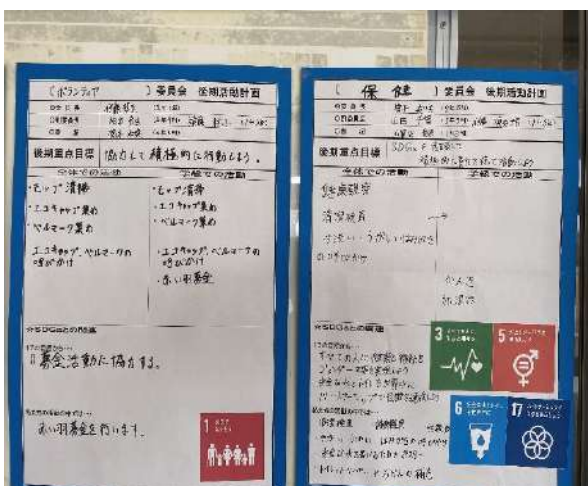
【12月の残滓量】

	行健中	給食センター受配校平均
副食全体（令和2年度）	9.0%	12.1%
副食全体（令和3年度）	5.7%	9.3%
副菜のみ（令和2年度）	21.9%	24.4%
副菜のみ（令和3年度）	10.6%	16.5%

3 明健中学校

1 生徒会専門委員会での取り組み

(1) SDGsと専門委員会の関連づけ



2 授業での取り組み

(1) 家庭科での取り組み

- 3Rについての学習。牛乳パックを活用して小物入れを制作する。



○ 3年生の家庭科では、リサイクル（ごみを資源として再び利用すること）についての学習の際、リサイクルの実践として、廃材の牛乳パックを活用して、小物入れを制作した。授業の終わりには、SDGsの「12つくる責任 つかう責任」に関連していることを説明した。授業後、「SDGsの実践は身近なところからできる」という感想が生徒からあった。

(2) 特別支援学級 自立活動での取り組み

- SDGsについての学習。トイレットペーパーの芯を活用して、クリスマスリースを制作する。



○ 特別支援学級でSDGsを学ぶ際に、トイレットペーパーの芯を利用して、クリスマスリースの制作を行った。特別支援学級の生徒に、実体験させることにより、SDGsの趣旨を理解させることができた。特別支援学級では、文化祭の作品も廃材を利用して制作しており、年間を通して、SDGsの学習を行っている。

○ 本校では、全ての専門委員会でSDGsと関連づけて活動を行っている。生徒がSDGsの17の目標から、委員会の活動目標を考え、日々活動を実践している。例えば環境美化委員会では「15陸の豊かさも守ろう」をテーマに、ゴミの分別回収やゴミを減らす運動に取り組んでいる。また、給食委員会では「2飢餓をゼロに」「3すべての人に健康と福祉を」「12つくる責任 つかう責任」をテーマに食べ残しを減らすことを目的に、配膳の工夫や一口でも多く食べることを学級で呼びかけている。

○ SDGsへの学校での取り組みや委員会の活動の様子を学校だよりやホームページにより、保護者や地域に発信している。

4 安積中学校

1 SDGsの取り組みについて

今年度は、専門委員会でSDGsについて考えていくことを目標に取り組んできた。校内には数カ所にSDGs関連のポスターや掲示物が貼られている。まずは、SDGsとは何かを知るところから始めていき、次のような流れで取り組みを行った。

9月…① SDGsを知る

- ・ 17のゴールとその内容について掲示。【図1】

② SDGsについて考える

- ・ 各専門委員会で何ができるか、もしくは現在取り組んでいる活動がSDGsの、どの項目に当てはまるかを話し合う。

③ 掲示物の作成

- ・ 各専門委員会で行動宣言をする。



【図1】SDGsに関する掲示物

【図2】行動宣言

10月以降…9月に決定した行動宣言をもとに、実践をする。

●実践例

- ・ 図書委員会 目標12「つくる責任 つかう責任」

文化祭でおすすめの本を展示する際、割り箸やペットボトルを再利用してブックスタンドやブックエンドを作った。【図3】

- ・ ボランティア委員会 目標3「すべての人に健康と福祉を」

エコキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に取り組んだ。【図4】



【図3】ペットボトル・割り箸を再利用したブックスタンド

【図4】エコキャップ回収箱

2 成果

SDGsに対する生徒の意識は少しずつ高まっているが、実践までには至っていない専門委員会もある。来年度は、計画的に実施できるようにしたい。新たな活動を取り入れながらも、今取り組んでいる活動がどのゴールの達成につながるのかを考え、より活発な活動を目指すようにしていきたい。

5 安積第二中学校

1 SDGs 学習講座

郡山市政策開発部の方を講師として、SDGs 学習講座を行った。市役所と各教室をZoomでつなぎ、動画を見たり、クイズに答えたりする中でSDGs について理解を深めた。



2 文化祭での発表会

総合的な学習の時間に各学年で調べたことを、文化祭で発表した。



3 各委員会での活動

SDGsにある17の目標と委員会活動との関連を意識し、活動内容に活かした。

4 小中交流

12月1日に来年度入学予定の小学6年生を対象に、中学校説明会を実施した。

その際、生徒会役員の代表生徒が中学校の生活を紹介するとともに、総合的な学習で学んだSDGsの内容も話をし、学んだ成果を披露した。



令和3年度後期 専門委員会の活動

現在行っている活動が、SDGs 17の目標のどれに関連するのを意識し、活動していきましょう

番号	目標	活動内容	委員会
1	貧困をなくそう		
2	飢餓をゼロに	食べ残しを減らす	給食
3	すべての人に健康と福祉を	朝の挨拶運動(生活) 健康診断(保健)	生活 保健
4	質の高い教育をみんなに	努力事項と注意事項の呼びかけ(生活) 自主学習の提出率の発表 定期テストの予想問題作成(学習) 学級新聞作成 読書の呼びかけ(図書) 学校生活のサポート(放送)	生活 学習 図書 放送
5	ジェンダー平等を実現しよう		
6	安全な水とトイレを世界中に	トイレトイレットペーパー補充、水質検査	保健
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	雪かき、落ち葉掃き	環境
8	働きがいも経済成長も		
9	産業と技術革新の基盤をつくろう		
10	人や国の不平等をなくそう		
11	住み続けられるまちづくりを		
12	つくる責任つかう責任	清掃用具の管理	環境
13	気候変動に具体的な対策を	加湿器の管理	保健
14	海の豊かさを守ろう	ごみ回収	環境
15	陸の豊かさを守ろう	ごみ回収	環境
16	平和と公正をすべての人に		
17	パートナーシップで目標を達成しよう		

令和3年12月10日の話し合いから

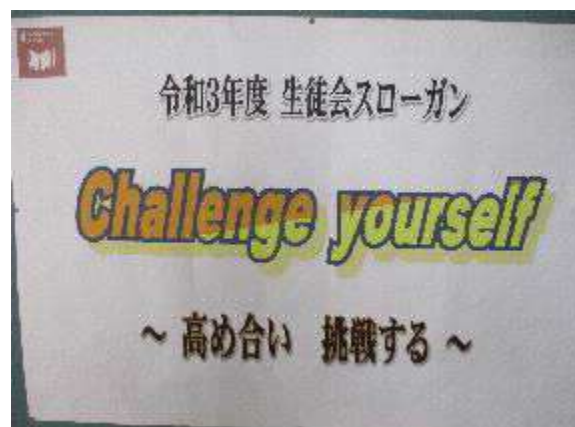
6 三穂田中学校

1 目標4「質の高い教育をみんなに」学校スローガンの設定

- 対象学年：全校生
- 活動の主体：生徒会
- 目標4の実現に向け、毎年、全校生で話し合い、学校スローガンを設定している。各学級で、三穂田中をより良くするために必要なキーワードを出し合い、全体で共有。最終的に生徒会役員が意見を集約し、学校スローガンを設定している。



～各学級で
スローガンのもとになるキーワードを話し合う～



～令和3年度の学校スローガン～

2 目標12「つくる責任 つかう責任」食品ロス削減の取組

- 活動の主体：保健・給食委員会
- 食品ロス削減に向けた取組として、残菜量の可視化を行っている。2日分の残菜量を可視化することで、前日との比較をすることができ、生徒たちの意識に呼びかける工夫をしている。



～配膳室前に準備した掲示～



～新入生体験入学時の生徒会役員からの説明～

3 その他

- 新入生体験入学でのSDGsの実践紹介
 - ・ 11月に実施した「新入生体験入学」の中で、生徒会役員による学校紹介を実施。その中で、本校で取り組んでいるSDGsの実践について紹介したり、SDGsクイズを出題したりして、新入生とSDGsに関する情報を共有する取組を行った。

7 逢瀬中学校

1 SDGsへの理解推進のための取組

(1) 対象学年：全学年

(2) 具体的な取組・活動内容について

読売新聞が主催する「2030SDGsチャレンジ」に学校として応募し、東京本社教育ネットワーク事務局発行の「猫ピッチャーだってSDGs」という冊子を全校生徒分いただいた。各学級に本冊子を保管し、授業や学級活動、特別な教科道徳の時間等で関連する目標や項目を調べ、生徒のSDGsへの興味関心や理解推進のための活動を行った。

(3) 校内・校外に発信した内容

校内の至る所にSDGsの17の目標を掲示するとともに、教職員による17の目標に関連した呼びかけを掲示した。

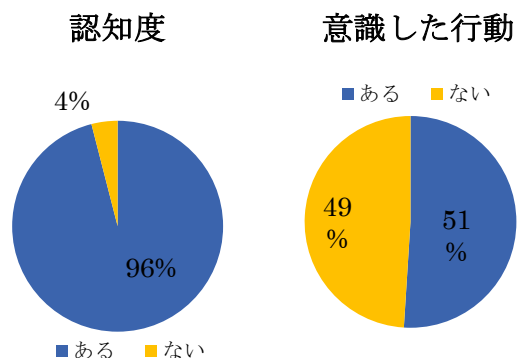
さらに、家庭や地域に向けてSDGsの理解促進を図るため、学校ホームページ等で広く周知した。

(4) 取組の実際（写真）



(5) 成果

SDGsの行動目標を目にしたことのある生徒は年度当初96%と認知度は高かったが、実施に何かを意識して行動している生徒は51%にとどまっていた。そこで今年度はまず理解促進を図るための実践を行った。通常教育活動の中にもSDGsと関連していることが多いことに生徒だけではなく教師も気がつき、理解促進が図られたと考える。また、SDGsを推進するために、自分たちができる実践は何か、生徒会役員を中心として現在検討に入っており、次年度は生徒を主体とした取組に期待したいと考える。



2 学級活動の取組

(1) 対象学年：2 学年

(2) 具体的な取組・活動内容について

読売新聞「猫ピッチャーだってSDGs」を活用して理解促進を図った2 学年において、「2030 年（23 歳）までに行いたいSDGsの取組」と題したスピーチ原稿を作成し、学級内で発表した。

(3) 校内・校外に発信した内容

学年で発表した中で、代表生徒のスピーチ原稿を学年だよりに掲載し、保護者にも周知を図った。

(4) 取組の実際（写真）



(5) 成果

2 学年の生徒はSDGsを学ぶことで、自分には何ができるのかを考えるきっかけとなった。また、2030 年までに行いたい取組として具体的に考え、学級内で発表する活動をとおして、一層SDGsへの理解が深まった。

【生徒の発表原稿より】

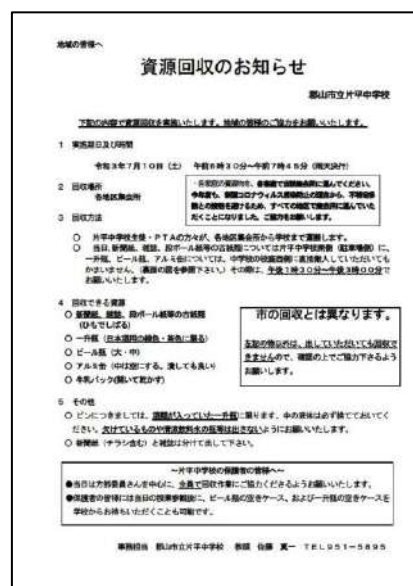
2030 年までに行いたいことは、大雨被害を少しでも減らすことです。日本はこれまでに経験したことがないような強い雨が何日も降り、各地で災害が起きています。ゲリラ豪雨という言葉聞いたことがありますか？梅雨の季節、各地で川が氾濫し茶色い濁った水が家の中まで入り込んだという記事が新聞に載っていました。大量の雨で山の斜面も地盤もゆるくなり、崩れた土砂に家がのみ込まれ命が失われる被害もありました。しかし、梅雨が明けると猛暑日が毎日のように続く時もありました。こうした災害や猛暑が続く日本を変えるためにはどうすればいいのか。こうした変化は日本だけでなく世界中で起きています。北極の氷が解け、海面上昇によって土地が沈みそうな地域もあります。雨が長い間降らない干ばつで木が枯れ、砂漠化する地域もあります。これ以上ひどくならないように、僕にもできることを見つけ、1つ1つ取り組んでいきたいです。そして自分1人の力がとても大きな貢献とはいかなくても、続けようと思います。

8 片平中学校

1 目標11「住み続けられるまちづくりを」

○ 全学年「資源回収活動」

本校では、年1回の資源回収を行っている。各家庭および地域住民に「資源回収のお知らせ」を配付し、新聞紙・雑誌・段ボール・一升瓶・アルミ缶・牛乳パックなどリサイクル可能なものを集めている。地域の方々が各地区の集会所に資源物を持参し、生徒・保護者で学校に資源物を運んでくる。



○ 全学年「うねめ太鼓」

本校では、伝統文化に学ぶ学習として、地域の特徴でもある「うねめ太鼓」を実施している。地域人材（うねめ太鼓保存会）の指導を得て文化祭等で発表している。郷土愛や地域文化の継承を通して自信や感動を体得させ、豊かな心を育てている。



○ 3学年「聴覚支援学校交流」

身体に障がいがある人について考え、出会いや交流を通して障がい者への理解を深めるため、聴覚支援学校との交流を毎年行っている。聴覚支援学校教員による事前指導、Google Meetによる交流を通し、訪問当日は壁画制作を行った。



2 成果

○ 資源回収

生徒が地域の資源物回収に参加することにより、リサイクルの大切さや地域に貢献することの大切さを実感させることができた。

○ うねめ太鼓

文化祭や音楽学習発表会での演奏を通して、聴衆に大きな感動を与えることができ、生徒の自己肯定感も高まった。地域の人材を通して伝統文化の大切さを実感させることができた。

○ 聴覚支援学校交流

簡単な手話を通してコミュニケーションを図り、作品を共同制作することで聴覚に障がいがある人への理解を深め、バリアフリー社会の実現に向けて意識を高めさせることができた。

9 喜久田中学校

1 目標 12「つくる責任 つかう責任」 リサイクルボックスの取組

- 対象学年、委員会
全校生徒、全教職員
- 具体的な取組、活動内容
不要な紙類を職員室や教室に設置してあるリサイクルボックスに集めている。
- 委員会だよりや校内・校外に発信したポスターやちらし
特にない。(ずっとやっているの)
- 活動に取り組む写真 など



【職員室内リサイクルボックス】



【教室内リサイクルボックス】

2 目標 12「つくる責任 つかう責任」 毎日資源回収の取組

- 対象学年、委員会
全校生徒、全教職員
- 具体的な取組、活動内容
資源回収は、日を決めずに毎朝行っている。
- 委員会だよりや校内・校外に発信したポスターやちらし
学校だよりで周知するとともに、PTA総会で呼びかけした。
- 活動に取り組む写真

お知らせ

4月27日(火)に半年間計め込んだ資源物の搬出を行いました。回収にご協力いただきありがとうございました。この益金につきましては、生徒たちの活動資金として有効に活用してまいります。

なお、今後も資源物回収を行います。平日の朝、1階ビロディに置いていただいで結構ですので、古紙・段ボール・アルミ缶回収のご協力をお願いいたします。

資源物売渡(陣野商店)	4,719円
市補助金(申請額)	13,550円
合計	18,269円

【学校だよりでお知らせ】



【昇降口に常設】

3 目標12「つくる責任 つかう責任」 食品ロスの取組

- 対象学年、委員会
給食委員会
- 具体的な取組、活動内容
昼休みに給食の残滓量調査を行い、食べ残しをしないよう呼びかける。
- 委員会だよりや校内・校外に発信したポスターやちらし
生徒会総会で発表した。
- 活動に取り組み写真

給食委員会		1年間の活動内容	
<委員長名>	2年1組 [名前]	4月	残食処理、衛生チェック
<副委員長名>	[名前]	5月	
<後援団体の報告・改善>		6月	
	遺棄することがあったけ水びんしっかり活動できた。	7月	
		8月	
		9月	
<来年度への引き継ぎ事項>		10月	
	・残食処理	11月	
	・衛生チェック	12月	
<卒業生の活動>		1月	
	・感染予防をしっかりとみんなが	2月	
	食べ残しをしない学校づくり	3月	



【生徒会総会要項の一部】

【昼休みの活動】

10 熱海中学校

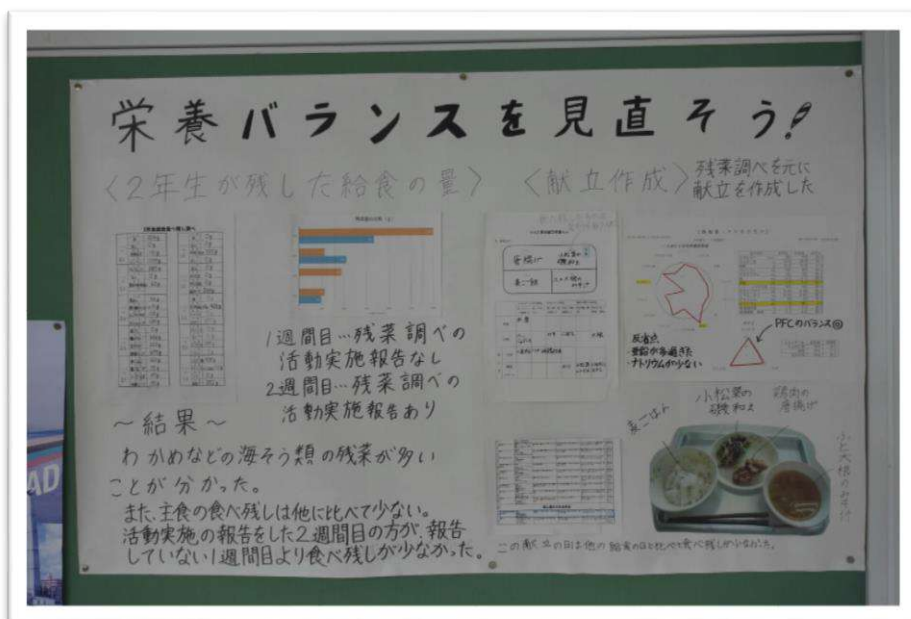
1 目標 12「つくる責任 つかう責任」 食品ロスの取組

- 保健委員会の2年生が中心に取り組んだ。
- SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」（生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守れるよう、責任ある行動をとろう）をもとに、中学生が今できることを保健委員会で考えさせた。

主なターゲットに「2030年までに、世界全体で、小売りや消費者レベルでの、1人当たりの食品廃棄物の量を半分に減らし、生産現場や、供給ルートでの食品損失を少なくする」という記述があり、『給食の食べ残し』が「食品ロス」につながり、それだけでなく、熱海中生の健康も損ねているのではないかという疑問が出された。

そこで、本校の食べ残しの現状をとらえ、それを少なくするにはと考え、給食のリクエスト献立という形で試みた。

- 保健委員会によるポスター



2 成果

- 栄養バランスと残菜の種類を考えたリクエスト献立を考え、それを実際に給食の献立として出してもらった。その結果、その日の残菜は極端に少なく、調べた結果通りに出て、生徒は大喜びであった。
- 今回の取り組みでは、給食時に「食べ残しを減らすことは、私たちの健康を損なうと同時に、地球環境へ悪影響を与えます」と放送を続けることによって残菜の量が一時的に減少したが、放送をやめると増えてしまった。
- 今回の取り組みによって、SDGsの一端を知るきっかけとなり、17の目標についてもっと知りたいと思う生徒が出てきて、生徒会活動や学級の活性化が図られるようになってきた。
- SDGsに対する取り組みを、もっと学校生活の中に生かしたいと考える。

11 守山中学校

1 学校全体での活動

(1) 全校集会における校長の話より めあて

「わたしたちは、SDGsにどのように取り組めばいいのでしょうか」

まとめ

SDGsのために自分ができうることを考え、協力し、継続して取り組むことが大切である。

→現在の取組が実はつながっている例を具体的に紹介

(2) 第2学期終業式の校長式辞より

①朝日新聞の別冊資料を使って

②全校生で新聞を広げて→新聞活用事業とも関連付けて

③学校教育目標の「自律」と「共生」とのつながり



2 生徒たちによる活動

(1) 生徒会執行部の活動

①福島議定書に関する取組

○電気料金や水道料金の削減に向けて→前月との料金比較のポスターを作成、コメントも入れて掲示

○トイレ便座の温度設定を下げる→呼びかけ、確認

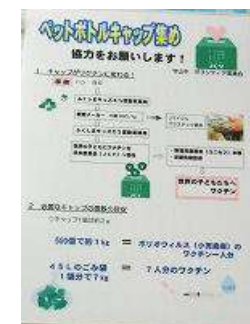
②生徒会総会要項をタブレット端末に保存→用紙節約

③アルミ缶回収（コロナ禍で昨年度、今年度は中止）

○生徒会執行部、方部生徒会を中心に

○生徒と教職員、保護者が協力して7月の第2土曜に行う授業参観後に実施

○学校だけでなく、地域の方々からも大きな協力を「チーム守山」が一体化した取組



(2) ボランティア委員会

①ペットボトルキャップ集め

○世界の子どもたちへワクチンを

3 成果と課題

(1) 「誰一人取り残さない学校教育」を目指し、不登校対応や特別支援教育に組織的に取り組んだ。会議や通信で繰り返し、校長から全校に呼びかけた。

(2) SDGsの取組により、生徒たちが自ら考え行動する「自律」や、自分だけでなくまわりを思いやる「共生」を意識するようになった。

(3) 来年度に向けて、人権を意識した【目標10】の「人や国の不平等をなくそう」やフードロスに関連した【目標2】「飢餓をゼロに」にも取り組んでいきたい。

12 高瀬中学校

1 目標3「すべての人に健康と福祉を」成長期における栄養指導 目標12「つくる責任つかう責任」食品ロス削減

(1) 対象学年全学年

(2) 具体的な取組・活動内容

①給食残食の実態（給食センター残食調査より）と給食アンケート調査

昨年度から今年度にかけて、11校中2～3番目に給食の残食（副菜）が多い状態が続いていた。（各校平均より4.0～6.5%過多）

そこで、給食に関して生徒がどのように感じているのかを知るため、7月にアンケート調査を実施した。その結果、全生徒の半数以上が給食時間が短いと感じていることがわかった。

給食はおいしいですか。	はい	87.6%	いいえ	12.3%		
給食を食べる時間についてどう感じていますか。	ない	55.3%	ちょうどいい	41.4%	十分だ	3.3%
給食の量に関してどう感じていますか。	多い	35.5%	ちょうどいい	58.6%	少ない	5.7%

②体格に応じた必要エネルギー量算出と適量供給

特に、1年生の残食量が多かったため、体格に見合った食事量が提供されているかどうかを給食センターに調査依頼した。すると、本校の1学年は全国平均より体格が小さく、体格に見合った給食量ではないことがわかったため、適量供給を実施してもらうこととなった。

③給食時間の5分延長

7月のアンケート結果を受け、2学期初日から給食時間を5分延長した。

④試験的盛り切りの実施

9月中旬の3日間、試験的に盛り切りを行い、同日、放送で、栄養面やSDGsに関連した食育指導を実施した。その際に、食べることを負担に感じている生徒がいることも考慮し、「盛り切りにする＝イコール絶対食べなければならないこ・と・で・は・な・い・」ことをしっかり説明した。

3日間すべて完食とはならなかったが、特に残食量が多いという日はなかった。また、どうしても生徒たちが苦手なメニューの日は、食缶に返す量が増える傾向があることがわかった。



あるクラスの配膳後の食缶



学校全体の残食



⑤栄養教諭による栄養教室の実施

10月上旬、発達に応じ学年別を実施した。食べることの役割、成長期に必要な栄養素と吸収、なぜ給食をしっかりと摂取することが大切なのかについて、専門的立場から話をいただいた。

⑥本格的な盛り切りのスタート

生徒や担任の協力を得て、10月から全クラスで盛り切りを開始した。開始当日には、放送で再度、配膳された給食を食べることの目的、すなわち、成長期に必要な栄養・エネルギーが摂取できることやフードロス削減にもつながることを説明し、無理をしない点についても付け加えた。

⑦地域学校保健委員会・小中連携協議会・コミュニティ・スクールとの連携

中学校の給食摂取状況と残食の実情について、小学校や地域、関係機関で話し合い、どうすれば残食を減らすことができるかについて意見を交わした。



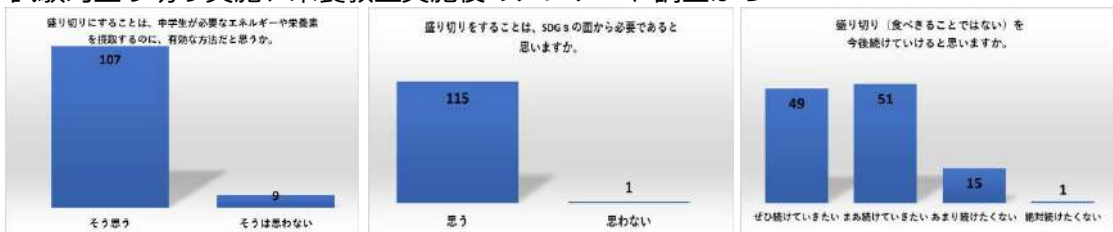
⑧学校便りや保健便りによる発信

生徒だけでなく保護者にも給食の残食を減らす取組を知ってもらおうと、アンケート結果や栄養教室の様子、給食配膳員の声などを掲載したお便りを発行した。



2 成果

(1) 試験的盛り切り実施、栄養教室実施後のアンケート調査から



盛り切りは、必要なエネルギーや栄養素を摂取するのに効果的な方法である、また、SDGsの面からも必要であると、大部分の生徒が答えた。盛り切りを続けていけるかの質問では、9割近くの生徒が続けていきたいと答えている。これは、盛り切りを試したことにより、自分が考えているよりも実際は食べられることに気付いたということ、また、中学生という時期にしっかり栄養を摂ることの大切さを理解したことが、これらの成果につながったのだと思われる。

(2) 食の専門家である栄養教諭による講話の効果

生徒たちは、中学生という成長期に必要な栄養素やエネルギー量がしっかり摂れているのか、実際の給食の摂取状況から計算し、グラフ化して、何が足りてないのかを視覚的に認識することができた。給食は理想的な食事であり、それと同じ質と量を朝や夜に摂ることが良いということ、特に、朝食を摂ることの効果についても詳しく学習することができた。

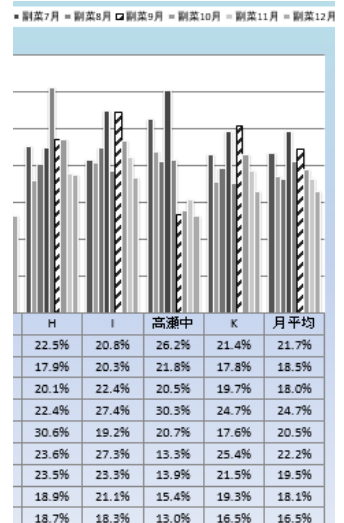
また、生徒は給食センターに集まる大量の残菜の写真を見て、それを燃やすためには多くの燃料が必要となり、地球温暖化に大きな影響を与えていることを身近に感じる事ができた。

(3) 給食の残食量の変化

右のグラフは、4月から12月までの副菜の残食率を表している。高瀬中は、9月から12月にかけて残食率が低くなっていることがわかる。特に、9月は残食率が13.3%となり11校中一番低い値となった。

ご飯に関しては、5月から9月までは、特に1年生の残食が多く1学級ご飯茶碗10杯ほどの残りがあったが、10月以降は徐々に減って、少量、あるいは、完食といった日も多く見られるようになった。

このことは、試験的盛り切りや栄養教室の他、給食時間の5分延長の効果が現れていると考えられる。給食の準備や後片付けに時間がかかる1年生にとって、たった5分の延長ではあるが、食材を噛んで味わうことのできる貴重なひとときになっている。



13 郡山第一中学校

1 総合的な学習の時間での取組

○ 郡山第一中学校 第2学年

○ 具体的な取組、活動内容 など

総合的な学習の時間を中心に、環境学習や郷土学習について取り組みながら、SDGsとの関連について学んだ。

「2年生全員で取り組むSDGs」というテーマに対して、自分たちができる取り組みについて話し合い、各学級ごとにできるSDGsの実践を考え、普段の学校生活の中でできる達成目標を定め、実践に結びつけた。

〈 各学級のSDGs達成目標 〉

2年1組 「給食の残菜をなくそう！」

2年2組 「給食を残さず食べよう！」～みんなで協力して目標を達成しよう～

2年3組 「節電・節水に取り組もう！」

2年4組 「一人一人が節水に取り組み、休み時間の掃除の時間は電気を消そう！」

2年5組 「給食の食べ残しを減らそう！」

2年6組 「みんなで節電を心がけよう！（給食のSDGs分け（残らないように）！）」

2年7組 「やめよう節食！食べよう給食！」「節電・節水を心がけよう！」

2年8組 「植物を大切にしよう！」

○ 活動に取り組む写真 など



環境学習（テーマ～家庭から環境を守る～）学年担当教師による講話から

2 成果

○ 生徒の変容

SDGsの達成目標について、身近のところから迫ることにより、目標達成のためには何をすれば良いのかが具体的になり、生徒にとって取り組みやすい実践となった。

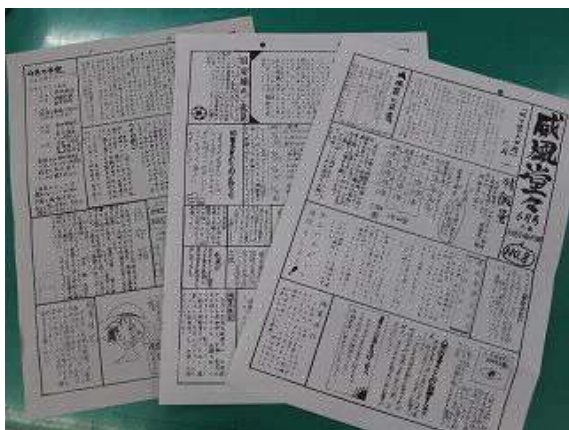
それぞれのクラスの話し合いにおいて、上記の目標の他にも、「ものを大切に使う」、「ペットボトルキャップの回収等のボランティア活動にさらに力をいれる」、「いじめをなくす活動に取り組む」等の意見があり、自分自身の生活や態度を振り返ることのできた学習となった。

14 郡山第二中学校

1. S D G s の取組み

生徒会を中心として、S D G sに関する呼びかけや、掲示物、生徒会新聞の記事の作成により、全校生徒の意識化を図っている。

また、委員会では、あいさつ運動や給食の食品ロスの呼びかけ、環境整備等、S D G sの17のゴールと関連した活動を行っている。(目標2、3、7、13など)



【生徒会新聞】



【S D G s を呼びかける掲示】

2. 生徒の変容

生徒会を中心として、S D G sに関する呼びかけを行った結果、各専門委員会の仕事を S D G sと関連させて捉えることができるようになってきた。

また、「もっと生徒会day」と称して、各専門委員会がそれぞれアイデアや工夫を凝らして取り組む姿が見られるようになってきた。

15 郡山第三中学校

本校では、全ての学級に拡大コピーしたSDGsのポスターを掲示することで、授業の内容や学校生活における活動がどのゴールにつながるかその都度考えやすくし、SDGsを身近なものとして捉えることから始まった。各学年で様々な取り組みを行ってきたが、ここでは1学年の総合的な学習の時間における取り組みを紹介する。

(1) 5月 SDGsについての調べ学習

タブレット端末のロイロノートに載せたwebサイトで、自分の興味のあるゴールに関する世界の現状と何を目標にしているのかを調べ、自分には何ができるか考えた。また、SDGsのかるたをすることによって、ゲーム感覚で学んだ。ワークシートに自分の考えをまとめ、教室に掲示した。



(2) 7月 出前講座

郡山市役所政策開発課「市政きらめき出前講座 SDGsってなに？」を利用し、市役所の講師の方にSDGsについて授業をしていただいた。コロナ禍ということでZoomによるリモート開催ではあったが、選択問題が豊富で積極的に手を挙げながら参加することができた。郡山市の現状を知り、特にゴミの多さについて衝撃を受けていて、自分たちに何ができるか考えるきっかけとなった。



(3) 10月 学習旅行

学習旅行は「防災」と「海」をテーマに計画を立てた。浪江町請戸地区と双葉町の原子力災害伝承館を見学し、東日本大震災について学んだ。子どもたちは当時2歳ということでほとんど記憶はなかったが、ガイドの方の話を真剣に聴いてメモをとっていた。午後は、いわき市のアクアマリンふくしまを見学し、海の豊かさを守るためにどのようなことができるか考えた。旅行後は学んだことを新聞にまとめて掲示した。




(4) その他

夏休みに家族で行ったSDGsについてまとめたり、後期の委員会活動が始まる前に所属する委員会ではどのような取り組みができるか考えたりした。

1 生徒会「SDGsの四中の取り組み」の実施について

- 内容： SDGsの理解を深め、テーマを意識して学校生活を送る態度を育てる目的で 17 のゴールを生徒会、各学年に分担してテーマと掲示場所（候補）を決め、夏休み中に各個人でテーマを考えた。その後、個人で考えたテーマを持ち寄り、各学級で話し合いをしてテーマを決定した。各クラスのテーマにそって、SDGsの実践をしている。自分たちの生活の中でできるSDGsの取り組みがあることを知り、テーマを意識して学校生活を送ることができている。

＜夏休み前に生徒会から全校で呼びかけを行った＞



今後の日程

7月中 代表委員会を開く

残り16のゴールを各クラス（1・2年：1つ 3年：2つ）に分担してテーマを決める

9月上旬まで
各クラスで学活等を利用してテーマを考える

生徒会

12 つかも委員会 つかも実行部

＜テーマ＞

全校で、無駄遣いをしないようにしましょう

＜掲示場所（候補）＞

生徒会室前廊下、水道トイレ等

＜決定した各クラスのテーマの一覧を掲示＞

＜各クラスのポスターを貼る生徒会役員＞

郡山四中 SDGs 17 のゴールのテーマ一覧			
ゴール	テーマ	作成学級等	設置場所
1 貧困をなくそう	募金や寄付、リサイクルに 進んで取り組もう	1-1	各学年室
2 飢餓をゼロに	食べられることに感謝して 食べ残しを減らそう	1-2	配膳室
3 すべての人に 健康と福祉を	規則正しい生活を徹底しよう	3-1	保健室前廊下
4 質の高い教育を みんなに	みんなで教え合おう	2-1	1階中央廊下
5 ジェンダー平等を 実現しよう	ジェンダー問題について 知識や理解を深めよう	3-3	職員室前廊下
6 安全な水とトイレ	水を大切に使い		



2 SDGsを授業でも

- 2年生説明文「モアイは語る」で「イースター島での出来事をSDGsの視点で捉えよう。」の目標のもと授業が展開された。テキストに書かれた内容をSDGsの17のゴールに照らし合わせながら捉えなおし、自分の考えを交えながら、別の説明文としてリライトする活動を行った。SDGsと関連させながら読み進めることで、より多角的に問題を捉え、自分の考えの形成につなげることができた。



＜授業で使用したワークシート＞

現代社会の課題をSDGsの視点、17のゴールに照らし合わせて考える課題＞

17 郡山第五中学校

1 複数の目標を関連付けて学ぶ学習活動

(1) 対象学年

第1学年 5学級 168名

(2) 具体的な取り組み、活動内容

① SDGs調べ

タブレット端末及びSDGsスタートブックを活用して、各自2つ程度目標を絞って調べる。

② 学習旅行

富良野自然塾では、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標12「つくる責任 つかう責任」、目標13「気候変動に具体的な対策を」などと関連付けながら、体験的に学んだ。

野口英世記念館では、目標3「すべての人に健康と福祉を」などと関連付けながら、野口英世の生涯について学んだ。

③ まとめ新聞の作成

学んだことを、ロイロノート上で新聞にまとめた。

(3) 活動に取り組む写真



地球についてガイドの説明を聞く様子



生徒のまとめ新聞

2 成果 (生徒の声)

- 私たちが便利な生活をするために自然が少なくなっていて、何百年後には森林が少なくなっていたり、平均気温がもっと上がっていたりすることを知り、今の生活のままではダメなんだと感じた。そのため、SDGsは本当に大切な取り組みなんだと分かり、これからは今まで以上に努力しようと思った。
- この学習旅行で、地球の大切さや、野口英世の偉大さについて知れました。これから、もっとSDGsに取り組んでいきたいと思います。

18 郡山第六中学校

1 生徒会を中心として2020年2月に各学年、学級毎にSDGsの17の目標を達成するための行動目標をそれぞれ設定し、それらを集約して「SDGs郡山六中2020」を作成した。そして校舎内にポスターなどを掲示し、生徒に啓発を図り、実践を促している。次年度以降、生徒会活動の活発化をねらいとし、行動目標のリニューアルを計画していきたい。



2 今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、集会活動がほとんど実施できない状況であった。

そこで、校内放送や昇降口の大型テレビジョンなどの活用により、できることから再チャレンジをしてきた。

①家庭に呼びかけ、外での活動や集まっの行動をせずに可能なリサイクル運動に取り組んだ。

- ・プルタブの回収
- ・エコキャップの回収

1階昇降口にプルタブとエコキャップの収集場所を定め、定期的に回収してきた。令和4年1月28日にエコキャップ205kgとプルタブをNP0法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に贈ることができた。

3 給食の残菜を少なくする取り組みも継続して行っている。

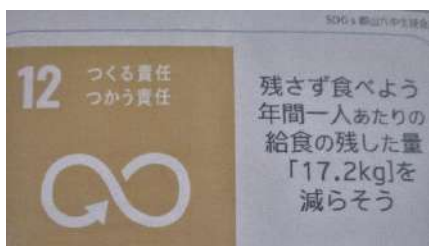
①金曜日を本校独自の「食品ロス削減デー」とし、食べ残しを少なくする努力をしている。

②給食時の校内放送では、給食委員会が毎月の残菜量の報告や食品ロス削減デーの周知を行い、学校全体で食品ロス削減に向けた行動に努めている。牛乳やおかずの残りが前月比減となることもあり、徐々に活動が浸透してきている。



②新聞報道により、郡山市内の方から「お役に立ちたいのでぜひエコキャップなどをお持ちします。」という反響もいただいている。

また、回収されたエコキャップやプルタブがどのように活用されているのかを確認し、生徒会新聞などで紹介することにより、次の活動につなげてい



4 SDGsの17の目標を学校生活の中にどのように組み入れていくかを再考するとともに、コロナ禍ではどんな活動が適切か、可能かを見極め、生徒会活動の一環として持続的に行っていくことができるようにしていきたい。

19 郡山第七中学校

1 生徒会各委員会の取組

- 生徒会本部及び各委員会で、SDGsの考えを取り入れた活動にはどのようなものがあるかを考え、実践する。

- 具体的な取組

【生活委員会】

- ・ 節水や節電を呼びかける。
- ・ 健康、体力向上のため昼休みに校庭で遊ぶよう呼びかける。

【給食委員会】

- ・ 残菜調べをする。

【広報委員会】

- ・ 学級新聞の記事の中に、SDGsに関係したものを載せる。

【美化委員会】

- ・ ごみを減らす、分別することを全校生に意識づける。

【保健委員会】

- ・ 清潔検査を実施し、ハンカチ・ティッシュを持って来るよう呼びかける。

【学習委員会】

- ・ テスト予想問題を作成したり、自主学習調べをしたりする。

【放送委員会】

- ・ SDGsの取組について放送で紹介する。

【図書委員会】

- ・ SDGsに関する図書を購入し、表示やポスターなどで紹介する。

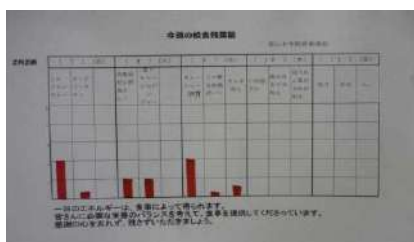
【JRC委員会】

- ・ 募金を呼びかける。

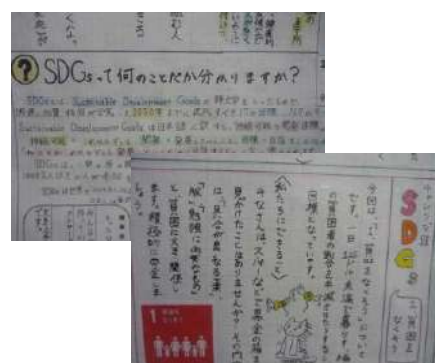
- 校内に掲示したポスターや新聞など



△購入した図書



△残菜調べ



△学級新聞

2 成果

- 生徒会の各委員会活動を通して、身近な生活の中にSDGsに関する課題があることがわかり、その課題を解決していこうという意識が徐々に高まってきた。
- 毎朝校舎周辺のゴミ拾いを進んで行っている生徒や、地域の清掃活動に参加したりする生徒の姿も見られるが、まだ活動が緒に就いたばかりなので、さらに多くの生徒の実践に結びつけていきたい。

SDGsに基づく「誰一人取り残さない学校」の実現を目指し、すべての生徒に包摂的かつ公正な質の高い教育の実現を図ることを学校経営の基盤とし、以下の実践を行った。

1 学びやすい環境づくりとどの子もわかる授業実践

(1) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境と授業実践

- 全ての生徒が、授業に集中できる教室環境整備を実践する。
- 全ての授業で板書の構造化を図り、全ての生徒にとって授業の流れがわかりやすく、学習内容の理解がより深まるようにする。
- ICTを効果的に活用することで、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業の実践
※ (様式1)「授業改善のためのタブレット端末活用」参照

2 心の教育の充実 (いじめを許さない、安心・安全な学校づくり)

(1) 学級力を向上させ、「いじめを許さない集団づくり」や「いじめが起きない学校づくり」によるいじめ撲滅への取り組み

- 学級力向上アンケートの実施と分析、その活用を通して学級力の向上を図る。
- 生徒会が中心となってあいさつ運動を実施し、学級・学年を超えた生徒同士のコミュニケーションの推進を図る。

(2) 全教員で取り組む教科「道徳」(ローテーション道徳の実施)

- 多様な道徳的な価値・実践力の育成を目指して、道徳授業を全教員(管理職務も含む)で取り組み、生徒が多様な考えや物事に触れる機会とする。

3 キャリア教育の推進

(1) 郡山版キャリアパスポートの活用

- 生徒一人一人が主体的に進路を選択できる能力と態度の育成

<実践例>

(1) 人権教室の実施

学年ごとにテーマを決めて、多様な「ひと」が集う社会にとって、自他の存在を認めていくことを目的に実施。

(2) 出前講座「SDGs(～持続可能なまちづくり～)」の実施 <写真1>

(3) 国際理解教育 出前講座「オランダについて学ぼう!!」の実施 <写真2>

(4) 租税教室、職業講話の実施

(5) 資源回収の実施、ペットボトルキャップ回収

(6) フォスタープラン活動(プラン・インターナショナル・ジャパン)



<写真1>



<写真2>

21 富田中学校

1 生徒会活動における実践

～実践例～

(1) 生徒会本部

- ・「福島議定書」事業に参加し、二酸化炭素排出量の削減目標を定め、生徒会本部を中心に委員会ごとに具体的な取組を提案し、実践した。
- ・「みんなでエコチャレンジ事業」への全校参加を呼びかけ、約 500 世帯が参加し県民総ぐるみの地球温暖化対策に寄与した。
- ・ふくしまエコライフ絵はがきコンテストに参加し、環境に負荷をかけないライフスタイルの普及啓発に寄与した。

<生徒作品例>



(2) 図書委員会

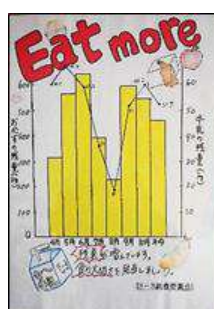
- ・SDGsに関連する本の紹介及びポスター掲示を行い、環境問題に対する意識啓発を行った。



(3) 給食委員会 目標12「つくる責任 つかう責任」 食品ロスの取組

- ・給食の残量を全校生徒に周知し、さらに、完食を呼びかけるポスターを掲示してフードロス削減に努めた。

<掲示ポスター>



(4) 美化委員会、保健委員会 目標 13「気候変動に具体的な対策を」 節水・節電

- ・節水・節電を呼びかけるポスターを掲示するとともに、清掃時には、バケツに入れる水の量を減らすよう呼びかけ、節水に対する意識を喚起した。
- ・トイレの洋式便座の蓋を閉めるようポスターで呼びかけ、さらに、設定温度を適切に管理し節電に努めた。



2 2学年総合学習での実践

2学年では、「SDGsとは何か?」、「なぜSDGsの考え方が生まれたのか?」を調べ、考えることによって、個人だけではなく富田中学校の活動に生かしていくために、SDGsの取組を調べ、発表会を行った。



～学習方法～

- ① ベネッセや国連が紹介するSDGsの動画を視聴し、内容を知るとともに興味のある達成目標を選ぶ。
- ② 興味をもった達成目標をもとにグループ分けを行い、その目標の課題と現状を調べる。
- ③ その課題と現状を解決するための方法を調べたり、考えたりしながら、「私たちがSDGsの目標とどう向き合っていくべきか」をロイロノートや模造紙を用いてプレゼンテーションやレポートにまとめる。
- ④ クラスごとの発表を行い、より具体的で、多くの人に共有すべき内容を学年発表会で紹介し合う。



3 成果と課題

- 今年度は、二酸化炭素排出量の削減目標を 0.5%と定め、生徒会及び専門委員会を中心にSDGs実現に向けた取組を推進し、節電・節水、省エネ、リサイクル活動を行った。結果、前年度比▲6.75%(1069.1kg-CO₂)で目標を達成し、「福島議定書」事業にて優秀賞を受賞した。
- 自分の興味・関心のある内容を調べることで、より積極的に調べる生徒が多くいた。自分たちが調べた内容を多くの人に知ってもらいたいという感想が多く見られた。
- 発表を聞き、自分の生活にどのように生かすのかを考える生徒が増えた。給食の残菜や雑巾を絞るバケツの水を減らすなど具体的な活動が見られるようになった。
- ロイロノートによるプレゼンテーションの作成や発表の機会を設けることによって、生徒の表現する力や情報技術に対するモラルや技能が高まった。
- 2学年で調べた実践を生徒会活動に生かす取組があるとよりよい活動となった。各専門委員長や生徒会の役員が調べた内容を基に活動していく支援が必要である。

22 大槻中学校

1 SDGsの目標12「つくる責任、つかう責任」に関わる食品ロスの取組

(1) 食育担当、給食委員会活動

(2) 取組の内容

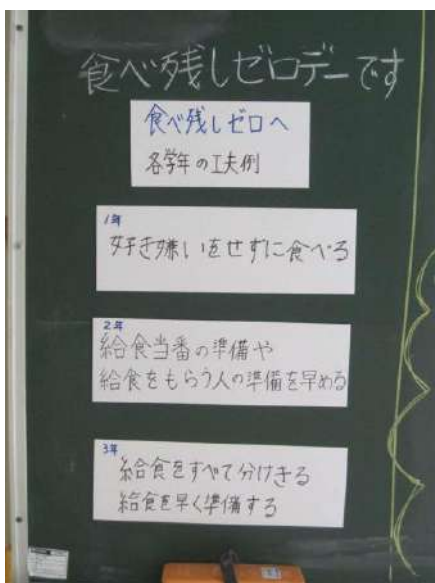
○ 「大槻中を残さいの少ない学校に！」 → 「残さいゼロの日」を設定

- ・ 給食委員による呼びかけ
- ・ 「残さい調査」の実施
- ・ 昨年度は学校で「残さいゼロの日」を設定したが、今年度は給食センターの「フードロス削減デー」に合わせて実施
- ・ 各学級の残さい量を報告してもらい、集計表を作成して報告
- ・ 「食育だより」での報告、啓発

(3) 食のコーナーの掲示、食育だよりの発行



(4) 活動に取り組む写真



2 成果等

(1) 残滓ゼロの日の結果報告、集計表

給食委員会 『残さいゼロの日』 残さい報告

学年 第 期

【残さいゼロ】の目標
 ① 配膳時にすべて分けきる。
 ② 苦手なものがある人は、食べられない人に食べさせてもらう。
 ③ 欠食、苦手なものも少量一口は食べてもらう。

● 報告

1月27日(木) 配食数: 人分 欠食者数: 人

献立名	記録終了時の様子 残っている分量	給食終了時の様子 残った分量	残滓率
沖繩風揚げごはん	およそ 人分	およそ 人分	%
牛乳	およそ 人分	およそ 人分	%
ハムチーズフライ	およそ 人分	およそ 人分	%
大根とえのきの味噌汁	およそ 人分	およそ 人分	%
スイートポテト	およそ 人分	およそ 人分	%

残滓率に換った分量(人分) × 100 = 配食数(人分)

※各委員が対象する日や学年では記入しない

<報告書の提出について> ※量減り中にも必ず提出する。

各学年の係長 → 給食委員長(2-1 海庭 達彦) → 1F給食室に提出

『残さいゼロの日』 残さい集計報告 1月27日 大崎中学校 給食委員会

1月27日(木) 残さい率(N%) = (給食終了時に残った分量(人分) / 給食配食数(人分)) × 100

献立名	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-1	2-2	2-3	2-4	課1	課2	課3	全学年平均残さい率
沖繩風揚げごはん	0	0	3.3	0	0	0	0	4.8	6.6	2.1	3.5	0	0	0	3.1%
牛乳	0	0	3.5	0	0	0	0	3.8	1.0	1.7	4.2	0	0	0	3.5%
ハムチーズフライ	0	0	0	0	0	0	0	1.0	2.0	2.6	0	0	0	0	4.6%
大根とえのきの味噌汁	0	0	3.5	0	0	0	0	3.8	2.7	2.1	3.3	0	0	0	4.5%
スイートポテト	0	0	0	0	0	0	0	3.8	0	3.2	0	0	0	0	3.3%

★『残さいゼロ』達成学級: 1-1 1-2 2-1 2-2 2-3 2-4 課1 課2 課3

<コメント>
 今年『残さいゼロ』を達成したクラスは、9クラスでした。2年生全学年達成です!!
 献立の中では、スイートポテトがもう少し少しかったです。ご報告ありがとうございます。引き続き、『残さいゼロ』を『フードロス削減』を推進してまいります。2月のフードロス削減デーは、『2月18日(水)』と『2月22日(火)』になります。



(2) 生徒の変容など

- ① 昨年度からの実施で「残さいゼロ」への意識が高まってきており、今年度はゼロを達成する学級数が多くなっている。
- ② 月1～2回の「フードロス削減デー」以外の日の残さいも少しずつ減ってきている。

3 SDGsに関する授業

(1) 3学年 技術・家庭(家庭分野)

(2) 取組の内容

- 「消費生活と環境」の授業のまとめとして、生徒各自が17目標の中から『私にもできるSDGs』をテーマに課題を設定し、夏季休業中に取り組んで、そのレポートを提出した。

(3) レポートを掲示した写真



4 成果等

(1) 取組の成果など

- ① 事前の実践計画までを授業で行っていたため、スムーズに実践できた生徒が多く、レポートの写真や報告内容が充実していた。
- ② 「私にもできる」SDGsの目標でとくに多かったテーマ
 - ・目標11：住み続けられるまちづくりを
 - ～ 道路や公園のゴミ拾い、水やエネルギーの使用量を減らす努力 等
 - ・目標12：作る責任つかう責任
 - ～ 食品ロスをなくすための工夫
(買い物、冷蔵庫内の整理、エコクッキング 等)
 - ～ 衣服の整理、リフォーム

(2) 生徒の変容など

- 自分にもできる身近な課題が、地球規模のSDGsにつながっていくという実践後の感想が多く見られた。

5 SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」に関わる製作作品の設計の取組

(1) 1学年 技術・家庭科(技術分野)、

- 材料と加工の技術による問題解決(問題を発見し、課題を設定しよう)

(2) 取組の内容

- 生徒個人が各家庭内で発見した解決すべき課題について、ロイロノートのカード内に撮影した写真と解決に向けたスケッチを取り込み、班で意見交換を行った。その際、末永く使い続けるために強度を考慮することや、材料を無駄なく使い切るための設計の重要性を考えさせた。

(3) 写真等



6 成果等

- (1) 相互に発表しながら、感想を述べたり、より良いアイデアの共有したりするなど、活発な活動が見られた。また、材料である木材の産地や、製材、輸送などの環境問題にも関心を持たせることができた。

7 SDGsの目標 3「すべての人に健康と福祉を」に関わるJRC委員会の取組み

(1) 全学年(生徒会JRC専門委員会)

(2) 取組の内容

- ① 緑の羽根と白い羽根募金運動
- ② 赤い羽根募金運動
- ③ エコキャップ集め

(3) 掲示やお知らせ

- ① 募金のポスター掲示や呼びかけ 羽根やシールの配付 募金額のお礼とお知らせ
- ② エコキャップは目標量に達成したら業者に預ける予定。ワクチンになるとのこと。

8 成果等

(1) 取組の成果など

- ① 募金をする生徒が多くいて、募金の意識は高いと思う。
- ② 第17回郡山市社会福祉大会にて、感謝状を頂いた。(昨年度)

(2) 生徒の変容など

- ① 募金に対して協力的である。
- ② エコキャップやベルマークへの意識は低くなっていると感じる。

9 SDGsの目標1から17

(1) 図書委員会

(2) 取組の内容

- SDGsの17の目標に関する本を、全校生に紹介する。

(3) 委員会だより等の発行など

- 委員会発行図書だより「読書びより1月号」「読書びより2月号」にて紹介。

(4) おたよりと紹介図書を展示した様子



10 成果等

- (1) 本を探し、紹介するために読みこむことで、図書委員自身がSDGsについて知り、考える機会になった。
- (2) おたより発行後、おたよりと紹介図書を図書室に展示。興味を引かれ、手に取り、借りていく生徒の姿が見られた。

11 SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」に関わる海洋汚染に対する取組

(1) 3年2組 道徳

(2) 取組の内容

- 「よみがえれ日本海」を題材に、ナホトカ号の座礁事故によって流出した重油の回収作業によって、豊かな日本海がよみがえったことを取り上げ、海を大切に思う心、海が大好きだという気持ちを考えて。

(3) タブレットでロイロノートを使って意見を発表



12 成果等

(1) 取組の成果など

- ① お互いに意見を確認し合い、海を大切にする気持ちとはどういうものか、そしてそのために行動する人としての強さを感じ取ることができた。
- ② 人が行動することにより、自然環境を保全することができることを知ることができた。

(2) 生徒の変容など

- ① 奉仕する気持ち、進んで活動する態度を育てたいと思っているが、なかなか至っていない。
- ② 水道の水をしっかりと止める、残った紙で汚れを拭いたり隙間を埋めたりするなどの活動は見られた。

13 SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」

13「気候変動に具体的な対策を」に関わる学級活動での取組

(1) 1年1組 学級活動 「災害シュミレーション」

(2) 取組の内容

* 日本赤十字社のプログラムを参考に授業を行った。

- ① 郡山市内で起こる可能性のある自然災害を挙げ、原因と対応策について考えさせた。
その後、「大槻地区で大地震が起こった」と想定し、緊急避難の際に何を準備するかを話し合った。
- ② カバンの中に入れられる物としては、毛布、本、携帯電話、家族・友達の写真、薬、水、衣類、ゲーム、食料、お金があり、各自優先順位とその理由を考えさせた。
また、防災教室と結びつけて、緊急時の対応について確認をした。



(3) ポスター等の校内掲示

- 現職教育委員の教員が、各学級・特別教室にポスター掲示をし、意識付けを図った。

14 成果等

- (1) 災害発生時に自分の命を守るための行動や、避難する時に必要な物品を考えたことで、災害への備えの必要性や大切さを学ぶことができた。

15 SDGsの目標12「持続可能な生産と消費」に関わる金融経済教育の取組

(1) 3年 総合学習・公民

(2) 取組の内容

- 日本証券業協会の金融経済教材「株式会社を作ろう」による起業とCSRの検討

(3) 作成した発表資料の校内掲示

- 各班のプレゼンテーションに使用した資料を各教室廊下に掲示した。

16 成果等

- (1) 企業WEBページからの具体的なCSR活動を映像で見ることで、班での意見交換が活発になった。

- (2) 具体的な商品開発について調べる中で、環境や人権、福祉の意識を高めることができた。

17 SDGsの啓発指導①

- (1) 1学年生徒を対象に講話を行った。

(2) 取組の内容

- 郡山市の「市政きらめき出前講座」を活用して政策開発課から講師を招き、以下の内容について講話をしていただいた。

講座名 「SDGs（エスディー・ジーズ）ってなに？」

～持続可能なまちづくり～

- ① 国際目標SDGs（持続可能な開発目標）ってなに？
- ② 世界、日本のSDGsに関する取り組み
- ③ 郡山市のSDGsに関する取り組み

(3) 講話の写真



18 成果等

- (1) パワーポイントを使ってわかりやすくお話しただけのため、生徒たちは熱心に聞き、SDGs についての理解を深める様子が見られた。

19 SDGs の啓発指導②

- (1) 3 学年教員による取組

- (2) 取組の内容

- ① SDGs に関するニュースや話題を国内外の視点で取り上げて、記事や写真を廊下に掲示した。取り上げたテーマは生徒に身近なとし、出典されていた記事をより分かりやすい内容に編集した。
- ② 岩手・小岩井農場への修学旅行後は、農場におけるSDGs の取り組みを振り返りなる掲示を行った。
- ③ 3 年英語科でレッドリストの話題が出る単元を学習している期間はそれに関する掲示を行った。

- (3) 記事や写真の掲示

- 記事や写真を3 年フロア廊下に掲示した。

20 成果等

- (1) 掲示物に目をとめる生徒もいたので、SDGs に関心や興味を持ち、意識した生徒もいたと思われる。

21 小中連携事業（新入生体験入学）

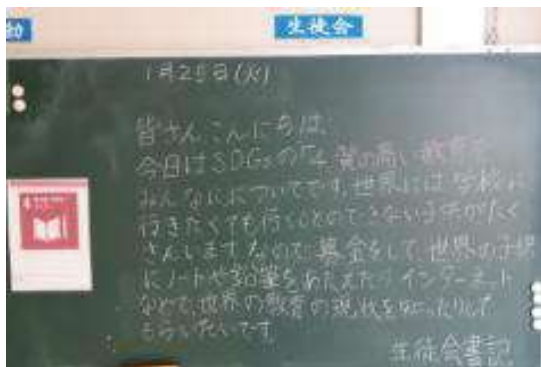
- (1) 生徒会による取組

- (2) 取組の内容

- ① 生徒会役員が、校内に設置された生徒会用の黒板に全校生徒に向けたメッセージを日々記載している。その中にSDGs に関わる内容も盛り込んで、全校生徒のSDGs への意識向上と取組の啓発を行ってきた。
- ② 来年度入学する小学校6 年生を対象に新入生体験入学を実施した。
新入生に対して生徒会役員や部活動部長が中学校生活や部活動について説明したが、今年度は加えて「大槻中生徒会のSDGs の取組」についての発表も行った。

- (3) 写真等

- ① 生徒会用黒板のメッセージ



② 新入生体験入学での発表



22 成果等

- (1) 生徒会が取り組んできたSDGsについて新入生に発表する機会を得、新入生に中学校でのSDGsの取組について理解してもらった機会になった。
- (2) 生徒会にとっては、今年度のSDGsに関する取組を振り返り、次年度の取組を考えるための機会となった。

23 小原田中学校

1 目標12「つくる責任 つかう責任」 食品ロスの取組

- 全学年、給食委員会
- 「残食0」の取り組み

本校では昨年度の給食の残食量が、郡山市給食センターが配食する中学校の中でも比較的多く、改善する必要があった。そこで、生徒一人ひとりの意識を変えていくため、給食委員会が中心となり、「食べ残し0」を目標にして活動を行った。

- 委員会だよりや校内・校外に発信したポスターやちらし など



【 給食川柳 】

腹いっぱい 食べられることに 感謝かな

ありがとう すべてに感謝 いただきます

残食を 減らした人は ヒーローだ

好き嫌い なくして健康 ゲットだぜ

空っぽの 食管見ると うれしいな

- 活動に取り組む写真 など



2 成果

- 記録やアンケート集計 など

郡山市立中学校給食センターの調査で、本校の令和3年度11月給食残食率の報告があったが、副食全体で学校全体の13.7%ほどであった。同じ令和2年度の残食率は20.8%だったので、残食率が7.1%も残食が減った。同年度の6月の残食率14.3%と比べても、約半年で0.6%減少した。

- 児童生徒の変容 など

- ・ 嫌いなものでも食べ残さず、少しでも口をつけようとする生徒が出てきた。
- ・ 当日の体調などを考え、食べる量を調整して、配食の段階で残食が出ないように工夫をするようになった。
- ・ 以前よりも給食を楽しみにしている生徒が増えた。

24 宮城中学校

1 はじめに

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)の重要性が高まっている。「将来の人に負担を残さず、ずっと続けていける社会の実現」については、今までの学校教育でも持続可能な開発のための教育E S D(Education for Sustainable Development)として、気候の変動や生物多様性の喪失、資源の枯渇や大気や海洋汚染など、教科を中心に取り組んできた内容である。

そこでSDGsとして新たな取り組みを始めるのではなく、今までの取り組みとSDGsとの関連を明らかにし、それを意識することでより効果的な取り組みができると考えた。令和3年度の取り組みについてまとめる。

2 SDGsの関連から学校行事を整理

学校経営のグランドデザインにも位置づけられているSDGsの取り組みについて、年度当初の職員会議で、新たな取り組みを始めるのではなく、授業や行事での取り組みとSDGsとの関連を意識し取り組んでいくことを確認した。学校行事等とSDGsの行動目標との関連をまとめると次のようになる。

SDGs 17の目標	校内行事・活動
1 貧困をなくそう	社会科(地理分野)、道徳、理科(科学技術)
2 飢餓をゼロに	家庭科出前授業、栄養教諭派遣事業
3 すべての人に健康と福祉を	奉仕委員会、薬物乱用防止教室
4 質の高い教育をみんなに	ICT活用実践、地域人材活用、芸術鑑賞教室
5 ジェンダー平等を実現しよう	思春期講座、道徳
6 安全な水とトイレを世界中に	理科、社会
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	理科(IT分野を中心に)
8 働きがいも経済成長も	職業講話、修学旅行、上級学校訪問、職場体験
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	情報モリ教育、理科
10 人や国の不平等をなくそう	いじめ防止教室(人権教室)、国際理解教育
11 住み続けられるまちづくりを	地域行事(秋蛸、中田駅伝、海老根和紙)
12 つくる責任つかう責任	木材加工(技術)、海老根和紙
13 気候変動に具体的な対策を	理科(環境分野)
14 海の豊かさを守ろう	理科(環境分野)
15 陸の豊かさも守ろう	技術(栽培学習)、地域行事(海老根和紙)、理科
16 平和と公正をすべての人に	生徒会活動、社会(公民分野)
17 パートナリーシップで目標を達成しよう	小中連携(陸上教室)、国際理解教育、支援校交流

3 SDGs戦略マップ(校長室)の作成

学校行事等とSDGsの行動目標との関連が視覚的に把握できるよう、校長室の壁に戦略マップを作成、掲示した。校長自身が進捗状況を把握できるよう意図したものだが、校長室を訪れる生徒や来客、教職員にも取り組みをフィードバックでき、有効であった。

既存の学校行事だけでなく、新たなアイデアをその都度、付せんで付け足すことで次年度に向

けた取り組みも考えることが出来た。

達成できた実践は画像で掲示することで進捗状況の確認ができた。文化祭での生徒の学習発表は各学年ともSDGsの視点からまとめられており、教職員の指導が表れた。



4 実践の紹介

令和3年度の主な実践について紹介する。

<SDGs 17 パートナーシップで目標を達成しよう>

- ・ 宮城中学校区小中連携の取り組みの一つ、小学生の陸上教室の一場面。
- ・ 今年度より、中学生がアシスタントを務め、日頃自分たちが教わっている内容を小学生に分かりやすく教えるという役割を与えた。
- ・ 自分たちの役割を自覚し、また、小学生の感謝の言葉から責任を果たせた達成感を得られた活動となった。



【小学生陸上教室】

<SDGs 14 海の豊かさを守ろう、他>

- ・ 現職教育で、SDGsと教科との関連で実施した研究授業の一コマ。
- ・ 瀬戸大橋が開通したことで経済的な効果が発生し、生活が便利になった。
- ・ 一般的な見方とは別に、持続可能な社会という視点から、自然環境の保全など様々な視点から考えるきっかけとなった。
- ・ ICを活用し意見集約を行うなど効果的授業となった。



【社会科研究授業から】

<SDGs 8 働きがいも経済成長も、他>

- ・ 郡山市国際政策課より講師を招いての職業講話を行った。
- ・ 海外で働くということをテーマに、SDGs 11のパートナーシップで目標達成とも関連する内容となった。
- ・ 収入を得る以外の働く意義について深く考える行事となった。



【職業講話】

<SDGs 11 住み続けられるまちづくりを、他>

- ・ 地区行事の秋蛍に出品する灯ろう制作を美術の授業で行っている。
- ・ 地区の小、中学校の作品が展示され行事を盛り上げている。
- ・ 中学生が地域の一員であること、地域行事に貢献している意識を高める取り組みである。



<SDGs 5 ジェンダー平等を実現しよう>

- ・ 産婦人科医を招いての思春期講座。思春期の性についての話から、男女の尊重について講話を頂いた。
- ・ 互いの性の尊重について、社会的な役割で男女の違いはあるか? など、生徒は問題意識を持ちながら話を聞くことが出来た。
- ・ 「違いを認め尊重する事が大事」というメッセージを受け止めた生徒が多かった。



【思春期講座】

<SDGs 4 質の高い教育をみんなに>

- ・ 協働的な学びと併せ、個別最適な学びも本年度、力を入れている取り組みである。
- ・ 個人差が大きいという本校の教育課題に対応するため、タブレットを用いた個別最適な学びの実現を目指し実践している。
- ・ MEXCBTを含めた課題の中から自分に合った課題を選択肢取り組んでいる。



【数学の授業から】

<SDGs 4 質の高い教育をみんなに>

- ・ タブレット端末の家庭への持ち帰り学習の実証研究を行った。
- ・ 長期休業中の持ち帰りも実施し、休業中の生活の様子を把握する目的でオンラインの学活、課題への質問に答えるためオンライン授業を実施した。
- ・ 小規模校のメリットを最大限に活かした「寄り添う教育」の実現に向け取り組んでいる。



【英語のオンライン授業】

<SDGs 3すべての人に健康と福祉を、他>

- ・ SDGs 4 質の高い教育をみんなに、SDGs 17 パートナリシップで目標を達成しようにも関連する実践である。
- ・ 選挙について学んだ3年生が講師となり、放課後学習会で1、2年生に授業を行った。
- ・ 政党ごとの公約の違いなどを分かりやすく解説し、「18歳になったら選挙に行こう」のキャッチフレーズで締めくくった。



【3年生による放課後学習会】

<SDGs 15陸の豊かさを守ろう、他>

- ・ SDGs 4 質の高い教育をみんなに、SDGs 11 住み続けられるまちづくりとも関連。
- ・ 海老根和紙保存会より講師をお招きし、技術の栽培学習を兼ね、コウゾの栽培と収穫に全校で取り組んでいる。
- ・ 収穫したコウゾで1年生が総合的な学習で和紙づくりの体験を行い、地域文化を伝承に貢献している。



【技術科、栽培学習】

<SDGs 12つくる責任つかう責任、他>

- ・ 地域在住の外部講師をお招きし、技術の木工製作の授業を行っている。
- ・ 本棚の製作を通して、使いやすさ、安全性、耐久性、デザインなどの面から製品を考える視点を学ぶことができた。
- ・ 地域と連携した取り組みでSDGs 11 住み続けられるまちづくりとも関連。



【技術科、木工学習】

<SDGs 16平和と公正をすべての人に、他>

- ・ 文化祭における学習発表で各学年が総合的な学習を中心に学んだことを発表した。
- ・ 3年、ユニバーサルデザインについて創作劇を交えての発表(SDGs 16)。
- ・ 2年生、未来の自分からのメッセージという設定で仕事について発表(SDGs 8)。
- ・ 1年生、海洋汚染の問題を浦島太郎の劇を交えて発表(SDGs 14)。



【3年生文化祭発表】



【2年生文化祭発表】



【1年生文化祭発表】

<SDGs 10 人や国の不平等をなくそう、他>

- ・ 毎朝の読書活動、道徳教育の充実に力を入れている。
- ・ 思いやりの心の育成、協働の価値形成など、SDGsに関わる土台づくりとして重視。



【図書委員会による朝の図書館開館】



【道徳教育の充実】

<SDGs 11 住み続けられるまちづくりを、他>

- ・ 66年の歴史を誇る地区行事、中田駅伝。運営に携わる方が、かつてはランナーとして走っており、地区に根付く伝統行事である。
- ・ 中学生のがんばりを、沿道での応援で地域が盛り上げており、中学生にとっても地域に支えられている実感を高める機会となっている。
- ・ 夏休みも練習を行うなど、有志によるハンドベル演奏。地区行事の秋螢会場で披露し、楽しみにしてくれている地区の方も多し。地域の一員として、地域を盛り上げる体験は中学生にとって貴重な体験となっている。



【中田駅伝での優勝】



【秋螢でのハンドベル演奏】

<SDGs 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに、他>

- ・ SDGsにおける理科の役割は大きく、環境・自然に関わるSDGs 13 気候変動に具体的な対策を、SDGs 14 海の豊かさを守ろう、SDGs 15 陸の豊かさを守ろう、については関連する気象分野、生態系などの学習で「グローバルな視点で物事を捉える」大切さを指導している。
- ・ 経済分野との関わりになるがSDGs 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンとの関連で、

化石燃料の消費に伴う温室効果ガスの発生、対策としてのクリーンエネルギーなど、代替エネルギーについて持続可能な社会という視点から学習を進めた。

- 科学技術の発展がもたらした豊かな生活。それを支えている有限なエネルギー。環境の開に伴う自然破壊の側面や環境汚染の状況など、日常生活の中に持続可能性を考える機会があることを気づかせ、実践力を高める必要がある。
- 科学への興味、関心を高めることは持続可能な社会実現のための人材育成につながると考える。様々な場面で科学技術の興味関心を高める手立てを講じたい(画像は宇宙ステーションからのライブ授業)。



【JAXA宇宙授業視聴】



【理科の実験の様子】

5 考察

SDGsの戦略図を見える化したことで、教職員の話題になり、そこから実践に結びつくなど効果的であった。「こんな面もSDGsに関係するのか。」といった発見は、何気ない会話から生まれることが多く、ひとつの実践が複数の目標に関連している事への気づきともなった。

多忙化解消や行事の精選が求められる中、SDGsについて、何か新しいことを実施するのではなく、今まで継続してきた実践との関連を明らかにし、指導を意識することで教育効果を高めることができたと考える。今年度の実践の反省から、SDGsの指導のポイントを整理し、次年度の実践につなげていきたい。

17の目標を経済、社会、自然・環境の3つと、それらを包括する視点の合計4つに分けると次のように整理されるそうである(SDGsスタートブック)。

経済	SDGs 7	SDGs 8	SDGs 9	SDGs 10	SDGs 11	SDGs 12
社会	SDGs 1	SDGs 2	SDGs 3	SDGs 4	SDGs 5	SDGs 6
自然・環境	SDGs 13	SDGs 14	SDGs 15			
包括	SDGs 16	SDGs 17				

おおよそのまとまりを意識することで、各教科ごとの関わりが把握しやすくなり、実践に結びつきやすいと考えられる。令和4年度の計画では実効力のある取り組みになるよう努力したい。

25 御館中学校

1 取組

(1) 生徒会各専門委員会

- 具体的な取組について話し合い、活動内容を決め、ポスターの作成掲示などを行った。



(2) 1年 学級活動や総合的の時間

- SDGsについて図書館の書籍で調べ学習。17の目標の中から各自が興味を持ったものを選び、今、世界が抱えている課題や目標達成のための手段を詳しく調べ、各自が三択クイズを作成し出題し合った。



(3) 校長講話（各学級一時間のコマの中で）

- なぜ今SDGsに取り組むのか。

「SDGsは人ごとではない。今やらないとみんなが大人になったときに住みにくい地球・生きにくい社会になってしまう。小さな事でもできることから始めないと…。

みんなに何ができるか？」

2 成果

- 上の(1)～(3)の取組を行った結果、生徒たちは、多くの問題を知り、驚いている様子も窺えたがそれぞれにさまざまな縛りがあり、ゴールにたどり着くことは簡単でないことも理解したと同時に、自分たちの未来のために、できることをやらなくては、という気持ちも芽生えたようだった。

義務教育学校編

1 西田学園

1 「SDGsを西田の子どもたちから」 SDGsの啓発の在り方

○ 具体的な取組

・学校ホームページでの啓発

SDGsと関連する教育活動の実践を、アイコンと一緒に学校のホームページに掲載することで、児童生徒SDGsへの理解を深めると共に、教職員は、SDGsを意識した教育活動を実践することができた。

・各種たよりに各アイコンを明示

学年だよりや給食だよりなど各種便りにアイコンを明示することにより、学校ホームページと同様、児童生徒SDGsへの理解を深めると共に、教職員は、SDGsを意識した教育活動を実践することができた。



・SDGsコーナーを廊下に設置することによる啓発と振り返り

校長室前廊下にSDGs紹介コーナーを設置し、SDGsとの関連を視覚的にわかりやすく表示することで、低学年でも興味を持って学習の振り返りができるように工夫した。また、授業参観時などを活用し、保護者への案内を行った。



2 啓発の成果

○ 76%の教職員が、SDGsを意識した教育活動を推進できたと回答している。また、ホームページのアクセス数は、月平均500を超えることから、本校の教育活動に対する保護者の期待の高さがうかがえると共に、SDGsの啓発の一助にもなったと考える。

○ 学年だよりや給食だよりなど各種便りにアイコンを明示することにより、学校ホームページと同様、児童生徒がSDGsへの理解を深めると共に、教職員は、SDGsを意識した教育活動を実践することができた。また、保護者にSDGsを広く啓発する手段として活用できた。

3 目標7 「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」

目標13「気候変動に具体的な対策を」 環境・防災・エネルギーについて考える

○ 対象学年 6学年 「Fukushima27」

○ 具体的な取組、活動内容 など

- ・ Fukushima27 は現在の6年生が、4年生から実施している総合的な学習の時間を核とした各教科等横断的な学習の総称である。
- ・ 4年生時はホタルの飼育体験から西田の自然について学習し、地域の自然を通じて、気候変動や環境保全の重要性を考えるきっかけとしてきた。
- ・ 5年生時は、生き物の多様性、多様性を保証する川の環境、水害と防災、環境に配慮した防災インフラの整備、グリーンインフラとグレーインフラ、10年目の3.11に自然と人間の共生を考える、そして共生へと探究を継続してきた。
- ・ 6年生の今年度は、外部講師（㈱東北村田製作所）による電池づくりを通してエネルギーについて考える授業と人感センサー、温度センサーなど様々な機能をプログラミングし効率的な電気の使い方について学ぶ授業を実践した。また、東日本大震災・原子力災害伝承館の見学と語り部による講話、榎葉遠隔技術センターの見学を通して、廃炉作業に向けて学ぶとともに、身近な電気エネルギーについて学んだ。
- ・ 児童は、ステークホルダーとの連携のもと、各学年に応じた探究を行うことで、SDGsの基礎を習得するきっかけとしている。

○ 活動に取り組む写真 など



【電池づくりを通してエネルギーを考える】



【プログラミングを通して
効率的な電気の使い方を学ぶ】

4 成果

○ 児童の変容

- ・ 4年生時のホタルの飼育に始まり、田植え、稲刈り体験、川や田んぼの生き物調査など地域の自然を通して、環境保全の重要性を考えるきっかけとなった。5年生時には、水害の経験から防災への意識、自然と人間の共生について学びを深めた。そして、6年生時には、福島県における震災・原子力災害の現状とエネルギー環境について学んだ。これらの学習を通して、地球環境問題への課題意識が高まると共に、今自分たちができることは何かについて考え、こまめな消灯をはじめ、実践可能なことに取り組んだり、それを広く発信したりしていこうとする児童の姿が多く見られるようになった。

2 湖南小中学校

1 SDGsに関する学習での取り組み（第5学年）

(1) 国語科の学習での取り組み

○ 単元：みんなが過ごしやすい町へ

「みんなが過ごしやすい町へ」という単元名を「SDGsを利用して、みんなが住みやすい地球へ」と変更し、みんなが住みやすい地球にするために大切だと思う目標について調べ、調べて分かったことや考えたことを報告する文章にまとめた。この学習から総合的な学習の時間へとつなげていった。



(2) 総合的な学習の時間での取り組み

① 1年間を通して、SDGsについて調べ考え表現するなどの学習を行った。

② 「SDGsすごろくを作る」を単元目標とし、1・2学期でSDGsについての知識や考えを深め、3学期に「SDGsすごろく」を作成することができた。

○ 1学期：SDGsって何だろう？

SDGsという言葉は聞いたことがあるが、どういうことなのかを知らなかったので、まずSDGsの意味や活動について考えた。意味などを理解した上で、国語科と合科的に取り組む中で、自分が大切だと思う目標について調べたり、考えたりしながら、17の目標について理解を深めることができた。



○ 2学期：SDGsってどんな取り組み？

2学期は、「どうして17の目標ができたのか」、「日本や世界では、どのような取り組みがされているのか」、「自分にはどのような取り組みができるのか」の3本柱で学習を進めた。

世界が抱える問題から自分なりに考える活動を行い、17の目標を達成するために、日本や世界で行われている取り組みから自分ならどれができるかについて考える活動を行った。



○ 3学期：SDGsすごろく作り（現在、作成中）

3学期は、1・2学期学習したことを基に、SDGsのすごろく作りを行った。まず、どのようなすごろくにしたいのか、どのようなマスが必要かについて話し合い、マスの内容やデザインを考えた。マスに関係する写真や17の目標のイラストなどを入れながらマスを仕上げた。ロイロノート上ですごろくを作り、出来上がったなら学年内だけでなく、全校生にも触れてもらいSDGsを広められるように、資料箱に保存しておく予定である。



2 成果

① SDGsへの関心が高まり、授業中世界や日本のニュースの話題や発言が増えた。

② 1年間を通してSDGsについて考えてきたことで、SDGsに関連させながら物事を考えるようになり、自分ができるSDGsの取り組みをしようとする姿が多く見られるようになった。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

